

## トウゴロウイワシ目 Order Atheriniformes

### トウゴロウイワシ科 Family Atherinidae Risso 1827

#### ヤクシマイワシ属 Genus *Atherinomor*us Fowler 1903

##### ヤクシマイワシ

##### *Atherinomor*us *lacunosus* (Forster 1801)

インドー西太平洋の熱帯域から亜熱帯域に分布。国内では三重県以南の太平洋沿岸、南西諸島および小笠原諸島に分布。本種を含むヤクシマイワシ属魚類は体高が高いこと、歯骨上縁後端に突起をもたないことなどによりトウゴロウイワシ属やギンイソイワシ属魚類から区別される。岩礁帯などの沿岸浅所で見られるほか、汽水域にも出現する。三重県からは志摩半島の定置網により混獲さ



ヤクシマイワシ *Atherinomor*us *lacunosus*, FRLM 42469, 69 mm SL  
志摩市志摩町御座

れた標本が得られている。

(松尾 伶)

#### トウゴロウイワシ属 Genus *Doboatherina* Sasaki & Kimura 2019

##### トウゴロウイワシ

##### *Doboatherina* *bleekeri* (Günther 1861)

北西太平洋（日本、韓国、中国、ベトナム北部）に分布。国内では北海道南部から鹿児島県にかけて分布。肛門が倒した腹鰭の先端より前方に位置すること、体が側扁すること、歯骨上後端の隆起が発達すること、体背面および体側面の鱗の後縁が円鋸歯状であること、縦列鱗数が41–46、総脊椎骨数が42–47である



トウゴロウイワシ *Doboatherina* *bleekeri*, FRLM 37118, 69 mm SL, 志摩市志摩町御座

ことなどによって、同属他種と区別可能である。

(阿部公哉)

#### ギンイソイワシ属 Genus *Hypoatherina* Schultz 1948

##### ギンイソイワシ

##### *Hypoatherina* *tsurugae* (Jordan & Starks 1901)

日本および韓国南部から確認されている。福井県および神奈川県以南、鹿児島県以北に分布する。前上顎骨上向突起は細長く、その最大幅の3倍以上であること、腋鱗の後縁が後方へ伸長しないこと、縦列鱗数が42–46、総脊椎骨数が43–47であることなどによって同属他種と区別可能。本種はしばしばトウゴロウイワシ *Doboatherina* *bleekeri* (Günther 1861) と混同されるが、体が円筒形



ギンイソイワシ *Hypoatherina* *tsurugae*, FRLM 33390, 102 mm SL, 英虞湾内座賀島

であること（トウゴロウイワシは側扁する）、肛門が倒した腹鰭の先端より後方に位置すること（前方に位置する）などによって区別される。

ただし、本種も小型個体（ $\leq 40$  mm SL）では肛門が倒した腹鰭の先端付近に位置する場合がある。

(阿部公哉)

## ナミノハナ科 Family Isonidae Rosen 1964

### ナミノハナ属 Genus *Iso* Jordan & Starks 1901

#### ナミノハナ *Iso flosmaris* Jordan & Starks 1901

太平洋北西部の温帯域に分布。国内では新潟県から沖縄県に分布する。波当たりの強い、岩礁性の海岸に多くみられる。体は著しく側扁し、体高は頭部直後で最大。体側には幅広い銀白色縦帯が走る。腹部正中線には隆起線がある。（阿部公哉）



ナミノハナ *Iso flosmaris*, FRLM 54568, 60 mm SL, 英虞湾内座賀島

## ムギイワシ科（新称） Family Atherionidae Schultz 1948

### ムギイワシ属 Genus *Atherion* Jordan & Starks 1901

#### ムギイワシ *Atherion elymus* Jordan & Starks 1901

西太平洋の熱帯域から温帯域に分布。国内では千葉県房総半島以南の太平洋沿岸、山口県日本海側、南西諸島および小笠原諸島に分布。頭部に小棘列が並ぶことで他のトウゴロウイワシ科魚類から区別されるが肉眼では確認しにくい。三重県では熊野灘以南の波当たりの強い岩礁性海



ムギイワシ *Atherion elymus*, FRLM 40925, 43 mm SL, 英虞湾内座賀島

岸や砂浜域でよく見られる。小型種で通常食用としない。（松尾 伶）

## ダツ目 Order Beloniformes

### サンマ科 Family Scomberesocidae Bleeker 1858

#### サンマ属 Genus *Cololabis* Gill 1896

#### サンマ *Cololabis saira* (Brevoort 1856)

朝鮮半島東岸から北米西岸バハカリフォルニアに至る北太平洋に広く分布する。国内では北海道から屋久島にかけて分布。体は一樣に銀白色を呈し、背面は濃青色。熊野灘においても、冬季から春季にかけて南下



サンマ *Cololabis saira*, FRLM 40531, 270 mm SL, 志摩市志摩町片田

回遊群が棒受網や定置網等によって漁獲される。産卵を終えた個体がほとんどであり、丸干やさんま寿司な

どに加工され、県内で古くから親しまれていたが、近年三重県ではほとんど漁獲されていない。（阿部公哉）

## ダツ科 Family Belonidae Bonaparte 1835

### ハマダツ属 Genus *Ablennes* Jordan & Fordice 1887

#### ハマダツ *Ablennes hians* (Valenciennes 1846)

全世界の熱帯から温帯域に分布。国内では北海道から九州南岸にかけて分布。体側には複数の暗色横帯がみられるが、不明瞭な個体も多い。横帯は通常尾部にかけて、より明瞭で



ハマダツ *Ablennes hians*, FRLM 33433, 547 mm SL, 志摩市志摩町御座

ある。日本産同属他種とは尾柄部に隆起線をもたないこと、側線が胸鰭基部に向かって分枝しないことなど

によって区別可能。（阿部公哉）



## ヒメダツ属 Genus *Platybelone* Fowler 1919

### ヒメダツ

#### *Platybelone argalus platyura* (Bennett 1832)

インド洋北西部を除くインドー太平洋の熱帯域に分布。国内では伊豆諸島以南に分布する。本個体は本種の国内における北限記録である。尾柄部に隆起線をもつ。同じく尾柄部に隆起線をもつリュウキュウダツ *Strongylura incisa* (Valenciennes



ヒメダツ *Platybelone argalus platyura*, FRLM 61748, 309 mm SL, 尾鷲市

1846), オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* (Péron & Lesueur 1821) とは、尾柄部が縦扁すること

によって区別可能。全長 50 cm 程の小型種である。本個体は尾鷲市の定置網に入網した。(阿部公哉)

## ダツ属 Genus *Strongylura* van Hasselt 1824

### ダツ

#### *Strongylura anastomella* (Valenciennes 1846)

西太平洋の温帯域に分布。国内では北海道から九州南岸にかけて分布。本書記載のダツ科魚類のうち、本種、ハマダツ *Ablennes hians* (Valenciennes 1846), リュウキュウダツ *Strongylura incisa* (Valenciennes 1846) は尾柄部側面に隆起線をもたず、テンジクダツ *Tylosurus acus*



ダツ *Strongylura anastomella*, FRLM 40450, 743 mm SL, 志摩市志摩町御座

*melanotus* (Bleeker 1850), ヒメダツ *Platybelone argalus platyura* (Bennett 1832), オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* (Péron & Lesueur 1821) は隆起線をもつ。同属のリュ

ウキュウダツとは、鰓蓋中央部に鱗をもたないこと（リュウキュウダツは有鱗）、頭部の鱗が小さいこと（大きい）によって区別可能。

(阿部公哉)

### リュウキュウダツ *Strongylura incisa* (Valenciennes 1846)

インドー西太平洋の熱帯から亜熱帯域に分布する。国内では三重県以南に分布。従来は奄美群島以南でのみ分布が確認されていたため、本標本は本種の北限記録並びに本州初記



リュウキュウダツ *Strongylura incisa*, FRLM 31837, 631 mm SL, 志摩市志摩町御座

録である。尾柄部に隆起線をもたないこと、鰓蓋中央部に鱗をもつことなどによって日本産同属他種と区別

可能。本標本は志摩市の定置網で漁獲された。(阿部公哉)

## テンジクダツ属 Genus *Tylosurus* Cocco 1833

### テンジクダツ

#### *Tylosurus acus melanotus* (Bleeker 1850)

インド・太平洋の熱帯域から温帯域にかけて広く分布する。国内では青森県から琉球列島にかけて広く分布する。尾柄部は側扁し、隆起線をもつ。本種は同属のオキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus* (Péron



テンジクダツ *Tylosurus acus melanotus*, FRLM 61752, 522 mm SL, 尾鷲市

& Lesueur 1821) とよく似るが、前鰓蓋骨前部に暗青色の横帯をもたないこと（オキザヨリは生時、横帯をもつ）、背鰭軟条数が 24-27 であるこ

と (21-24)、臀鰭軟条数が 22-24 であること (19-22) などによって区別される。(阿部公哉)

### オキザヨリ

#### *Tylosurus crocodilus crocodilus* (Péron & Lesueur 1821)

東太平洋を除く世界中の熱帯から温帯域にかけて分布する。国内では津軽海峡以南の各地に分布する。東太平洋には別亜種の *Tylosurus crocodilus fodiator* (Jordan & Gilbert 1821) が分布する。生時、前鰓蓋骨前部に暗青色の横帯がみられるが、



オキザヨリ *Tylosurus crocodilus crocodilus*, FRLM 31836, 501 mm SL, 志摩市志摩町御座

死後は不明瞭になることが多い。尾柄部は側扁し、隆起線をもつ。外見がよく似たテンジクダツ *Tylosurus*

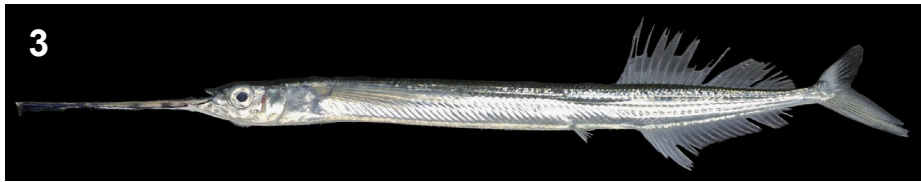
*acus melanotus* (Bleeker 1850) との違いは前述のとおり。(阿部公哉)

## サヨリ科 Family Hemiramphidae Gill 1859

### トウザヨリ属 Genus *Euleptorhamphus* Gill 1859

#### トウザヨリ *Euleptorhamphus viridis* (van Hasselt 1823)

紅海, アフリカ南岸・東岸からイースター島, ピョートル大帝湾, 日本, ニューカレドニアに至るインド-太平洋, およびカリフォルニア南部からペルーに至る東部太平洋, 日本で



トウザヨリ *Euleptorhamphus viridis*, FRLM 51100, 313 mm SL, 志摩市志摩町御座

は琉球列島から千葉県・佐渡島に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網などで漁獲される。胸鰭が頭長よりも長く, 8-9 軟条。(木村清志)

### ホシザヨリ属 Genus *Hemiramphus* Cuvier 1816

#### ホシザヨリ *Hemiramphus far* (Fabricius 1775)

紅海, アフリカ南岸・東岸からトンガ, 韓国, 日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋。スエズ運河を通じて地中海東部にも分布している。三重県では熊野灘の定置網な



ホシザヨリ *Hemiramphus far*, FRLM 42419, 204 mm SL, 志摩市志摩町御座

で漁獲されている。体背側面に数個の黒色斑がある。(木村清志)

#### ナンヨウサヨリ *Hemiramphus lutkei* Valenciennes 1847

アフリカ東岸からサモア, 日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋。日本では琉球列島から岩手県, 京都府に分布する。三重県では熊野灘の定置網などで漁獲されている。



ナンヨウサヨリ *Hemiramphus lutkei*, FRLM 36836, 180 mm SL, 志摩市志摩町御座

胸鰭は頭長よりも短い, 吻背面は無鱗, 体背側面に斑紋がない。(木村清志)

### サヨリ属 Genus *Hyporhamphus* Gill 1859

#### マルサヨリ *Hyporhamphus dussumieri* (Valenciennes 1847)

モザンビーク海峡から日本, オーストラリアに至るインド-西太平洋。日本では琉球列島から三重県, 三重県では志摩市志摩町御座の定



マルサヨリ *Hyporhamphus dussumieri*, FRLM 16025, 142 mm SL, 志摩市志摩町御座

置網で漁獲された。尾鰭は深く湾入する, 上顎は短くその幅の 0.5-0.85 倍, 下顎は頭長より長い, 臀鰭軟条 14-17。(木村清志)

#### クルマサヨリ *Hyporhamphus intermedius* (Cantor 1842)

ベトナム北部から台湾, 韓国, 日本の北西太平洋。日本では長崎県から青森県に分布。主に河川下流域, 内湾汽水域などに生息する。淡水域にも進入する。三重県では英虞湾



クルマサヨリ *Hyporhamphus intermedius*, FRLM 49147, 112 mm SL, 愛知県

内や松阪市の河川下流域で採集された。尾鰭は浅く湾入する, 下顎は頭長よりも長い。準絶滅危惧。(木村清志)

#### サヨリ *Hyporhamphus sajori* (Temminck & Schlegel 1846)

中国東シナ海, 黄海, 渤海沿岸, 朝鮮半島, 日本, ピョートル大帝湾。日本では鹿児島県から北海道に分布する。熊野灘, 伊勢湾沿岸に生息する。尾鰭は浅く湾入する, 下顎は頭



サヨリ *Hyporhamphus sajori*, FRLM 33392, 110 mm SL, 英虞湾内座賀島

長よりも短い。(木村清志)



**ユリサヨリ**  
***Hyporhamphus yuri***  
**Collette & Parin 1978**

台湾と日本。日本では沖縄県から三重県に分布。三重県では南伊勢町の定置網で1個体が採集された。尾鰭は深く湾入する、上顎は長くその



ユリサヨリ *Hyporhamphus yuri*, FRLM 58322, 111 mm SL, 南伊勢町賛浦  
 幅の0.85-1.0倍、尾鰭軟条17-19.  
 (木村清志)

**トビウオ科 Family Exocoetidae Risso 1827**

**ハマビウオ属 Genus *Cypselurus* Swainson 1838**

**トビウオ**  
***Cypselurus agoo***  
**(Temminck & Schlegel 1846)**

中国東シナ海、黄海沿岸、朝鮮半島、日本、ピョートル大帝湾。日本では沖縄県から北海道に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網などで漁獲される。胸鰭は斑紋がなく、痕跡的な第1軟条を含めて第3軟条までが不分枝。最近の文献ではハマトビウオ属を *Chypselurus* と *Cheilopogon* Lowe 1841 に分けることが多く、本村 (2025) でも本属を2属に分けている。しかし、藍



トビウオ *Cypselurus agoo*, FRLM 36701, 241 mm SL, 志摩市志摩町御座

澤・土居内 (2013) はこの2属の分離には問題が多いとして、2属に分けることは行わなかった。本書でも2属に分けることは行わず、本科各

種の学名はアヤトビウオ *Cypselurus poecilopterus crassus* Shakhovskoy & Parin 2022 を除き、藍澤・土居内 (2013) にしたがった。(木村清志)

**カラストビウオ**  
***Cypselurus cyanopterus***  
**(Valenciennes 1847)**

全世界の熱帯・亜熱帯域。日本では琉球列島から三浦半島および若狭湾に分布する。三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲された。背鰭に黒斑がある、胸鰭は生時青黒色、固定後黒色で中央部に透明域がない、背鰭前方鱗数35-40。(木村清志)



カラストビウオ *Cypselurus cyanopterus*, FRLM 41864, 257 mm SL, 熊野灘

**ツクシトビウオ**  
***Cypselurus doederleinii***  
**(Steindachner 1887)**

日本、朝鮮半島、ピョートル大帝湾。日本では鹿児島県から北海道に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網でよく漁獲される。胸鰭は暗色半透明で下縁に透明域がある、側線鱗数52-57、背鰭前方鱗数30-35、胸鰭は大きく、後端は背鰭基底後端を越える。(木村清志)



ツクシトビウオ *Cypselurus doederleinii*, FRLM 36232, 262 mm SL, 志摩市志摩町御座

**シロフチトビウオ**  
***Cypselurus furcatus***  
**(Mitchill 1815)**

全世界の熱帯・亜熱帯域。日本では琉球列島から岩手県。三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲された。背鰭に黒斑がない、胸鰭は暗色で中央部に透明域がある、腹鰭基底は鰓蓋後縁-尾鰭下葉始部間のほぼ中央かそれより前方に位置する。(木村清志)



シロフチトビウオ *Cypselurus furcatus*, FRLM 63377, 184 mm SL, 尾鷲市

**ホソトビウオ**  
***Cypselurus hiraii***  
**Abe 1953**

日本，韓国．日本では九州から北海道に分布する．三重県では熊野灘沿岸の定置網で多く漁獲される．胸鰭は暗色半透明で下縁に透明域がある，側線鱗数 51–55，背鰭前方鱗数 31–35，胸鰭後端は背鰭基底後端に達しない．（木村清志）



ホソトビウオ *Cypselurus hiraii*, FRLM 28082, 187 mm SL, 志摩市志摩町御座

**ウチダトビウオ**  
***Cypselurus naresii***  
**(Günther 1889)**

アフリカ東岸からマルキーズ諸島，日本，フィジーに至るインド-西太平洋．日本では鹿児島県から神奈川県に分布する．三重県では志摩市志摩町の定置網や南伊勢町田曾浦沖で漁獲された．胸鰭は暗色半透明で下縁は透明，中央部に透明域はない，側線鱗数 45–48，背鰭前方鱗数 28–32，背鰭基底長は体長の 19.0–22.4%．（木村清志）



ウチダトビウオ *Cypselurus naresii*, FRLM 38874, 179 mm SL, 南伊勢町田曾浦沖

**ハマトビウオ**  
***Cypselurus pinnatibarbus***  
***japonicus* (Franz 1910)**

日本，朝鮮半島，ピョートル大帝湾．日本では鹿児島県から北海道に分布する．三重県では熊野灘の定置網や巻網で漁獲される．胸鰭は暗色半透明，側線鱗数 61–68，背鰭前方鱗 40–47．大型になる．（木村清志）



ハマトビウオ *Cypselurus pinnatibarbus japonicus*, FRLM 40256, 369 mm SL, 尾鷲市

**アヤトビウオ**  
***Cypselurus poecilopterus crassus***  
**Shakhovskoy & Parin 2022**

台湾，日本．日本では琉球列島から北海道に分布．三重県では熊野灘沿岸の定置網で漁獲される．胸鰭に暗色の斑点があり，斑点以外の鰭膜は黄色みを帯びた淡色．（木村清志）



アヤトビウオ *Cypselurus poecilopterus crassus*, FRLM 32361, 176 mm SL  
 志摩市志摩町御座

**アリアケトビウオ**  
***Cypselurus starksi***  
**Abe 1953**

ベトナム，中国，台湾，韓国，日本の北西太平洋．日本では鹿児島県から伊豆半島，佐渡島に分布する．三重県では熊野灘沿岸の定置網で漁獲される．胸鰭はほぼ全体が黒色，側線鱗数 53–56，背鰭前方鱗数 30–35．（木村清志）



アリアケトビウオ *Cypselurus starksi*, FRLM 42140, 145 mm SL, 志摩市志摩町御座



**オオメナツトビ**  
***Cypselurus unicolor***  
**(Valenciennes 1847)**

西インド洋のマスカリン諸島、フィリピンからハワイ諸島、日本、オーストラリア、マルキーズ諸島の西部および中央太平洋、東太平洋のレビジャヒヘド諸島。日本では琉球列島から伊豆半島。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。胸鰭鰭膜は縁辺を除いて灰色を帯びた乳白色。

(木村清志)



オオメナツトビ *Cypselurus unicolor*, FRLM 57879, 172 mm SL, 熊野灘

**イダテントビウオ属 Genus *Exocoetus* Linnaeus 1758**

**ハゴロモトビウオ**  
***Exocoetus monocirrhus***  
**Richardson 1846**

アフリカ南岸・東岸からハワイ諸島、日本、オーストラリアに至るインド太平洋、バハカリフォルニアからペルー、ガラパゴス諸島に至る東部太平洋、大西洋のセントヘレナ島。日本では琉球列島から神奈川県に分布する。三重県では熊野灘で幼魚が採集された。側線胸部分枝がない。



ハゴロモトビウオ *Exocoetus monocirrhus*, FRLM 38614, 126 mm SL, 西表島

い、腹鰭は短く臀鰭始部に達しない、と後半が透明、側線上方鱗列数 7-8。胸鰭は先端を除く前半が暗色、先端

(木村清志)

**イダテントビウオ**  
***Exocoetus volitans***  
**Linnaeus 1758**

全世界の熱帯域から温帯域。日本では沖縄県から茨城県。三重県では志摩市志摩町御座で採集された。側線胸部分枝がない、腹鰭は短く臀鰭始部に達しない、胸鰭は第 6-7 軟条までは黒く、他は透明、側線上方鱗列数 6-7。



イダテントビウオ *Exocoetus volitans*, FRLM 15420, 185 mm SL, 奄美大島東沖

**ニノジトビウオ属 Genus *Hirundichthys* Breder 1928**

**ホソアオトビ**  
***Hirundichthys oxycephalus***  
**(Bleeker 1853)**

ミャンマーからパプアニューギニア、韓国、日本の東インド洋から西太平洋。日本では琉球列島から宮城県、秋田県に分布する。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。臀鰭始部は背鰭第 3 軟条基底より前方に位置する、胸鰭は縁辺を除き暗色で第



ホソアオトビ *Hirundichthys oxycephalus*, FRLM 45648, 95 mm SL, 熊野灘

1, 2 軟条が不分枝 (第 1 軟条は痕跡 的)。

(木村清志)

**ニノジトビウオ**  
***Hirundichthys speculiger***  
**(Valenciennes 1847)**

全世界の熱帯から暖海域。日本では琉球列島から三重県。三重県では熊野灘の巻網で漁獲された。臀鰭始部は背鰭第 3 軟条基底より前方に位置する、胸鰭は暗色で中央部に三角形の透明域がある、第 1, 2 軟条が不分枝 (第 1 軟条は痕跡的)。

(木村清志)



ニノジトビウオ *Hirundichthys speculiger*, FRLM 57265, 156 mm SL, 熊野灘

## サヨリトビウオ属 Genus *Oxyporhamphus* Gill 1864

### サヨリトビウオ

*Oxyporhamphus micropterus micropterus* (Valenciennes 1847)

アメリカ、フロリダ州からブラジル北東部の西大西洋、アフリカ東岸からトンガに至るインドー太平洋、カリフォルニア湾からペルー、ガラパゴス諸島の東太平洋、日本では沖縄県から岩手県、新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網で漁獲された。腹鰭に淡色域がある。準

4



サヨリトビウオ *Parexocoetus micropterus micropterus*, FRLM 10970, 85 mm SL  
三重県

絶滅危惧。別亜種の *Oxyporhamphus micropterus similis* Bruun 1935 はセネガルからアンゴラの東部太平洋に分布する。(木村清志)

## ツマリトビウオ属 Genus *Parexocoetus* Bleeker 1865

### ツマリトビウオ

*Parexocoetus brachypterus* (Richardson 1846)

アフリカ東岸からハワイ、日本、トンガに至るインドー太平洋、バハカルフォルニアからエクアドルに至る東太平洋、日本では琉球列島から房総半島、若狭湾に分布する。三重県では熊野灘の定置網で混獲される。側線胸部分枝がある、胸鰭はほぼ透明。(木村清志)

3



ツマリトビウオ *Parexocoetus brachypterus*, FRLM 65122, 108 mm SL  
御浜町阿田和沖

### バショウトビウオ

*Parexocoetus mento mento* (Valenciennes 1847)

アフリカ東岸からフィジー、日本、オーストラリアに至るインドー西太平洋、スエズ運河を通じて地中海にも分布している。日本では琉球列島から神奈川県に分布する。三重県では熊野灘沿岸の定置網などで漁獲されている。側線胸部分枝がある、胸鰭に暗色部がある。別亜種の *Parexocoetus mento atlanticus* Bruun 1933 はアフリカ北西部の東大西洋に分布する。(木村清志)

3



バショウトビウオ *Parexocoetus mento mento*, FRLM 46377, 96 mm SL  
志摩市志摩町御座

## ダルマトビ属 Genus *Prognichthys* Breder 1928

### ザカトビウオ

*Prognichthys brevipinnis* (Valenciennes 1847)

東アフリカからフィジー、日本、パプアニューギニアに至るインドー西太平洋、日本では鹿児島県から北海道に分布。三重県では志摩市志摩町御座の定置網で1個体が採集された。臀鰭始部は背鰭第3軟条下あるいはそれより後方に位置し、胸鰭第1から4軟条が不分枝（第1軟条は痕跡的）。(木村清志)

5



ザカトビウオ *Prognichthys brevipinnis*, FRLM 16002, 151 mm SL, 志摩市志摩町御座  
(固定標本)



## トビウオ科 胸鰭



カラストビウオ *Cypselurus cyanopterus*  
FRLM 40552, 123 mm SL, 南伊勢町豊浦  
(右側)



ウチダトビウオ *Cypselurus naresii*  
FRLM 38718, 172 mm SL, 徳之島沖(左側)



オオメナツトビ *Cypselurus unicolor*  
FRLM 57879, 172 mm SL, 熊野灘 (左側)



ホソアオトビ *Hirundichthys oxycephalus*  
FRLM 53137, 169 mm SL, 沖縄県 (左側)



バショウトビウオ  
*Parexocoetus mento mento*, FRLM 46377  
96 mm SL, 志摩市志摩町御座 (左側)



ツクシトビウオ *Cypselurus doederleinii*  
FRLM 57262, 250 mm SL, 熊野灘 (左側)



アヤトビウオ *Cypselurus poecilopterus*  
*crassus*, FRLM 56466, 157 mm SL  
ベトナム (左側)



イダテントビウオ *Exocoetus volitans*  
FRLM 15420, 185 mm SL, 奄美大島東沖  
(左側)



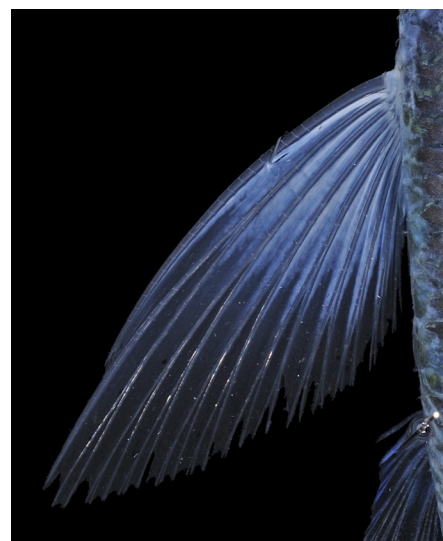
ニノジトビウオ  
*Hirundichthys speculiger*, FRLM 57265  
156 mm SL, 熊野灘 (左側)



シロフチトビウオ *Cypselurus furcatus*  
FRLM 63377, 184 mm SL, 尾鷲市 (左側)



アリアケトビウオ *Cypselurus starksi*  
FRLM 42140, 145 mm SL,  
志摩市志摩町御座 (左側)



ツマリトビウオ  
*Parexocoetus brachypterus*, FRLM 65122  
108 mm SL, 御浜町阿田和沖 (左側)

## メダカ科 Family Adrianichthyidae Weber 1913

### メダカ属 Genus *Oryzias* Jordan & Snyder 1906

#### ミナミメダカ

#### *Oryzias latipes*

(Temminck & Schlegel 1846)

日本固有種。自然分布は岩手県以南の本州太平洋側，京都府以西の本州日本海側，四国，九州，琉球列島。流れの緩やかな河川，水路，水田，池沼に生息する。三重県は比較的生息地点・個体数とも多かったが，近年減少傾向。ヒメダカなど改良品種の放流による交雑も深刻。キタノメダカ *Oryzias sakaizumii* Asai, Senou and Hosoya 2012 とは，尾鰭基底に白色の三日月斑があること，体側の網目状の黒斑を持たないこと，オスの背鰭の欠刻が深いことなどで区別できる。環境省絶滅危惧Ⅱ類

(淀 太我)



ミナミメダカ *Oryzias latipes*  
上 ♂, FRLM 52673, 23 mm SL  
下 ♀, FRLM 52674, 24 mm SL  
三重県

## カダヤシ目 Order Cyprinodontiformes

### カダヤシ亜目 Suborder Cyprinodontoidei

## カダヤシ科 Family Poeciliidae Bonaparte 1831

### カダヤシ属 Genus *Gambusia* Poey 1854

#### カダヤシ

#### *Gambusia affinis*

(Baird & Girard 1853)

国外外来種。原産地は北アメリカ大陸南部。福島県以南の本州，四国，九州，琉球列島の淡水域から汽水域に侵入している。三重県内でも2000年以降急速に拡大している。形態はメダカ属に一見類似するが，尾鰭後縁が丸く，背鰭が体の中央よりやや後ろに位置すること，臀鰭が短く，基底後端が背鰭より前に位置することによって区別できる。体内受精を行い，仔魚を産むため，オスの臀鰭は交接器に変化している。特定外来生物。

(淀 太我)



カダヤシ *Gambusia affinis*  
上 ♂, FRLM 50833, 19 mm SL  
下 ♀, FRLM 50832, 31 mm SL  
津市三重大学内



## カワスズメ目 Order Cichliformes

## カワスズメ科 Family Cichlidae Bonaparte 1835

カワスズメ属 Genus *Oreochromis* Günther 1889

ナイルティラピア  
*Oreochromis niloticus*  
(Linnaeus 1758)

国外外来種。原産地はイスラエルおよびアフリカナイル川流域からエチオピア、タンガニーカ湖、西アフリカ等。国内では琉球列島や小笠原諸島をはじめ、北海道から九州においても温排水が流入する水路や湖沼などで定着している。形態的に類似するカワスズメ *Oreochromis mosambicus* (Peters 1852) とは尾鰭に細い横帯があることや体側に8-10本の横帯があることなどで区別できるが、両者は容易に交雑することが知られており、両種が侵入している琉球列島などでは区別は困難。

(淀 太我)



ナイルティラピア *Oreochromis niloticus*, FRLM 63307, 103 mm SL, 桑名市長島町

## ボラ目 Order Mugiliformes

## ボラ科 Family Mugilidae Jarocki 1822

オニボラ属 Genus *Ellochelon* Whitley 1930

オニボラ  
*Ellochelon vaigiensis*  
(Quoy & Gaimard 1825)

インドー太平洋（紅海とハワイ諸島を除く）に分布し、国内では相模湾以南から採集されている。三重県では熊野灘から採集されているが、当歳魚とみられる幼魚のみ。第1背鰭と胸鰭は幼魚も含め黒色。体は太短く、断面は角張る。縦列鱗数は25-29。

(日比野友亮)



オニボラ *Ellochelon vaigiensis*, FRLM 43795, 35 mm SL, 津市白塚町

タイワンメナダ属 Genus *Moolgarda* Whitley 1945

フウライボラ  
*Moolgarda crenilabis*  
(Forsskål 1775)

インドー太平洋（紅海とハワイ諸島を除く）に分布し、国内では福島県以南から採集されている。三重県では尾鷲湾から1個体が採集されている。体はやや細長い。上唇下部全体に小乳頭状突起が密在する。縦列鱗数は36-40。

(日比野友亮)



フウライボラ *Moolgarda crenilabis*, FRLM 52149, 50 mm SL, 尾鷲市

**タイワンメナダ**  
***Moolgarda seheli***  
**(Fabricius 1775)**

インドー太平洋に分布し、国内では福島県以南から採集されている。2015年には熊野灘沿岸に大量に出現したが、当歳魚とみられる幼魚のみ、伊勢湾でも採集されている。体はやや細長い（成魚）。縦列鱗数は37-41。幽門垂は7-9本に分枝する。  
 （日比野友亮）



タイワンメナダ *Moolgarda seheli*, FRLM 51581, 30 mm SL, 紀北町

**ボラ属 Genus *Mugil* Linnaeus 1758**

**ボラ**  
***Mugil cephalus cephalus***  
**Linnaeus 1758**

全世界に分布し、国内でも全国に分布する。ただし、近年の遺伝的解析結果から、多数の隠蔽種を含むことが判明している。県内全域に普通に出現し、尾鷲市では本種の卵巣のからすみが生産されている。体側の鱗の模様が縦帯列状を呈する。胸鰭基部は青みがかかる。体はやや細長い。縦列鱗数は37-44。  
 （日比野友亮）



ボラ *Mugil cephalus cephalus*, FRLM 40671, 355 mm SL, 志摩市志摩町越賀

**ナンヨウボラ属 Genus *Osteomugil* Luther 1982**

**モンナシボラ**  
***Osteomugil engeli***  
**(Bleeker 1858)**

インドー太平洋に分布し、国内では三重県以南から採集されている。三重県では幼魚1個体が紀北町で採集されている。主鰓蓋骨上部に黄色斑がある。体は太短い。縦列鱗数は31-34。  
 （日比野友亮）



モンナシボラ *Osteomugil engeli*, FRLM 51580, 31 mm SL, 紀北町

**メナダ属 Genus *Planiliza* Whitley 1945**

**メナダ**  
***Planiliza haematocheilus***  
**(Temminck & Schlegel 1845)**

トンキン湾からアムール川まで分布し、国内では北海道から八代海まで分布する。熊野灘では稀で、伊勢湾においても減少傾向にある。背側の鱗は縁辺が黒ずみ目立つ。眼の虹彩は橙色。体は細長い。縦列鱗数は36-43。  
 （日比野友亮）



メナダ *Planiliza haematocheilus*  
 上 KMNH VR 100657, 680 mm SL, 有明海  
 右 FRLM 63260, 25 mm SL, 鈴鹿市白子



**セスジボラ**  
***Planiliza lauvernii***  
**(Eydoux & Souleyet 1850)**

ベトナム、中国、台湾、韓国、日本に分布し、国内では北海道以南に分布する。春季に腹部の膨満した成熟雌がみられる。背中線を通る隆起縁がある。縦列鱗数は33–43。本種の帰属について従来は *Chelon* Artedi in Röse 1793 とされたが、Hasan et al. (2022) などに従い *Planiliza* Whitley 1945 とした。

(日比野友亮)



セスジボラ *Planiliza lauvernii*, FRLM 40691, 229 mm SL, 南伊勢町奈屋浦

**コボラ**  
***Planiliza macrolepis***  
**(Smith 1846)**

インドー太平洋（ハワイ諸島を除く）に分布し、国内では宮城県以南から採集されている。熊野灘では毎年みられ、伊勢湾でも出現する。体は太短い。縦列鱗数は30–34。

(日比野友亮)



コボラ *Planiliza macrolepis*, FRLM 42021, 76 mm SL, 尾鷲市九鬼町

**ワニグチボラ属 Genus *Plicomugi* Schultz 1953**

**ワニグチボラ**  
***Plicomugil labiosus***  
**(Valenciennes 1836)**

インド洋と西太平洋に分布し、国内では茨城県以南から採集されている。三重県では熊野灘南部に出現するが、当歳魚とみられる幼魚のみ。体は太短い。涙骨下縁にV字型欠刻がある。縦列鱗数は32–37。

(日比野友亮)



ワニグチボラ *Plicomugil labiosus*, FRLM 45960, 33 mm SL, 紀宝町鶴殿

**ギンポ目 Order Blenniiformes**

**タナバタウオ科 Family Plesiopidae Günther 1861**

**タナバタウオ属 Genus *Plesiops* Oken 1817**

**タナバタウオ**  
***Plesiops coeruleolineatus***  
**Rüppell 1835**

インドー西太平洋、千葉県から琉球列島、伊豆・小笠原諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種はナカハラタナバタウオ *Plesiops nakaharae* Tanaka 1917 に類似するが、背鰭棘数は11であること区別できる。

(笹木大地)



タナバタウオ *Plesiops coeruleolineatus*, FRLM 63573, 60 mm SL, 尾鷲市行野浦

# スズメダイ科 Family Pomacentridae Bonaparte 1831

## オヤビッチャ属 Genus *Abudefduf* Fabricius 1775

### テンジクスズメダイ *Abudefduf bengalensis* (Bloch 1787)

インドー西太平洋，日本では茨城県から九州南岸の太平洋，山口県日本海側，大隅諸島，奄美大島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体側に7本の黒色帯をもつことでシチセンスズメダイ *Abudefduf septemfasciatus* (Cuvier 1830) に似るが，黒色帯の幅が狭いこと，背鰭軟条部先端は尖ることで区別できる。  
(笹木大地)



テンジクスズメダイ *Abudefduf bengalensis*  
上 FRLM 62958, 109 mm SL, 尾鷲市賀田町  
左 FRLM 42360, 44 mm SL, 英虞湾内座賀島

### イソスズメダイ *Abudefduf notatus* (Day 1870)

インドー西太平洋，日本では北海道函館市，島根県隠岐，長崎県野母崎，鹿島灘から九州南岸の太平洋沿岸，八丈島，小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘で幼魚がみられる。本種は体の地色が黒色であること，鰓蓋上部に1黒色斑があることが特徴。また，体に5本の白色帯があるが不明瞭であることが多い。幼魚では横帯が黄色味を帯び，腹鰭，臀鰭，尾鰭が黄色である。  
(笹木大地)



イソスズメダイ *Abudefduf notatus*, FRLM 53523, 24 mm SL, 英虞湾内座賀島

### ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus* (Lacepède 1801)

インドー太平洋，日本では兵庫県浜坂，長崎県野母崎，神奈川県三浦半島から九州南岸の太平洋沿岸，八丈島，小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は尾鰭の上葉および下葉に黒色帯があることで同属他種と区別できる。  
(笹木大地)



ロクセンスズメダイ *Abudefduf sexfasciatus*, FRLM 43765, 49 mm SL, 英虞湾内座賀島



**シマスズメダイ**  
***Abudefduf sordidus***  
**(Forsskal 1775)**

インドー太平洋, 日本では山口県日本海側, 九州北西岸, 宮城県, 鹿島灘から九州南岸の太平洋沿岸, 八丈島, 小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘で幼魚がみられるほか, 伊勢湾でも幼魚の記録がある. 本種は尾柄背部に明瞭な1黒色斑があることで同属他種と区別できる. (笹木大地)



シマスズメダイ *Abudefduf sordidus*  
 上 FRLM 45968, 37 mm SL, 紀宝町鶴殿  
 左 FRLM 45466, 17 mm SL, 英虞湾内座賀島

**オヤビッチャ**  
***Abudefduf vaigiensis***  
**(Quoy & Gaimard 1825)**

インドー太平洋, 青森県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘に分布し, 伊勢湾から幼魚の記録がある. 本種は体側に5本の黒色帯があること, 体背部が黄色いことで同属のシリテンスズメダイ *Abudefduf caudobimaculatus* Okada & Ikeda 1939 およびアミメオヤビッチャ *Abudefduf nigrimargo* Wibowo, Koeda, Muto & Motomura 2018 によく似る. シリテンスズメダイとは, 側線上方横列鱗数が4-5 (通常5, シリテンスズメダイでは4) であること, 背鰭中央か横列鱗数が3.5 (2.5) であること, 尾鰭基底に黒色小斑が



オヤビッチャ *Abudefduf vaigiensis*, FRLM 61786, 101 mm SL, 尾鷲市九鬼町

ない (通常2黒色小斑がある) ことで区別でき (Wibowo et al., 2017), アミメオヤビッチャとは体側鱗の後縁が黒く縁取られないことで区別できる (Wibowo et al., 2018). (笹木大地)

**クマノミ属 Genus *Amphiprion* Bloch & Schneider 1801**

**クマノミ**  
***Amphiprion clarkii***  
**(Bennett 1830)**

インドー太平洋, 山口県日本海側および千葉県外房以南の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野市二木島湾から標本が得られている. 本種は頭部および体側中央に幅広い白色横帯をもつことで同属他種と区別できる. (笹木大地)



クマノミ *Amphiprion clarkii*  
 FRLM 45825, 75 mm SL  
 熊野市二木島町

## スズメダイ属 Genus *Chromis* Cuvier 1814

### コガネスズメダイ *Chromis albicauda* Allen & Erdmann 2009

東インド洋から西太平洋，日本では三浦半島から九州南岸の太平洋沿岸，伊豆諸島，大隅諸島に分布する．三重県では志摩市志摩町の沖合水深約 30 m でしばしば釣獲される．本種は体色が黄色であることからヒマワリスズメダイ *Chromis xouthos* Allen & Erdmann 2005 およびタンポポスズメダイ *Chromis analis* (Cuvier 1830) によく似るが，涙骨上の鱗列が 4-5 (ヒマワリスズメダイおよびタンポポスズメダイでは 1-2) であることから区別できる (岩坪・本村，2016)． (笹木大地)



コガネスズメダイ *Chromis albicauda*, FRLM 56686, 91 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

### マツバスズメダイ *Chromis fumea* (Tanaka 1917)

日本，台湾，マレーシアの西太平洋，日本では秋田県，山口県日本海側から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，千葉県外房から鹿児島県の太平洋沿岸，伊豆諸島，大隅諸島，奄美大島，伊江島，石垣島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種は尾鰭両葉に明瞭な黒色帯があることが特徴． (笹木大地)



マツバスズメダイ *Chromis fumea*, FRLM 41014, 83 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

### スズメダイ *Chromis notata* (Temminck & Schlegel 1843)

中国福建省・広東省，台湾，日本，朝鮮半島の東アジアに分布する．日本では北海道函館から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，伊豆・小笠原諸島，大隅諸島から沖縄島に分布する．三重県では熊野灘で普通にみられる．本種は胸鰭基底に黒斑があること，背鰭軟条部後端は尖ること，背鰭基底後端に通常白色斑があることが特徴． (笹木大地)



スズメダイ *Chromis notata*, FRLM 37245, 49 mm SL, 英虞湾内座賀島



**ゲッコウスズメダイ**  
***Chromis tingting***  
 Tea, Gill & Senou 2019

日本および韓国に分布する (Tea et al., 2019). 日本では相模湾西部, 駿河湾, 八丈島, 高知県柏島, 沖縄県伊是名島から記録されている. 三重県ではこれまでに志摩市御座南南西沖の水深 112–115 m 地点から採集されている (木村ほか, 2019). また, このほか三重県では志摩市御座沖および御浜町沖合で釣獲されている. 本種は眼が大きく体長の 13.7–19.4% であること, 鰓耙数が  $5-6 + 17-20 = 22-26$  であることが特徴 (Tea et al., 2019). (笹木大地)

ゲッコウスズメダイ *Chromis tingting*  
 FRLM 64535, 93 mm SL, 御浜町沖



**ルリスズメダイ属 Genus *Chrysiptera* Swainson 1839**

**イチモンズズメダイ**  
***Chrysiptera unimaculata***  
 (Cuvier 1830)

インドー西太平洋, 日本では千葉県外房から九州南岸の太平洋沿岸, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では英虞湾の座賀島から幼魚の標本が得られている. 本種は前鰓蓋骨上の鱗は 2 列であること, 成魚の体色は生時淡茶色であること, 背鰭軟条部後端に黒色斑があることが特徴. また, 幼魚はミヤコキセンスズメダイ *Chrysiptera leucopoma* (Cuvier 1830) によく似るが, 本種は前方の眼状斑を取り囲む青い縁取りが完全 (ミヤコキセンスズメダイでは不完全) であることで区別できる (瀬能・吉野 2002). (笹木大地)



イチモンズズメダイ *Chrysiptera unimaculata*, FRLM 45914, 32 mm SL  
 英虞湾内座賀島

**ミスジリュウキュウスズメダイ属 Genus *Dascyllus* Cuvier 1829**

**ミツボシクロスズメダイ**  
***Dascyllus trimaculatus***  
 (Rüppell 1829)

インドー太平洋, 日本では茨城県から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体高が高いこと, 体色が一樣に黒色で体側に 1 白色斑があることが特徴. (笹木大地)



ミツボシクロスズメダイ *Dascyllus trimaculatus*  
 上 FRLM 61788, 93 mm SL, 尾鷲市九鬼町  
 左 FRLM 57041, 19 mm SL, 英虞湾内座賀島



# イシガキスズメダイ属 Genus *Plectroglyphidodon* Fowler & Ball 1924

## セダカスズメダイ *Plectroglyphidodon altus* (Okada & Ikeda 1937)

ベトナムから韓国、日本までの北西太平洋、日本では島根県、山口県日本海側、千葉県外房から九州南岸の太平洋沿岸、伊豆・小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野市二木島湾から標本が得られている。本種は背鰭棘数が通常 12 であること、背鰭棘条部中央下の側線上方横列鱗数が 3.5 であること、胸鰭最下方の 2 軟条は遊離することから同属他種と区別できる。

(笹木大地)

セダカスズメダイ

*Plectroglyphidodon altus*, FRLM 45920

118 mm SL, 熊野市二木島町



## ハクセンスズメダイ *Plectroglyphidodon leucozonus* (Bleeker 1859)

インドー太平洋、日本では千葉県小湊から九州南岸の太平洋沿岸、伊豆・小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘で幼魚が採集されている。本種は体側中央部に 1 本の白色横帯があることが特徴。また、幼魚では白色横帯後方の背鰭基底に 1 黒色斑がある。(笹木大地)

ハクセンスズメダイ

*Plectroglyphidodon leucozonus*

FRLM 57395, 28 mm SL, 英虞湾内座賀島



## アイスズメダイ *Plectroglyphidodon obreptus* (Whitley 1948)

東インド洋から西太平洋、日本では神奈川県三浦半島、鹿児島県本土、大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野市二木島から採集された。本標本は背鰭棘数が 13 であること、背鰭棘条部中央かの側線上方鱗数が 3.5 であることから本種に同定された。なお、セダカスズメダイの背鰭棘数は通常 12 とされているが、13 の個体も報告されており、その場合の本種との識別方法は不明である。

(笹木大地)

アイスズメダイ

*Plectroglyphidodon obreptus*

FRLM 45921, 86 mm SL, 熊野市二木島町





## ソラスズメダイ属 Genus *Pomacentrus* Lacepède 1802

### ソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis* Jordan & Starks 1901

東インドー太平洋, 日本では北海道函館市から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘で普通にみられる。本種は生時鮮やかな青色であることが特徴。(笹木大地)

ソラスズメダイ *Pomacentrus coelestis*  
FRLM 46845, 48 mm SL  
志摩市志摩町越賀



### ナガサキスズメダイ *Pomacentrus nagasakiensis* Tanaka 1917

東インドー西太平洋, 日本では山口県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県外房から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘に分布し, 尾鷲市九鬼や賀田湾, 新鹿湾では多くみられる。本種は臀鰭と尾鰭に数本の淡色線があることが特徴。(笹木大地)



ナガサキスズメダイ *Pomacentrus nagasakiensis*  
上 FRLM 61731, 78 mm SL, 尾鷲市九鬼町  
左 FRLM 45709, 20 mm SL, 英虞湾内座賀島



## ヒメスズメダイ属 Genus *Pycnochromis* Fowler 1941

### シコクスズメダイ *Pycnochromis margaritifer* (Fowler 1946)

東インド洋から西・中央太平洋, 千葉県館山から鹿児島県本土の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では尾鷲市九鬼で採集された。本種は背鰭軟条数が12-13であること, 体の暗色と淡色の境界は背鰭基底後端より前であることが特徴。(笹木大地)



シコクスズメダイ *Pycnochromis margaritifer*, FRLM 62939, 35 mm SL, 尾鷲市九鬼町

## スジズメダイ属 Genus *Teixeirichthys* Smith 1953

### スジズメダイ *Teixeirichthys jordani* (Rutter 1897)

インドー西太平洋，日本では伊豆半島西岸，土佐湾から鹿児島県本土，屋久島から記録されている．三重県では志摩市御座の定置網で採集され，これは三重県における本種の初記録である．本種は体側に不明瞭な暗色縦線が多数あること，縦列鱗数が44-45であることが特徴．

(笹木大地)



スジズメダイ *Teixeirichthys jordani*, FRLM 31379, 48 mm SL, 志摩市志摩町御座

## ウミタナゴ科 Family Embiotocidae Agassiz 1853

## ウミタナゴ属 Genus *Ditrema* Temminck & Schlegel 1844

### アカタナゴ *Ditrema jordani* Franz 1910

日本固有の温帯種で，千葉県から三重県までの太平洋沿岸に分布する．三重県では伊勢湾および熊野灘に分布する．本種は体色が赤銅色であること，眼の前下方に白く縁どられた暗色斑か逆台形の暗色斑があること，背鰭基底後端が臀鰭基底後端より前に位置することで同属のマタナゴ *Ditrema temminckii pacificum* Katafuchi & Nakabo 2007, ウミタナゴ *Ditrema temminckii temminckii* Bleeker 1853 および アオタナゴ *Ditrema viride* Oshima 1940 と区別できる．

(鈴木 啓)



アカタナゴ *Ditrema jordani*, FRLM 54530, 141 mm SL, 伊勢市二見町

### マタナゴ *Ditrema temminckii pacificum* Katafuchi & Nakabo 2007

日本固有の温帯種で，千葉県から和歌山県までの太平洋沿岸および瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾および熊野灘に分布する．本種は臀鰭基底が黒くないこと，前鰓蓋縁の暗色点が隅角部に1つあることで同属のウミタナゴおよびアオタナゴと区別できる．

(鈴木 啓)



マタナゴ *Ditrema temminckii pacificum*, FRLM 54532, 120 mm SL, 伊勢市二見町



# アゴアマダイ科 Family Opistognathidae Bonaparte 1835

## アゴアマダイ属 Genus *Opistognathus* Cuvier 1816

### ホソミアゴアマダイ *Opistognathus abei* Fujiwara & Ikeda 2024

島根県隠岐諸島のみから記録されている (Fujiwara and Ikeda, 2024). 三重県では志摩市安乗沖の砂地から複数個体が採集されており, これは島根県以外からの初の記録である. 本種は日本産のムシクイアゴアマダイ *Opistognathus nigripinnis* Smith-Vaniz 2023 に似るが, 体側に白いジグザグ状の模様がないこと (ムシクイアゴアマダイではある), 背鰭, 臀鰭, 腹鰭に小さい黒色素胞がないこと (ある), 尾鰭が透明から薄い茶色であること (一様に黄色), 背鰭第2棘から7棘の間に眼状斑がある



ホソミアゴアマダイ *Opistognathus abei*, FRLM 37095, 22 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

こと (第3棘と7棘の間に不明瞭な黒斑がある) から区別できるとされる (Fujiwara and Ikeda, 2024). ただし, 三重県産標本では背鰭に黒色素胞が散在すること, 尾鰭が透明な黄

色であることが Fujiwara and Ikeda (2024) の示す特徴と一致しなかったが, その他の特徴がホソミアゴアマダイに一致したため本種に同定した. (笹木大地)

### シラタマアゴアマダイ *Opistognathus ctenion* Fujiwara, Motomura & Shinohara 2023

日本以外から記録はなく, 三重県, 大隅諸島から琉球列島の水深 35–57 m で記録がある. 本標本は志摩市から採集され, 標本に基づく生息の北限記録ならびに三重県初記録である. 本科魚類はダイビングで観察されることは多いが, 採集が非常に難しく標本の収集が困難である. 本種は総鰓耙数が 20–21 と同属魚類の中では最も少ない種の一種で, 体側に



シラタマアゴアマダイ *Opistognathus ctenion*, FRLM 53673, 41 mm SL  
志摩市大王町船越

8–10 個の白色斑が縦に並ぶことなどで特徴づけられる. (宿女太志)

### ニラミアマダイ *Opistognathus iyonis* (Jordan & Thompson 1913)

韓国および日本に分布する. 日本では佐渡島, 三浦半島西岸, 東京湾, 三重県, 兵庫県, 広島県, 山口県, 愛媛県, 高知県, 長崎県から記録がある. 三重県では英虞湾や賛浦から標本が得られている. 他のアゴアマダイ科の種とは前部の背鰭棘先端が二叉しないこと, 背鰭軟条数が 13–14 であること, 主上顎骨は前上顎骨を越えて後方に伸長すること,



ニラミアマダイ *Opistognathus iyonis*, FRLM 45022, 78 mm SL, 志摩市志摩町御座 (英虞湾)

上顎後端の内側に黒色斑があることで区別できる. (武内 俊)

## ウバウオ亜目 Suborder Gobiesocoidei

## ウバウオ科 Family Gobiesocidae Bleeker 1859

## ウバウオ属 Genus *Aspasma* Jordan & Fowler 1902

### ウバウオ

*Aspasma ubauo*  
Fujiwara & Motomura 2019

千葉県から和歌山県にかけての太平洋沿岸，青森県から長崎県にかけての日本海沿岸および愛媛県に分布する。三重県では志摩半島を中心とした浅海の岩礁域に生息。腹鰭は複型であること，上顎の後端は眼の前

3



ウバウオ *Aspasma ubauo*, FRLM 41708, 25 mm SL, 志摩市志摩町片田

縁を超えないこと，下顎感覚管孔は 3 対であることにより日本産同科他種と区別される。(武藤 滉)

## ツルウバウオ属 Genus *Aspasmichthys* Briggs 1955

### ツルウバウオ

*Aspasmichthys ciconiae*  
(Jordan & Fowler 1902)

朝鮮半島，济州島，台湾，日本では千葉県以南の太平洋沿岸，新潟県以南の日本海沿岸および瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘沿岸の岩礁域の転石下に生息。腹鰭は複型で下顎に 1 対の感覚管孔があることで日本産同科他種と区別される。(武藤 滉)

3



ツルウバウオ *Aspasmichthys ciconiae*  
FRLM 63589, 60 mm SL, 尾鷲市行野浦

## アンコウウバウオ属 Genus *Conidens* Briggs 1955

### アンコウウバウオ

*Conidens laticephalus*  
(Tanaka 1909)

台湾，日本では千葉県から鹿児島県の太平洋沿岸，長崎県，屋久島，奄美大島に分布する。三重県では志摩半島の岩礁性海岸の転石下でよく見られる。腹鰭は吸盤状で複型であること，下顎感覚管孔は 3 対あることで日本産同科他種と区別される。(武藤 滉)

5



アンコウウバウオ *Conidens laticephalus*  
FRLM 64565, 32 mm SL  
志摩市志摩町片田



## ハシナガウバウオ属 Genus *Diademichthys* Pfaff 1942

### ハシナガウバウオ *Diademichthys lineatus* (Sauvage 1883)

インドー西太平洋, 日本では三宅島, 千葉県から高知県の太平洋沿岸, 愛媛県, 琉球列島に分布する。ウバウオ科魚類の中では遊泳力が高く, ガンガゼ類の周辺でよく観察される。腹鰭は単型であること, 背鰭,



ハシナガウバウオ *Diademichthys lineatus*, FRLM 61218, 48 mm SL, 尾鷲市三木浦町

臀鰭と尾鰭は鰭膜で繋がること, 吻は著しく細長いこと, 雌の吻は雄よりも細く長い。(武藤 滉)

## ミサキウバウオ属 Genus *Lepadichthys* Waite 1904

### ミサキウバウオ *Lepadichthys misakius* (Tanaka 1908)

西部太平洋, 済州島, 台湾, 日本では三宅島, 千葉県から和歌山県の太平洋沿岸, 山口県から九州北西部の日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海, 男女群島, 屋久島, 琉球列島に分布。三重県では熊野灘沿岸の岩礁域の転石下に生息。腹鰭は単型であること,



ミサキウバウオ *Lepadichthys misakius*, FRLM 7825, 53 mm SL, 志摩市志摩町和具

吻端から眼の後方にかけて暗色縦帯があることにより特徴づけられる。(武藤 滉)

## ホソウバウオ属 Genus *Pherallodus* Briggs 1955

### ホソウバウオ *Pherallodus indicus* (Weber 1913)

西部太平洋, 台湾, 日本では千葉県から愛媛県の太平洋沿岸, 長崎県, 男女群島, 屋久島, 琉球列島, 伊豆諸島に分布。三重県では熊野灘沿岸の岩礁域に生息し, ウニ類の近くでよく見られる。腹鰭は複型であること, 下顎に感覚管孔がないこと, 吻部背面に灰白色の三角斑があることで日本産同科他種と区別される。(武藤 滉)

ホソウバウオ *Pherallodus indicus*  
FRLM 65329, 21 mm SL, 尾鷲市行野浦



## ギンポ亜目 Suborder Blennioidei

## ヘビギンポ科 Family Tripterygiidae Whitley 1931

ヘビギンポ属 Genus *Enneapterygius* Rüppell 1835

## ヘビギンポ

*Enneapterygius etheostoma*  
(Jordan & Snyder 1902)

ベトナムから日本，韓国の西太平洋，日本では青森県，秋田県男鹿半島，新潟県佐渡および茨城県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．本種は側線有孔鱗数が前方で18-20，後方で18-20であること，前鼻管の皮弁は先端が2分枝することなどから同属他種と区別できる．

(笹木大地)

ヘビギンポ *Enneapterygius etheostoma*, FRLM 45467, 51 mm SL, 英虞湾内座賀島

## ハクテンヘビギンポ

*Enneapterygius leucopunctatus*  
Shen 1994

台湾および日本に分布し，国内では相模湾，土佐湾，薩摩半島，種子島，屋久島，徳之島，奄美大島から記録されている．三重県では尾鷲市行野浦から1標本が得られており，これは本種の三重県初記録である．本種は肩胛骨部位に2白色斜帯があること，前鼻管の皮弁は先端が単一形であること，下顎の感覚管孔数は

ハクテンヘビギンポ *Enneapterygius leucopunctatus*, FRLM 65331, 33 mm SL  
尾鷲市行野浦

4+1+4 であること，尾鰭が黒色でないこと，尾柄部に白色斜帯がないこ

とで同属他種と区別できる．  
(笹木大地)

クロマスク属 Genus *Helcogramma* McCulloch & Waite 1918

## クロマスク

*Helcogramma fuscipectoris*  
(Fowler 1946)

インドー西太平洋，日本では和歌山県串本，伊豆・小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では志摩市片田から標本が得られた．本種は側線が1本であること，第2背鰭が14-15（通常14）棘であること，第3背鰭が9-11（10）軟条であること，側線有孔鱗数が19-25であること，下顎の感覚管孔開口数が4+1+4であること，頭部背面は無鱗である

クロマスク *Helcogramma fuscipectoris*, FRLM 64574, 34 mm SL, 志摩市志摩町片田

こと，上顎後方から前鰓蓋骨後端にかけて眼窩下端と接する青白色の線が1本走ること，雄の胸鰭基部が

黒色を呈することが特徴 (Tashiro and Motomura, 2014；脇本・國島，2022)．  
(笹木大地)



## ヒメギンポ属 Genus *Springerichthys* Shen 1994

### ヒメギンポ *Springerichthys bapturus* (Jordan & Snyder 1902)

韓国, 日本, 台湾, マレーシアのマブル島から記録されており, 日本では北海道南部, 青森県から九州西岸の日本海・東シナ海, 千葉県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆諸島, 宇治群島, 甕島列島, 種子島から記録されている. 三重県では志摩市和具から標本が得られている. 本種は臀鰭棘数が2であること,



ヒメギンポ *Springerichthys bapturus*, FRLM 7820, 46 mm SL, 志摩市志摩町和具

頭部と体側に橙色斑があること, 尾で同科他種と区別できる.  
鰭が縁辺を除いた大部分が黒いこと (笹木大地)

## イソギンポ科 Family Blenniidae Rafinesque 1810

## クロスジギンポ属 Genus *Aspidontus* Cuvier 1834

### クロスジギンポ *Aspidontus dussumieri* (Valenciennes 1836)

インドー太平洋, 日本では山口県日本海側, 千葉県館山から鹿児島県本土, 八丈島, 小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では志摩市御座の定置網で1標本が得られている. 本種は体側の暗色縦帯が後方に至るまでほぼ同じ幅であり, 尾鰭後端付近に達しないこと, 未成魚



クロスジギンポ *Aspidontus dussumieri*, FRLM 43633, 34 mm SL, 志摩市志摩町御座

の背鰭前端は伸長しないことで, 近 *taeniatus* Quoy & Gaimard 1834 から  
緑のニセクロスジギンポ *Aspidontus* 区別できる. (笹木大地)

### ニセクロスジギンポ *Aspidontus taeniatus* Quoy & Gaimard 1834

インドー西太平洋, 日本では福岡県津屋崎, 相模湾から宮崎県の太平洋沿岸, 八丈島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では英虞湾の座賀島から標本が得られている. 本種は体側の暗色縦帯が後方に向かって幅広くなり尾鰭後端付近まで達すること, 未成魚の背鰭前端は伸長することが特徴. (笹木大地)



ニセクロスジギンポ *Aspidontus taeniatus*, KAUM-I. 145186, 58 mm SL, 沖永良部島

## タテガミカエルウオ属 Genus *Cirripectes* Swainson 1839

### ミノカエルウオ *Cirripectes polyzona* (Bleeker 1868)

アフリカ南岸・東岸からサモア, 日本, ニューカレドニア, トンガに至るインドー西太平洋. 日本では琉球列島から三重県に分布する. 三重県では尾鷲市で採集された. 項部の皮弁は上半部と下半部に分離する. 腹鰭 I, 3. (木村清志)



ミノカエルウオ *Cirripectes polyzona*, FRLM 61201, 39 mm SL, 沖縄県

## スジギンポ属 Genus *Entomacrodus* Gill 1859

### アオモンギンポ

*Entomacrodus caudofasciatus*  
(Regan 1909)

東インド洋および西太平洋、日本では和歌山県白浜から九州南岸、伊豆・小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では志摩市片田から標本が得られている。本種は上唇のひだ状の突起物は側方に限られ中央部にはないこと、胸鰭上方の体側に1暗青色斑があることで同属他種と区別できる。(笹木大地)



アオモンギンポ *Entomacrodus caudofasciatus*, FRLM 64561, 38 mm SL, 志摩市志摩町片田

### ホシギンポ

*Entomacrodus stellifer stellifer*  
(Jordan & Snyder 1902)

日本および韓国の東アジア、国内では新潟県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、神奈川県三浦半島から鹿児島県本土の太平洋沿岸、瀬戸内海、沖縄島に分布する。三重県では鳥羽市神島および志摩市片田から



ホシギンポ *Entomacrodus stellifer stellifer*, FRLM 64563, 59 mm SL, 志摩市志摩町片田

標本が得られている。本種は上唇のひだ状の突起物が中央部に限られ側方にはないことで同属他種と区別できる。(笹木大地)

### ゴテンカエルウオ

*Entomacrodus thalassinus thalassinus*  
(Jordan & Seale 1906)

インドー西太平洋、日本では和歌山県白浜、高知県横浪半島、薩摩半島、小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では志摩市御座の定置網で1標本が得られている。本種は上唇の下縁にひだ状の突起物が全くないことが特徴。(笹木大地)



ゴテンカエルウオ *Entomacrodus thalassinus thalassinus*, FRLM 46461, 33 mm SL  
志摩市志摩町御座

## カエルウオ属 Genus *Istiblennius* Whitley 1943

### カエルウオ

*Istiblennius enosimae*  
(Jordan & Snyder 1902)

日本、韓国の東アジア、国内では兵庫県香住および千葉県勝浦から九州西岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、八丈島、種子島、屋久島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は同属のニセカエルウオ *Istiblennius edentulus* (Forster & Schneider 1801) に似るが、背鰭軟条数が通常21(20-22)であること(ニセカエルウオでは通常20)、臀鰭軟条数が通常21(19-22)



カエルウオ *Istiblennius enosimae*, FRLM 55637, 40 mm SL, 英虞湾内座賀島

であること(通常22)、背鰭は低く背鰭最長軟条長は体長の12.7-16.7%であること(15.5-19.7%)で区別できる。(笹木大地)



**センカエルウオ**  
***Istiblennius lineatus***  
**(Valenciennes 1836)**

アラビア海東部からピトケアン諸島、日本、ニューカレドニアに至るインドー太平洋。日本では琉球列島から八丈島に分布する。三重県では尾鷲市で採集された。体側に数本の暗色縦線がある。眼状皮弁は掌状。  
 (木村清志)

センカエルウオ *Istiblennius lineatus*  
 与論島  
 上 ♂, FRLM 42781, 62 mm SL  
 下 ♀, FRLM 43033, 53 mm SL



**ナベカ属 Genus *Omobranchus* Valenciennes 1836**

**ナベカ**  
***Omobranchus elegans***  
**(Steindachner 1876)**

山東半島、日本、朝鮮半島全沿岸の東アジア、日本では北海道から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸、北海道から九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する。本種は体色の地色は黄色で、頭部と体の前半に数本の黒色帯があること、体側に多くの小黒色点があることが特徴。  
 (笹木大地)



ナベカ *Omobranchus elegans*, FRLM 57228, 49 mm SL, 英虞湾内座賀島

**トサカギンボ**  
***Omobranchus fasciolatoceps***  
**(Richardson 1846)**

中国、台湾、日本の東アジア、国内では富山湾から熊本県天草の日本海・東シナ海沿岸、東京湾から宮崎県の太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾に流入する伊勢市の五十鈴川河口および津市の志登茂川河口から標本が得られている。本種は頭部正中線に顕著な皮



トサカギンボ *Omobranchus fasciolatoceps*, FRLM 45158, 70 mm SL, 津市志登茂川河口

弁があることで同属他種と区別できる。  
 (笹木大地)

**クモギンボ**  
***Omobranchus loxozonus***  
**(Jordan & Starks 1906)**

北西太平洋、日本では九州西岸、五島列島、相模湾、紀伊半島から九州南岸の太平洋沿岸、瀬戸内海、大隅諸島以南に分布する。三重県では尾鷲市行野浦から標本が得られている。本種は眼の後方に顕著な1黒斑があることが特徴。  
 (笹木大地)



クモギンボ *Omobranchus loxozonus*, FRLM 42016, 32 mm SL, 尾鷲市行野浦

**イダテングンボ**  
***Omobranchus punctatus***  
**(Valenciennes 1836)**

インドー西太平洋，外来種として地中海や西大西洋にも分布する．日本では富山湾から熊本県天草の日本海・東シナ海沿岸，東京湾から鹿児島県本土の太平洋沿岸，瀬戸内海に分布する．三重県では伊勢湾および熊野灘から標本が得られている．本種は体に多くの暗色縦線があること



イダテングンボ *Omobranchus punctatus*, FRLM 65308, 63 mm SL, 鈴鹿市白子

(ただし雌ではやや不明瞭)，鰓孔下 えても第1軟条までであることが特徴．  
 端は胸鰭基底上端を越えないか，越 徴． (笹木大地)

**イソギンボ属 Genus *Parablennius* Miranda Ribeiro 1915**

**イソギンボ**  
***Parablennius yatabei***  
**(Jordan & Snyder 1900)**

ベトナム北部から日本，韓国までの北西太平洋，日本では積丹半島および北海道白尻から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，喜界島，奄美大島に分布する．三重県では伊勢湾から熊野灘に分布し，カキ礁や定置網や養殖の漁具にも良くみられる．本種は上顎に犬歯があることが特徴． (笹木大地)



イソギンボ *Parablennius yatabei*, FRLM 55306, 59 mm SL, 英虞湾内座賀島

**カラスギンボ属 Genus *Parenchelyurus* Springer 1972**

**カラスギンボ**  
***Parenchelyurus hepburni***  
**(Snyder 1908)**

インドー西太平洋，日本では三重県，和歌山県，大隅諸島以南に分布する．三重県ではMurase et al. (2013)によって紀北町から報告されている．本種の背鰭・臀鰭と尾鰭は，尾鰭の1/6が鰭膜で連続することが特徴． (笹木大地)

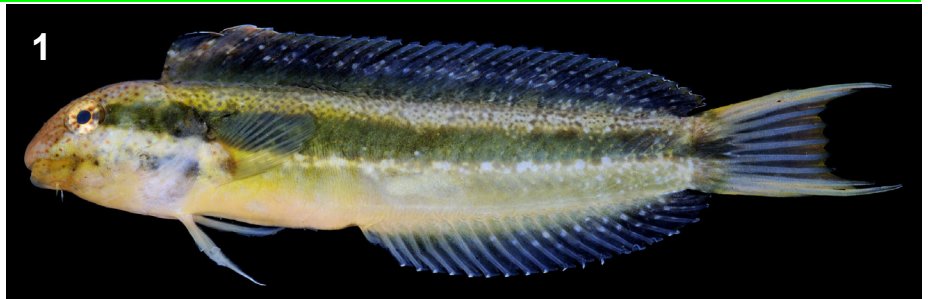


カラスギンボ *Parenchelyurus hepburni*, KAUM-I. 90692, 29 mm SL, 沖永良部島

**ハタタテギンボ属 Genus *Petroscirtes* Rüppell 1830**

**ニジギンボ**  
***Petroscirtes breviceps***  
**(Valenciennes 1836)**

インドー西太平洋，日本では青森県および北海道襟裳岬から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，八丈島，小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では伊勢湾から熊野灘に分布する．本種は眼の後方から尾部に黒色縦帯があること，項部に皮弁がないことなどで同属他種と区別できる． (笹木大地)



ニジギンボ *Petroscirtes breviceps*, FRLM 62956, 82 mm SL, 熊野市二木島町



## テンクロスジギンポ属 Genus *Plagiotremus* Gill 1865

### ミナミギンポ

#### *Plagiotremus rhinorhynchos* (Bleeker 1852)

インドー西太平洋, 日本では山口県日本海側, 福岡県津屋崎, 千葉県館山から九州南岸の太平洋沿岸, 八丈島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では志摩市英虞湾の座賀島から標本が得られている. 本種は体側下半分にも黒色縦帯があること, 背鰭棘数は10-11であることから同属他種と区別できる. (笹木大地)

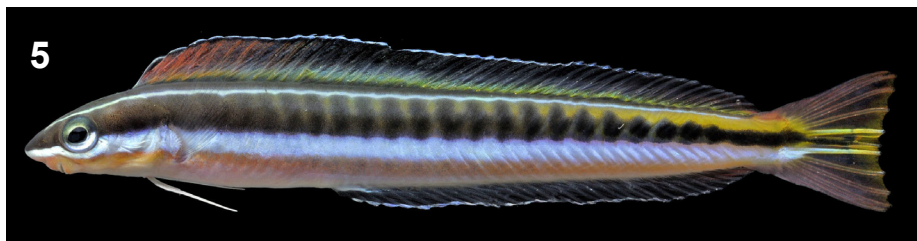


ミナミギンポ *Plagiotremus rhinorhynchos*, FRLM 55441, 46 mm SL, 英虞湾内座賀島

### テンクロスジギンポ

#### *Plagiotremus tapeinosoma* (Bleeker 1857)

インドー太平洋, 日本では千葉県館山から鹿児島県本土の太平洋沿岸, 愛媛県(瀬戸内海), 八丈島, 小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する.



テンクロスジギンポ *Plagiotremus tapeinosoma*, FRLM 45830, 56 mm SL, 熊野市二木島町  
三重県では熊野市二木島湾から標本が得られている. 本種は体側下半分に黒色縦帯がないこと, 背鰭棘数は7-9であることから同属他種と区別できる. (笹木大地)

## ヤエヤマギンポ属 Genus *Salaria* Cuvier 1816

### ヤエヤマギンポ

#### *Salaria fasciatus* (Bloch 1786)

紅海, アフリカ南岸・東岸からサモア, 日本, トンガに至るインドー西太平洋. 日本では琉球列島から三重県に分布する. 三重県では熊野市で採集された. 背鰭棘部と軟条部間の欠刻は浅い, 眼上および項部の皮弁は分枝する. (木村清志)



ヤエヤマギンポ *Salaria fasciatus*, FRLM 43447, 96 mm SL, 沖縄県

## ウナギギンポ属 Genus *Xiphasia* Swainson 1839

### ヒメウナギギンポ

#### *Xiphasia matsubarae* Okada & Suzuki 1952

インドー西太平洋, 日本では北海道白尻, 岩手県, 伊勢湾, 三重県尾鷲沖, 和歌山県新宮沖, 白浜, 喜界島, 沖縄島から記録されている. 写真の個体は熊野灘で操業されたまき網で



ヒメウナギギンポ *Xiphasia matsubarae*, FRLM 58339, 376 mm SL, 熊野灘

漁獲されたものである. 本種は体が著しく長いことでウナギギンポに似るが, 胸鰭は10-11軟条であること,

背鰭は11棘 99-104軟条であること, 臀鰭は2棘 97-104軟条であることで区別できる. (笹木大地)

### ウナギギンポ

#### *Xiphasia setifer* Swainson 1839

インドー西太平洋, 日本では京都府, 島根県敬川沖, 山口県の日本海, 北海道白尻, 福島県, 千葉県勝浦から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 石垣島から記録されている. 三重県では熊野灘から標本が得られてい



ウナギギンポ *Xiphasia setifer*, FRLM 33366, 309 mm SL, 志摩市志摩町御座

る. 本種は胸鰭が12-14軟条であること, 背鰭が13-14棘 105-119軟条

であること, 臀鰭が2棘 107-119軟条であることが特徴. (笹木大地)

## アサヒギンポ科 Family Clinidae Swainson 1839

### アサヒギンポ属 Genus *Springeratus* Shen 1971

#### アサヒギンポ *Springeratus xanthosoma* (Bleeker 1857)

インドネシア, フィリピンから日本に至るインド-西太平洋. 日本では沖縄県から三重県に分布する. 三重県では紀宝町で採集された. 背鰭は2基, 胸鰭軟条はすべて不分枝, 腹鰭 I, 3. (木村清志)



アサヒギンポ *Springeratus xanthosoma*, KAUM-I. 165307, 48 mm SL, 種子島

## コケギンポ科 Family Chaenopsidae Gill 1865

### コケギンポ属 Genus *Neoclinus* Girard 1858

#### コケギンポ *Neoclinus bryope* (Jordan & Snyder 1902)

日本および韓国の東アジア, 国内では積丹半島から長崎県野母崎の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県勝浦から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 八丈島, 屋久島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は背鰭第1, 2棘間に黒点があること, 鰓蓋上部に黒色斑がないこと, 胸鰭は



コケギンポ *Neoclinus bryope*, FRLM 42358, 54 mm SL, 英虞湾内座賀島

通常14 (13-15) 軟条であることが特徴. (笹木大地)

#### アライソコケギンポ *Neoclinus okazakii* Fukao 1987

北西太平洋, 日本では千葉県館山湾から和歌山県白浜, 宮崎県から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 八丈島, 宇治群島, 大隅諸島, 奄美大島, 沖縄島平敷屋に分布する. 三重県では志摩市和具沖および英虞湾の座賀島から標本が得られている. 本種は背鰭第1, 2棘間に黒点があること,



アライソコケギンポ *Neoclinus okazakii*, FRLM 55989, 33 mm SL, 英虞湾内座賀島

鰓蓋上部に黒色斑があること, 胸鰭は通常13 (12-14) 軟条であること, 胸鰭基底に明瞭な黒色点があることが特徴. (笹木大地)

#### トウシマコケギンポ *Neoclinus toshimaensis* Fukao 1980

千葉県勝浦, 館山湾, 三浦半島, 伊豆半島城ヶ崎・田ノ浦湾, 和歌山県田辺湾, 伊豆大島から記録がある. 三重県では志摩市和具沖から1標本が得られている. 本種は背鰭第1, 2棘間に黒点がないこと, 頭頂部に皮弁があること, 眼上皮弁が9-11本であること, 胸鰭は通常14 (13-15) 軟条であることが特徴. (笹木大地)



トウシマコケギンポ *Neoclinus toshimaensis*, FRLM 27182, 47 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



ペルカ目 (新称) Order Perciformes

ペルカ亜目 (新称) Suborder Percoidei

ヒメコダイ科 Family Serranidae Swainson 1839

ヒメコダイ属 Genus *Chelidoperca* Boulenger 1895

ヒメコダイ

*Chelidoperca hirundinacea*  
(Valenciennes 1831)

朝鮮半島南岸から南シナ海南部の西太平洋, 日本では若狭湾および相模湾から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海, 種子島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体側中央部に濃赤色の斑紋があること, 眼隔域の前方まで鱗で覆われることで同属他種と区別できる. (笹木大地)



ヒメコダイ *Chelidoperca hirundinacea*, FRLM 46405, 124 mm SL, 南伊勢町賛浦沖

ホシヒメコダイ

*Chelidoperca pleurospilus*  
(Günther 1880)

日本からフィリピン諸島, アラフラ海にかけての西太平洋, 日本では島根県から山口県の日本海沿岸, 相模湾から九州南岸の太平洋, 東シナ海, 種子島, 沖縄県に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体側に5個の黒斑があることで同属他種と区別できる. (笹木大地)



ホシヒメコダイ *Chelidoperca pleurospilus*, FRLM 57046, 116 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

ハナダイ科 Family Anthiadidae Poey 1861

アカイサキ属 Genus *Caprodon* Temminck & Schlegel 1843

アカイサキ

*Caprodon schlegelii*  
(Günther 1859)

朝鮮半島南岸から台湾, オーストラリア東岸・西岸, ハワイ諸島, チリに分布する. 日本では相模湾から沖縄県, 東シナ海に分布する. 三重県では志摩市沖の水深 70-100 m 付近で釣りによって漁獲される. 雌性先熟することが知られており, 雌雄で色彩が異なる. 雄の体色は黄色やピンク色が目立ち, 雌では体色は赤色で体背部に暗色斑がある. (笹木大地)



アカイサキ *Caprodon schlegelii*  
上 ♂, FRLM 57242, 232 mm SL  
左 ♀, FRLM 57241, 193 mm SL  
志摩市志摩町御座沖



ミハラハナダイ属 Genus *Giganthias* Katayama 1954ミハラハナダイ  
*Giganthias immaculatus*  
Katayama 1954

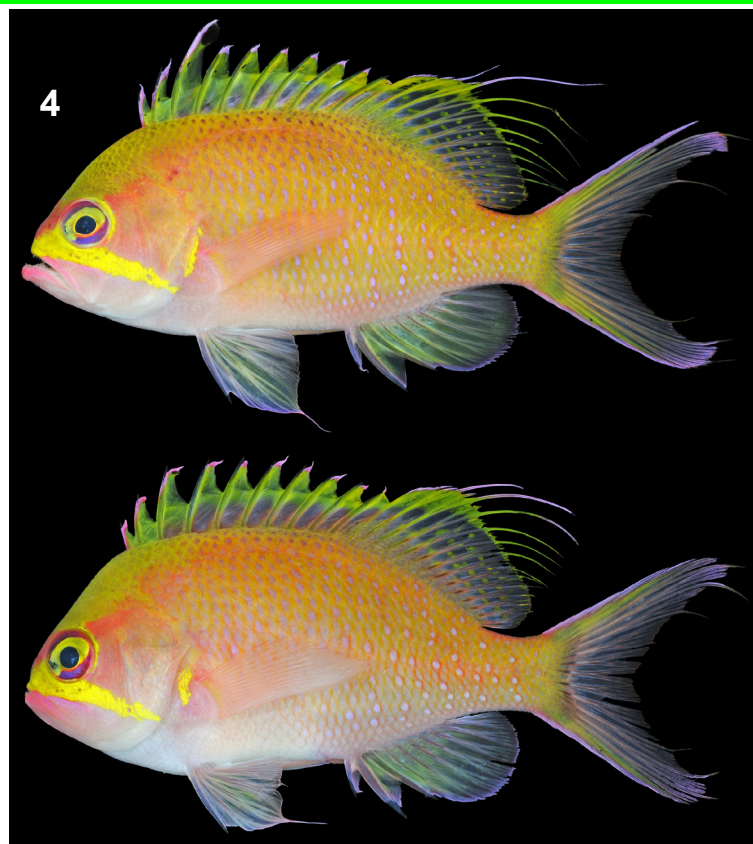
インドネシア, 台湾, 日本. 日本では沖縄県から神奈川県, 長崎県に分布. 三重県では志摩市志摩町御座の定置網で漁獲された. 背鰭棘数 9, 下顎先端に円錐歯塊があり, 上顎にも下顎より小さい歯塊がある, 背鰭第 2, 3 棘, および腹鰭棘の先端に鋸歯がある. (木村清志)

ミハラハナダイ *Giganthias immaculatus*  
FRLM 52792, 214 mm SL, 沖縄県

イッテンサクラダイ属 Genus *Odontanthias* Bleeker 1873イッテンサクラダイ  
*Odontanthias unimaculatus*  
(Tanaka 1917)

日本からインドネシアの西太平洋, 日本では相模湾から土佐湾の太平洋沿岸, 薩摩半島南岸, 小笠原諸島, 大隅諸島, トカラ列島, 奄美大島, 沖縄舟状海盆に分布する. 三重県では志摩市沖や南伊勢町および御浜町沖から標本が得られている. 本種は背鰭第 3 棘が伸長し, その先端の鰭膜は黒色であること, 尾鰭基底に黒色横帯がないこと, 側線有孔鱗数は 34-38 であることから同科他種と区別できる. (笹木大地)

イッテンサクラダイ  
*Odontanthias unimaculatus*, 御浜町沖  
上 FRLM 64543, 112 mm SL  
下 FRLM 64527, 97 mm SL

イズハナダイ属 Genus *Plectranthias* Bleeker 1873アズマハナダイ  
*Plectranthias azumanus*  
(Jordan & Richardson 1910)

朝鮮半島南岸, 日本から台湾の北西太平洋, オーストラリア西岸に分布する (Gill et al., 2021). 日本では山形県飛島から九州北西岸の日本海沿岸, 茨城県沖, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 口永良部島, 東シナ海大陸棚縁辺域, 沖縄県, 九州-パラオ海嶺に分布する. 三重県では志摩市沖の水深 100 m 付近でしばしば採集される. 本種は体側に赤色横帯があること, 尾柄に大きな赤色斑があること, 尾鰭基



底上方に赤色斑があること, 背鰭第 2 軟条は伸長することが特徴. (笹木大地)

アズマハナダイ  
*Plectranthias azumanus*  
FRLM 52902, 90 mm SL  
志摩市志摩町和具沖



**カスミサクラダイ**  
***Plectranthias japonicus***  
**(Steindachner 1883)**

オーストラリア西岸の東インド洋, ティモール海から日本, 韓国の西太平洋, 日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 沖縄県に分布する. 三重県では南伊勢町沖で操業する沖合底曳網および紀宝町鵜殿沖の釣りによって採集された. 本種は主上顎骨が有鱗であること, 尾鰭は円形であることから同属他種と区別できる.  
 (笹木大地)



カスミサクラダイ *Plectranthias japonicus*, FRLM 64525, 94 mm SL, 紀宝町鵜殿沖

**イズハナダイ**  
***Plectranthias kamii***  
**Randall 1980**

オーストラリアから東はニューカレドニア, 北は日本までの西太平洋に分布する (Gill et al., 2021). 日本では相模湾以南に分布する. 三重県では志摩市和具沖の水深約 250 m から 1 標本が得られている. 本種はキオビイズハナダイ *Plectranthias sheni* Chen & Shao 2002 に類似するが側線有孔鱗数は 33–38 であること, 頬鱗列数は 6 であること, 側線下方横列鱗数は 15–19 であることから区別することができる (藤原ほか, 2017).  
 (笹木大地)



イズハナダイ *Plectranthias kamii*, FRLM 54521, 176 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**ニシキハナダイ**  
***Plectranthias sagamiensis***  
**(Katayama 1964)**

南日本, フィリピン, インドネシアに分布する (Wada et al., 2020a). 日本では相模湾, 伊豆大島, 駿河湾, 沖縄県から記録されている. 三重県では志摩市御座沖から標本が得られている. 本種は尾鰭後縁に多数の伸長軟条をもつことが特徴. 本種はチュラシマハナダイ *Plectranthias ryukyuensis* Wada, Suzuki, Senou & Motomura 2020 と似るが, 下鰓蓋骨および間鰓蓋骨の縁辺が通常なめらかであること, 背鰭第 3–5 棘にやや長い皮膜をもつことなどから区別することができる (Wada et al., 2020a).  
 (笹木大地)



ニシキハナダイ *Plectranthias sagamiensis*, FRLM 54624, 50 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

**ナガハナダイ**  
*Pseudanthias elongatus*  
 (Franz 1910)

日本および韓国に分布する。国内では相模湾から愛媛県の太平洋沿岸、山口県日本海側、薩摩半島、伊豆大島、奄美大島、沖縄県に分布する。三重県では志摩市和具沖および御座沖、紀北町島勝浦から標本が得られている。雄の体色は体前半で赤色、体後半で紫色からピンク色で黄色の斑模様がある。雌の体色はキンギョハナダイ *Pseudanthias squamipinnis* (Peters 1855) の雌に類似するが、背鰭第3-10棘間の鰭膜は無鱗であること、背鰭軟条は15-16であること、胸鰭軟条は19-20であることから区別することができる。  
 (笹木大地)

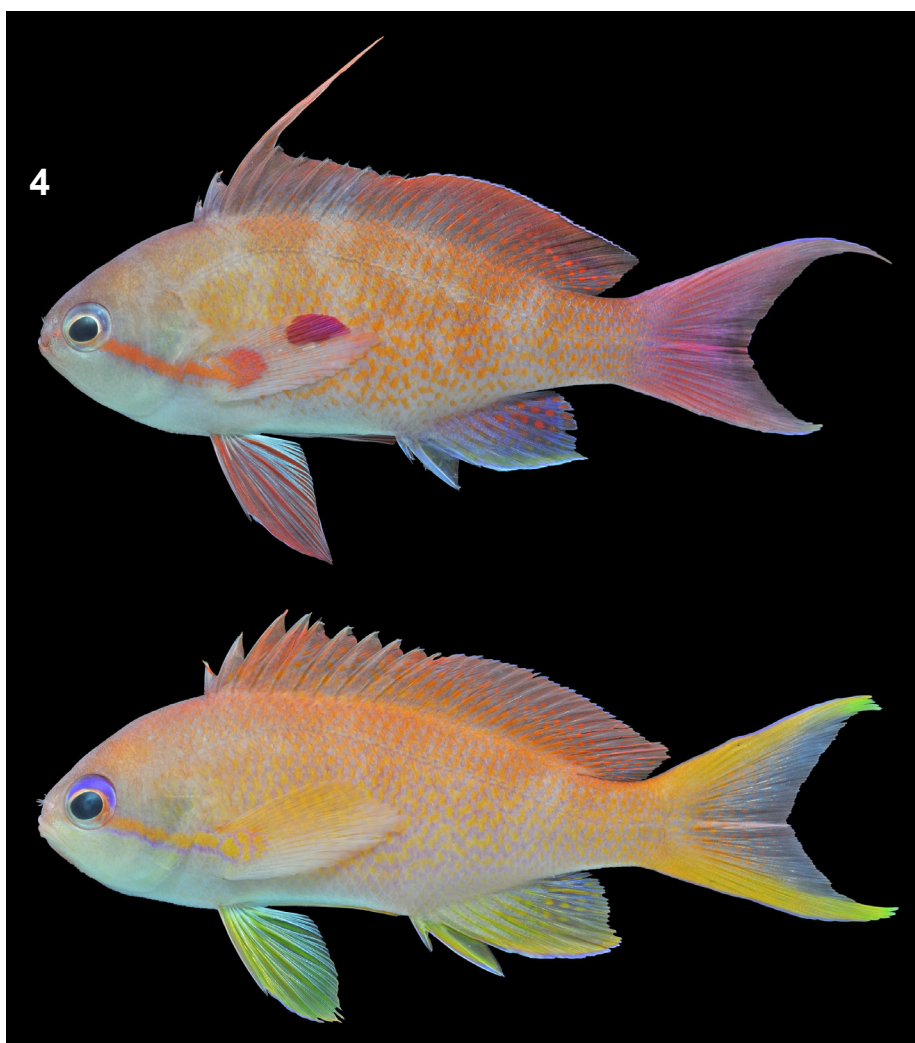
ナガハナダイ *Pseudanthias elongatus*,  
 上 ♂, FRLM 56598, 115 mm SL  
 志摩市志摩町御座沖  
 下 ♀, FRLM 63607, 34 mm SL  
 紀北町島勝浦



**キンギョハナダイ**  
*Pseudanthias squamipinnis*  
 (Peters 1855)

インドー西太平洋、日本では山口県から九州北岸の日本海、相模湾から琉球列島、伊豆・小笠原諸島に分布する。三重県では熊野市二木島から標本が得られている。背鰭第3-10棘間の鰭膜は交互に棘先端付近まで鱗で覆われることが特徴。  
 (笹木大地)

キンギョハナダイ  
*Pseudanthias squamipinnis*  
 上 ♂, FRLM 45827, 87 mm SL  
 下 ♀, FRLM 45828, 73 mm SL  
 熊野市二木島町





## サクラダイ属 Genus *Sacura* Jordan & Richardson 1910

### サクラダイ *Sacura margaritacea* (Hilgendorf 1879)

韓国，日本から台湾に分布する．日本では京都府から九州北西岸の日本海沿岸，茨城県から琉球列島，伊豆・小笠原諸島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．雄の体色は赤く，銀白色の斑紋がみられること，背鰭第3棘が伸長することが特徴．雌の体色は橙色で背鰭棘条部に大きな黒斑がある．（笹木大地）

サクラダイ *Sacura margaritacea*  
上 ♂, FRLM 57042, 104 mm SL  
志摩市志摩町御座沖  
下 ♀, FRLM 57245, 76 mm SL  
志摩市志摩町沖

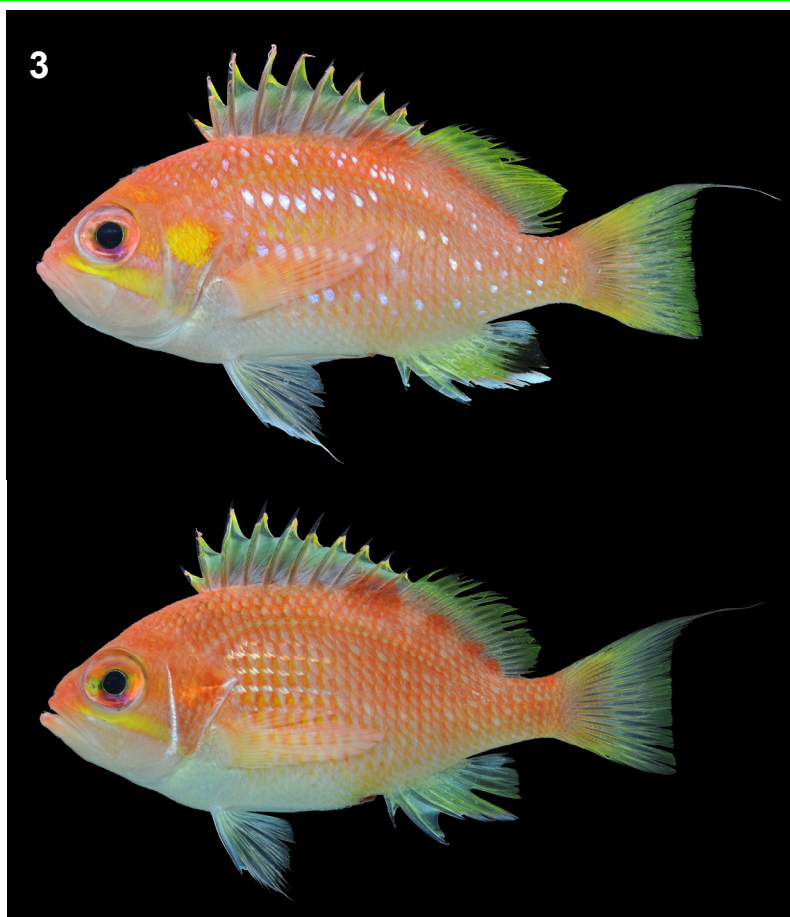


## スミツキハナダイ属 Genus *Selenanthias* Tanaka 1918

### スミツキハナダイ *Selenanthias analis* Tanaka 1918

日本から台湾，ベトナム，インドネシア，フィリピン，オーストラリア北西岸に分布する．日本では静岡県大瀬崎から九州南岸の太平洋沿岸，大隅諸島，沖縄舟状海盆に分布する．三重県では志摩半島沖の水深70-100 m 付近でしばしば採集される．雄は臀鰭に黒斑があることが特徴．雌は体背縁に赤色の斑紋がみられる．（笹木大地）

スミツキハナダイ *Selenanthias analis*  
上 ♂, FRLM 44911, 115 mm SL  
下 ♀, FRLM 44912, 84 mm SL  
志摩市志摩町御座沖



## ヒメハナダイ属 Genus *Tosana* Smith & Pope 1906

### ヒメハナダイ *Tosana niwae* Smith & Pope 1906

中国から日本の東アジア，国内では富山県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，相模湾から九州南岸の太平洋沿岸，奄美大島，沖縄県，東シナ海大陸棚縁辺域に分布する．三重県では鵜殿沖で釣獲された標本があるほか，熊野灘で操業するまき網によって混獲された．日本産ハナダイ科魚類内で本属は，背鰭鰭条がX，13-14であること，臀鰭軟条数が6-7であること，胸鰭軟条数が15-16であること，側線有孔鱗数が34-37であること，体高が低いこと，尾鰭が深い湾入形などの特徴によって他属と区別できる（中村・本村，2022）．  
（笹木大地）



ヒメハナダイ *Tosana niwae*, FRLM 64529, 121 mm SL, 紀宝町鵜殿沖

## ハタ科 Family Epinephelidae Bleeker 1874

### ユカタハタ属 Genus *Cephalopholis* Bloch & Schneider 1801

#### アオノメハタ *Cephalopholis argus* Schneider 1801

インドー太平洋，日本では三浦半島から九州南岸，大隅諸島以南，伊豆・小笠原諸島，大東諸島から記録されている．三重県では尾鷲市九鬼から幼魚1標本が得られている．体が暗色で頭部から尾部，背鰭，臀鰭，尾鰭に青色小斑点が多数あることでユカタハタ *Cephalopholis miniata* (Forsskål 1775) に似るが，胸鰭が黒いことにより容易に区別できる．幼魚では体側や各鰭の青色小斑点は不明瞭．  
（笹木大地）



アオノメハタ *Cephalopholis argus*, FRLM 64647, 33 mm SL, 尾鷲市九鬼町

#### ヤミハタ *Cephalopholis boenak* (Bloch 1790)

インドー西太平洋，日本では三重県から沖縄県に分布する．三重県では尾鷲市から標本が得られており，近年採集例が増加している．鰓蓋に黒色斑があること，体は黒っぽく多くの濃暗色横帯があることが特徴．  
（笹木大地）



ヤミハタ *Cephalopholis boenak*, FRLM 61789, 117 mm SL, 尾鷲市賀田町



**ユカタハタ**  
***Cephalopholis miniata***  
**(Forsskål 1775)**

インドー太平洋, 日本では三浦半島から沖縄県, 九州北西岸, 伊豆・小笠原諸島に分布する。三重県では尾鷲市から多数標本が得られている。体は赤色で頭部から尾部, 背鰭, 臀鰭, 尾鰭に青色小斑点が多数あることが特徴。(笹木大地)



ユカタハタ *Cephalopholis argus*, FRLM 62966, 211 mm SL, 尾鷲市九鬼町

**アザハタ**  
***Cephalopholis sonnerati***  
**(Valenciennes 1828)**

インドー太平洋, 日本では駿河湾から沖縄県, 伊豆・小笠原諸島に分布する。三重県では志摩市, 南伊勢町, 尾鷲市から標本が得られている。鰓蓋に暗色斑があること, 頬に網目状斑があることが特徴。(笹木大地)



アザハタ *Cephalopholis sonnerati*, FRLM 61693, 171 mm SL, 南伊勢町方座浦

**アカハタ属 Genus *Epinephelus* Bloch 1793**

**キジハタ**  
***Epinephelus akaara***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

朝鮮半島南岸からトンキン湾の西太平洋に分布する。日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海に分布する。本種は体の地色が褐色で赤橙色の斑点が密に分布すること, 背鰭基底中央部に大きな黒色斑があることが特徴。

(笹木大地)

キジハタ *Epinephelus akaara*  
 上 FRLM 52240, 202 mm SL  
 志摩市志摩町和具沖  
 中 FRLM 51115, 184 mm SL  
 英虞湾内座賀島  
 下 FRLM 53239, 189 mm SL  
 志摩市志摩町和具沖 (左右反転)

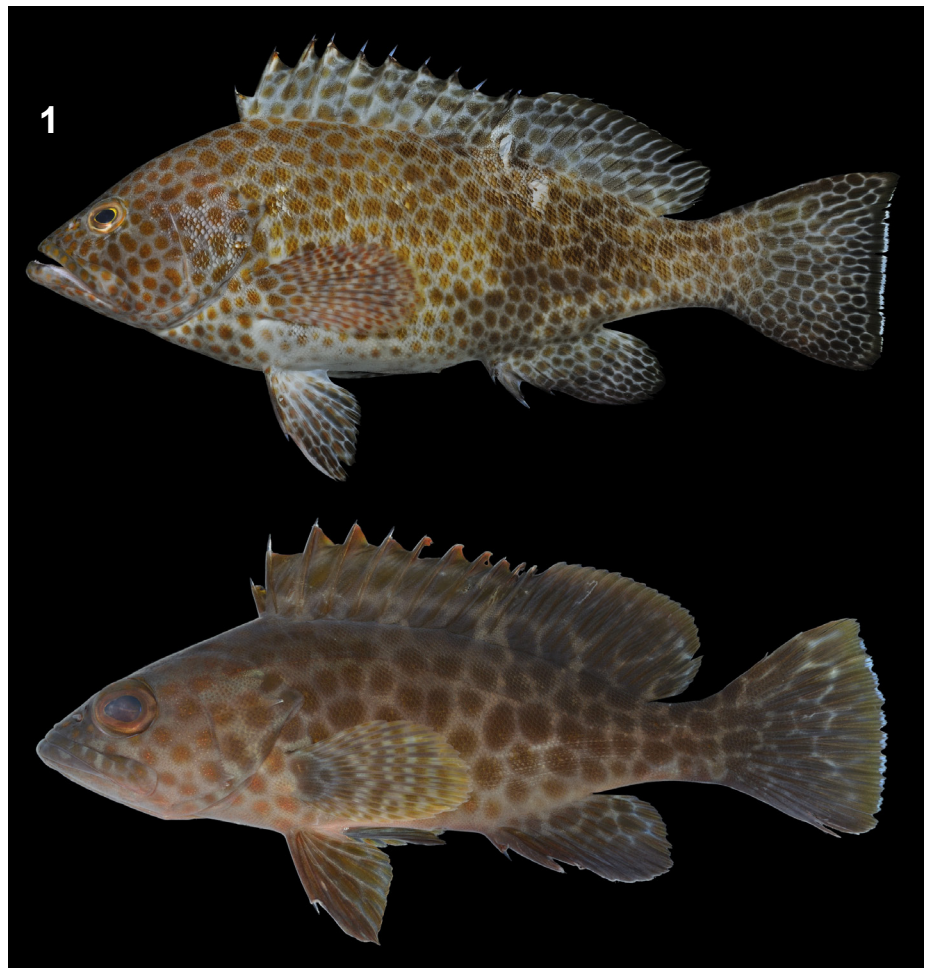




**オオモンハタ**  
***Epinephelus areolatus***  
**(Forsskål 1775)**

インドー西太平洋, 日本では山口県日本海側, 相模湾から琉球列島, 小笠原諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布し, 伊勢湾でも幼魚が採集されている。近年は釣りや定置網などによる漁獲が増加している。本種は体側の斑点は大きく, 多くが瞳孔より大きいもしくは同大であること, 概ね 100 mm 以上の個体では尾鰭は截形もしくは湾入形に近い形状で, 上縁が尖ること, 尾鰭後縁に明瞭な白色線があること, 胸鰭に斑紋があることから近縁のマホロバハタ *Epinephelus insularis* Nakamura & Motomura 2021 およびホウセキハタ *Epinephelus japonicus* (Temminck & Schlegel 1843) から区別できる (Nakamura and Motomura, 2021 ; 中村ほか, 2023)。(笹木大地)

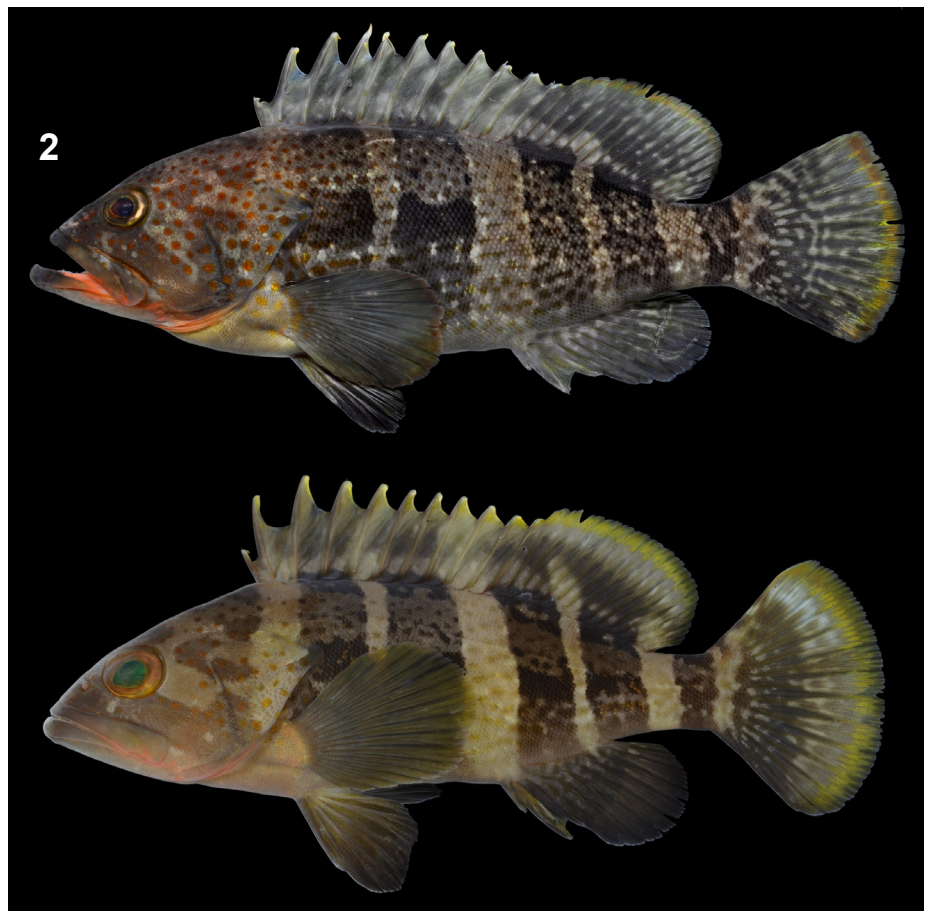
オオモンハタ *Epinephelus areolatus*  
 上 FRLM 45823, 181 mm SL  
 熊野市二木島町  
 下 FRLM 57051, 68 mm SL, 尾鷲市



**アオハタ**  
***Epinephelus awoara***  
**(Forsskål 1775)**

朝鮮半島南岸からフィリピン諸島までの西太平洋, 日本では山形県から山口県の日本海沿岸, 長崎県佐世保, 対馬, 宮城県, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 大阪湾, 瀬戸内海, 種子島, 屋久島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体側に暗色横帯があること, 体に黄色から褐色斑が散在することが特徴。(笹木大地)

アオハタ *Epinephelus awoara*  
 上 FRLM 49145, 141 mm SL  
 英虞湾内座賀島  
 下 FRLM 57052, 79 mm SL  
 尾鷲市九鬼町





**キテンハタ**  
***Epinephelus bleekeri***  
**(Vaillant 1878)**

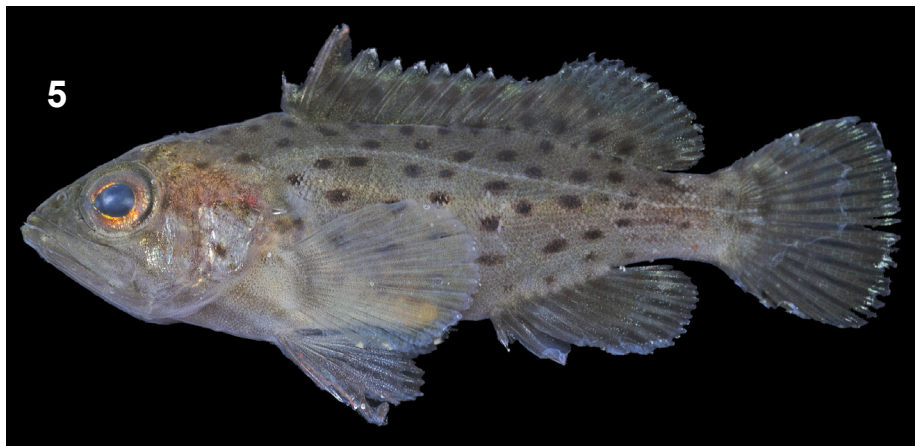
日本では相模湾、熊野灘、和歌山県串本町、鹿児島県、種子島、屋久島、奄美大島、沖縄県、八重山諸島に分布する。三重県では紀宝町鶴殿港から標本が得られており、これは本種の標本に基づく北限記録である（笹木ほか、2025）。本種はオレンジ色あるいは黄色の小斑が頭部、体側全体、および背鰭、尾鰭上部 1/3 に散在すること、尾鰭下部 2/3 が暗いグレイであることが特徴（Randall and Heemstra, 1991; 藤原ほか、2015）。（笹木大地）



キテンハタ *Epinephelus bleekeri*, FRLM 62972, 266 mm SL, 紀宝町鶴殿

**シラヌイハタ**  
***Epinephelus bontoides***  
**(Bleeker 1855)**

台湾南部、フィリピン諸島、インドネシア、ニューブリテン島に分布する。日本では三重県、宮崎県門川町、鹿児島県、種子島、屋久島、口永良部島、奄美大島に分布する。三重県では熊野市大泊町から記録されており（荒井・佐藤、2021）、紀北町矢口浦から幼魚が採集された。本種は尾鰭後縁が丸いこと、頭部の上部約 3/4 の領域や腹部を除く体側部、各鰭膜に赤褐色の小斑点が存在する



シラヌイハタ *Epinephelus bontoides*, FRLM 61778, 22 mm SL, 紀北町矢口浦

こと、臀鰭および背鰭の軟条部、胸鰭、尾鰭の縁辺が白く縁取られることなどの特徴である（Randall and Heemstra, 1991; 栗岩ほか、2008; 中村ほか、2019）。（笹木大地）

**クエ**  
***Epinephelus bruneus***  
**Bloch 1793**

朝鮮半島南岸から海南島までの西太平洋、日本では青森県牛滝、新潟県佐渡から九州北西岸、千葉県から沖縄県、伊豆諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布し、延縄や定置網で漁獲され極めて高値で取引される。体に 6-7 本の暗色横帯があり、前方のものほど傾斜することが特徴であるが、老成魚ではこの模様が不鮮明となり、体が一様に褐色となる。（笹木大地）



クエ *Epinephelus bruneus*, FRLM 62965, 234 mm SL, 尾鷲市賀田町

**ハクテンハタ**  
***Epinephelus coeruleopunctatus***  
**(Bloch 1790)**

インド-西太平洋、ミクロネシア、日本では千葉県から沖縄県、伊豆・小笠原諸島に分布する。三重県では英虞湾および南伊勢町から標本が得られている。体の地色は暗色で、丸い白色斑が散在すること、胸鰭は一様に黒色でその縁辺は白く縁取られることが特徴。（笹木大地）



ハクテンハタ  
*Epinephelus coeruleopunctatus*  
 上 FRLM 61240, 279 mm SL  
 南伊勢町賛浦  
 下 FRLM 55633, 16 mm SL  
 英虞湾内座賀島

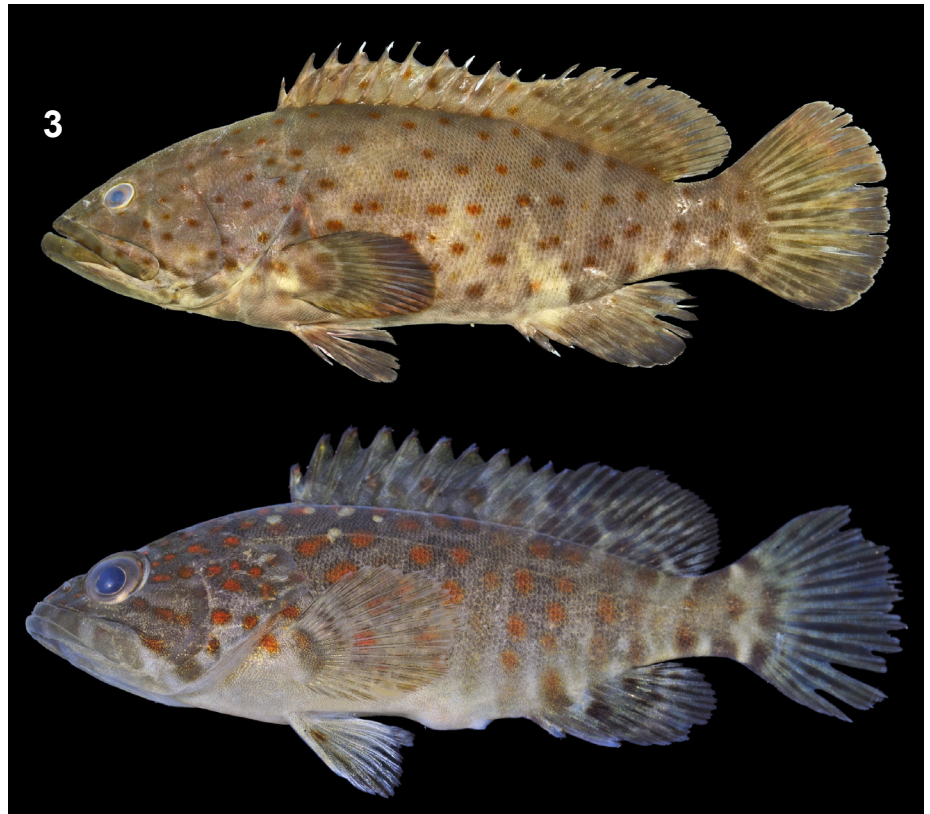




**チャイロマルハタ**  
***Epinephelus coioides***  
**(Hamilton 1822)**

インドー西太平洋, 日本では新潟県柏崎, 山口県日本海側, 相模湾から沖縄県に分布する. 三重県では熊野灘から標本が得られており, 2020年代以降は各地の水揚げ市場でもしばしばみられる. 体側の斑点は瞳孔大であり赤褐色であること, 体に白いまだら模様がないことで近縁のヤイトハタ *Epinephelus malabaricus* (Bloch & Schneider 1801) と区別できる.  
 (笹木大地)

チャイロマルハタ *Epinephelus coioides*  
 上 FRLM 56610, 244 mm SL  
 南伊勢町宿浦  
 下 FRLM 63091, 53 mm SL  
 紀北町矢口浦



**ツチホゼリ**  
***Epinephelus cyanopodus***  
**(Richardson 1846)**

西太平洋, 日本では相模湾以南の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では尾鷲市場に水揚げされた写真による記録がある. 本種は尾鰭が截形であること, 体高が高いこと, 体の暗色点は細かく, 網目模様を形成しないことで同属他種と区別できる.  
 (笹木大地)



ツチホゼリ *Epinephelus cyanopodus*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

**コモンハタ**  
***Epinephelus epistictus***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

インドー西太平洋, 日本では若狭湾から九州北岸・西岸の日本海・東シナ海沿岸, 相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海大陸棚域, 小笠原諸島に分布する. 三重県では紀宝町鶴殿港に水揚げされた1標本がある. 体側の斑点は網目模様を形成しないこと, 体側の暗色斑は点状で小さく, 体側上半部に集中すること, 背鰭軟条部および尾鰭に黒斑がみられることが特徴.  
 (笹木大地)



コモンハタ *Epinephelus epistictus*, FRLM 57225, 244 mm SL, 紀宝町鶴殿



**アカハタ**  
***Epinephelus fasciatus***  
**(Forsskål 1775)**

インドー太平洋, 富山湾および相模湾から琉球列島, 伊豆・小笠原諸島, 大東諸島に分布する。熊野灘で最も普通に見られるハタ科魚類であり, 延縄, 釣りで漁獲される。本種は尾鰭縁辺が丸いこと, 背鰭棘条部縁辺は黒いことで近縁のアカハタモドキ *Epinephelus retouti* Bleeker 1868 から区別できる。(笹木大地)

**アカマダラハタ**  
***Epinephelus fuscoguttatus***  
**(Forsskål 1775)**

インドー太平洋, 日本では三重県, 種子島, 奄美大島, 沖縄諸島, 八重山諸島に分布する。三重県では標本は残されていないが, 南伊勢町奈屋浦市場に水揚げされた写真の記録があり, これは本種の北限記録である(笹木ほか, 2025)。本種は頭部背縁が眼後部で凹み, 後頭部で盛り上がることで, 胸鰭の地色が赤褐色であることから近縁のマダラハタ *Epinephelus polyphkadion* (Bleeker 1849) から区別できる。(笹木大地)

**イシガキハタ**  
***Epinephelus hexagonatus***  
**(Forster 1801)**

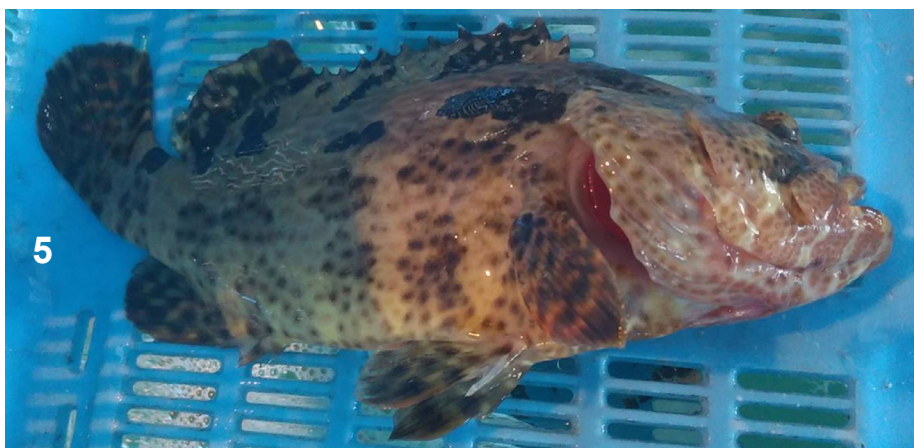
インドー西・中央太平洋, 日本では三重県から沖縄県, 八丈島, 豆南諸島, 小笠原諸島に分布する。三重県では尾鷲市九鬼から得られた標本があり, これは標本に基づく本種の北限記録である(笹木ほか, 2025)。体の背縁に5個の黒斑があること, 体側中央の暗色斑に特に黒いものがあることが特徴。(笹木大地)

**ハウセキハタ**  
***Epinephelus japonicus***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

日本, 台湾南部, 中国南シナ海に分布する(Nakamura and Motomura, 2021)。日本では山口県, 長崎県, 相模湾から鹿児島湾, 大隅諸島に分布する。三重県では志摩市御座沖および尾鷲市早田から標本が得られている。体側の斑点は小さく, 瞳孔より小さいこと, 尾鰭は後縁がまるみを帯びる截形であること, 尾鰭後縁に明瞭な白色線がないこと, 胸鰭の斑紋は不明瞭であること, 体腹部に斑点がないことから近縁のオオモンハタ *Epinephelus areolatus* (Forsskål 1775) およびマホロバハタ *Epinephelus insularis* Nakamura & Motomura 2021 から区別できる(Nakamura and Motomura, 2021; 中村ほか, 2023)。(笹木大地)



アカハタ *Epinephelus fasciatus*, FRLM 41015, 209 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖



アカマダラハタ *Epinephelus fuscoguttatus*, 南伊勢町奈屋浦 (久保貴史氏撮影)



イシガキハタ *Epinephelus hexagonatus*, FRLM 61697, 169 mm SL, 尾鷲市九鬼町

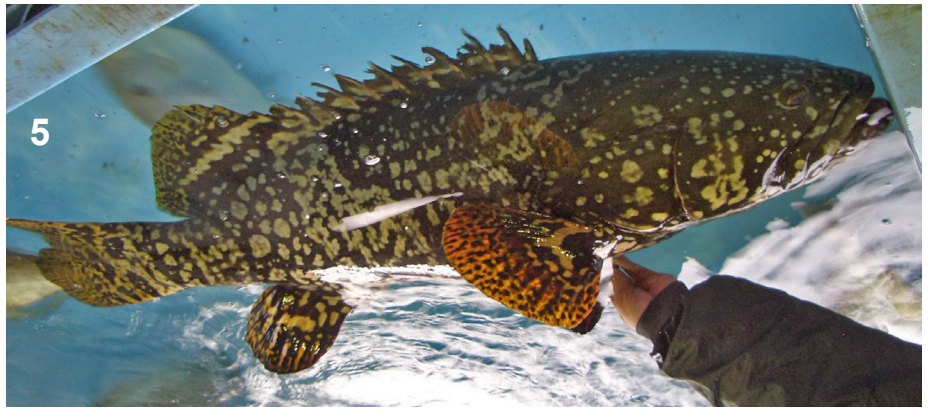


ハウセキハタ *Epinephelus japonicus*  
上 FRLM 63603, 357 mm SL  
尾鷲市早田町  
下 FRLM 57343, 182 mm SL  
志摩市志摩町御座沖



**タマカイ**  
***Epinephelus lanceolatus***  
**(Bloch 1790)**

インドー太平洋, 日本では山口県日本海側, 三重県, 和歌山県紀伊大島, 鹿児島県笠沙, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南から記録されている。三重県では熊野灘沿岸の定置網で漁獲された写真記録がある。本種は背鰭棘条部が低く, 前方で高くなること, 側線管開口部は4-6本に分枝することで同属他種と区別できる。環境省絶滅危惧IA類。  
 (笹木大地)



タマカイ *Epinephelus lanceolatus*, 三重県 (岩田昭人氏撮影)

**オオスジハタ**  
***Epinephelus latifasciatus***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

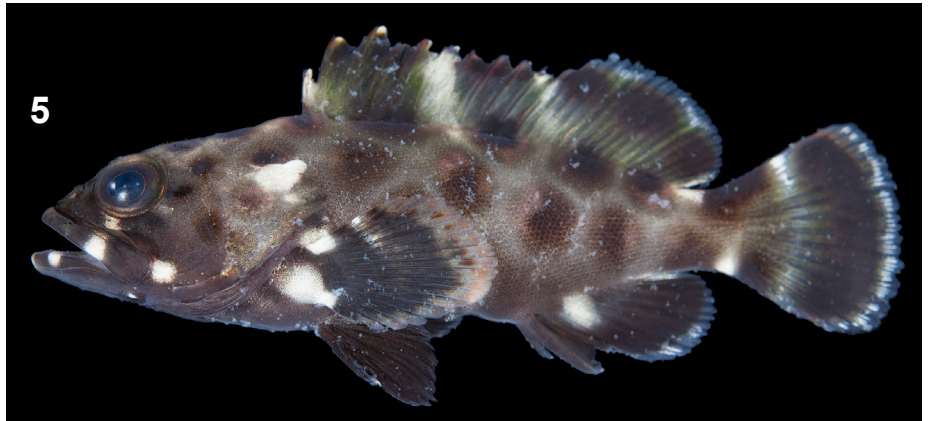
インドー西太平洋, 日本では山口県日本海側, 九州北西岸, 相模湾から鹿児島県, 瀬戸内海, 馬毛島, 小笠原諸島に分布する。三重県では志摩市安乗から標本が得られた。本種は体に暗色と淡色の縦帯が交互にあり, それらの境界線は黒いことが特徴であるが, 成長に伴い淡色域は暗色となり, 境界部は黒色縦帯, 黒色点列を経て老成魚では消失する。また, 背鰭と尾鰭に黒色斑があることが特徴。  
 (笹木大地)



オオスジハタ *Epinephelus latifasciatus*, FRLM 58447, 352 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

**キビレハタ**  
***Epinephelus macrospilos***  
**(Bleeker 1855)**

インドー西太平洋, 日本では相模湾から宮崎県の太平洋沿岸, 小笠原諸島, 大隅諸島以南から記録されている。三重県では尾鷲市行野浦のタイドプールで幼魚1標本が得られている。本種は胸鰭全体に暗色斑がないこと, 臀鰭外縁が黒くないこと, 尾鰭に暗色の斑点が密在し網目模様をなすこと, 体の背縁に黒斑がないこと, 胸部から胸鰭基底に横帯がないことにより同属他種と区別できる。なお, 三重県産の幼魚の標本は, 遺伝子解析によって本種に同定された (笹木ほか, 2025)。  
 (笹木大地)



キビレハタ *Epinephelus macrospilos*, FRLM 63576, 33 mm SL, 尾鷲市行野浦

**シロブチハタ**  
***Epinephelus maculatus***  
**(Bloch 1790)**

キーリング諸島からサモア, ミクロネシア, 日本までのインドー太平洋に分布する。日本では相模湾から沖縄県, 八丈島, 小笠原諸島に分布する。三重県では志摩市越賀沖から標本が得られている。本種は体側の斑点は網目模様を形成すること, 体背部と背鰭に淡色域があることが特徴。  
 (笹木大地)



シロブチハタ *Epinephelus maculatus*, FRLM 46947, 295 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖



## ヤイトハタ

***Epinephelus malabaricus*  
(Bloch & Schneider 1801)**

インドー西太平洋, 日本では兵庫  
県日本海側, 島根県, 相模湾から沖  
縄県に分布する. 三重県では紀北町  
引本浦から標本が得られている. 体  
側の斑点は瞳孔よりも小さく, 黒色  
であること, 体に白いまだら模様  
があることで近縁のチャイロマルハタ  
*Epinephelus coioides* (Hamilton 1822)  
と区別できる. (笹木大地)



ヤイトハタ *Epinephelus malabaricus*, FRLM 61695, 360 mm SL, 紀北町引本浦

## スミツキハタ

***Epinephelus melanostigma*  
Schultz 1953**

インドー太平洋, 日本では相模湾,  
伊豆半島東岸, 三重県, 高知県, 小  
笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島  
から記録されていた. 三重県では志  
摩市片田で採集された. 本種は体側  
の斑点は網目模様を形成すること,  
胸鰭全体に暗色の斑点が散在し, 網  
目模様を形成すること, 背鰭基底中  
央部付近に大きな黒斑があること,  
吻は眼の直前で隆起しないこと, 体  
側の斑点の輪郭が明瞭であることで  
同属他種と区別できる. (笹木大地)

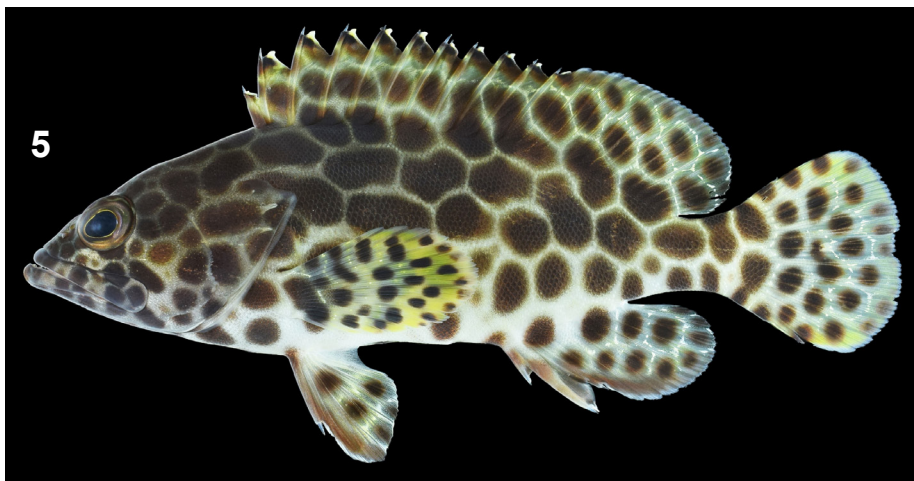


スミツキハタ *Epinephelus melanostigma*, FRLM 64558, 38 mm SL, 志摩市志摩町片田

## カンモンハタ

***Epinephelus merra*  
Bloch 1793**

インドー太平洋, 日本では相模湾  
から沖縄県, 八丈島, 小笠原諸島に  
分布する. 三重県では尾鷲市九鬼か  
ら標本が得られている. 本種は体側  
中央の斑点のいくつかは互いに連続  
すること, 背鰭基底に大きな黒斑が  
ないことが特徴. (笹木大地)



カンモンハタ *Epinephelus merra*, FRLM 61698, 75 mm SL, 尾鷲市九鬼町

## ホウキハタ

***Epinephelus morrhua*  
(Valenciennes 1833)**

インドー太平洋, 日本では相模  
湾から琉球列島, 山口県日本海側,  
伊豆大島, 小笠原諸島に分布する.  
本種は体側の下半分に弧状の模様  
があること, 体背部に暗色の斜走  
帯をもつことで近縁のイヤゴハタ  
*Epinephelus poecilonotus* (Temminck &  
Schlegel 1843) から区別できる.  
(笹木大地)



ホウキハタ *Epinephelus morrhua*  
志摩市志摩町御座沖  
上 FRLM 44966, 323 mm SL  
下 FRLM 52904, 179 mm SL





## イヤゴハタ

***Epinephelus poecilonotus***  
(Temminck & Schlegel 1843)

インドー西太平洋，日本では富山湾から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，相模湾から九州南岸の太平洋沿岸，伊豆・小笠原諸島，種子島，沖縄県に分布する．本種は体側の斑紋はすべて弧状であることが特徴．弧状の斑紋は成長に伴い不顕著な点状の斑紋へと変化する．（笹木大地）



イヤゴハタ *Epinephelus poecilonotus*, FRLM 44342, 195 mm SL, 志摩市大王町退治崎沖

## マダラハタ

***Epinephelus polyphekadion***  
(Bleeker 1849)

インドー太平洋，日本では愛知県三河湾，熊野灘，八丈島，小笠原諸島，種子島，屋久島，徳之島，琉球列島，南大東島に分布する．三重県では熊野市および南伊勢町から写真による記録が存在する（日比野・長野，2020；笹木ほか，2025）．本種は頭部背縁がなめらかで丸いこと，胸鰭の地色が赤褐色ではなく淡色から暗色であることが特徴．（笹木大地）



マダラハタ *Epinephelus polyphekadion*, 南伊勢町（岡田 誠撮影）

## モヨウハタ

***Epinephelus quoyanus***  
(Valenciennes 1830)

東インド洋から西太平洋，日本では相模湾から琉球列島，山口県日本海側に分布する．三重県では南伊勢町宿浦と尾鷲市九鬼から標本が得られている．本種は胸部から胸鰭基底にかけて横帯があること，尾鰭に暗色斑が密在し，網目模様を形成すること，胸鰭に暗色斑がないことが特徴．（笹木大地）



モヨウハタ *Epinephelus quoyanus*, FRLM 61565, 121 mm SL, 尾鷲市九鬼町

## カケハシハタ

***Epinephelus radiatus***  
(Day 1868)

インドー西太平洋，日本では相模湾から琉球列島，長崎県に分布する．三重県では志摩市御座沖から写真による記録がある（笹木ほか，2025）．体に黒縁のある虫食い状の幅広い淡色域があることが特徴．（笹木大地）



カケハシハタ *Epinephelus radiatus*, 志摩市志摩町御座沖（小川清宏氏撮影）



**ヒトミハタ**  
***Epinephelus tauvina***  
**(Fabricius 1775)**

インドー太平洋, 日本では相模湾, 三重県から鹿児島県本土, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する. 三重県では熊野灘で漁獲された個体の写真による記録がある (日比野・長野, 2020). 本種は背鰭第 8-11 棘基底付近に大きな黒斑があることでスミツキハタ *Epinephelus melanostigma* Schultz 1953 に似るが, 吻が眼の直前で隆起すること, 体側の斑点の輪郭はややにじみ, やや不明瞭となることで区別できる. 環境省準絶滅危惧種. (笹木大地)



ヒトミハタ *Epinephelus tauvina*, 熊野灘 (長野 敦氏撮影)

**ノミノクチ**  
***Epinephelus trimaculatus***  
**(Valenciennes 1828)**

韓国, 日本からベトナムまでの北西太平洋, 日本では山口県および千葉県興津から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 種子島, 小笠原諸島に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は体に網目状の斑紋があること, 体の背縁に 3 個の黒斑があることが特徴. (笹木大地)



ノミノクチ *Epinephelus trimaculatus*, FRLM 54692, 211 mm SL, 尾鷲市

**カスリハタ**  
***Epinephelus tukula***  
**Morgans 1959**

インドー西太平洋, 日本では相模湾, 三重県, 和歌山県みなべ町, 高知県柏島, 宮崎県門川町, 日南市, 鹿児島県南さつま町, 内之浦湾, 指宿市, 大隅諸島, 琉球諸島に分布する (Murase et al., 2018; 笹木ほか, 2025). 体側の黒斑は眼径より著しく大きいことが特徴. 環境省絶滅危惧 IA 類. (笹木大地)



カスリハタ *Epinephelus tukula*, FRLM 61279, 252 mm SL, 熊野灘

**マハタ属 Genus *Hyporthodus* Gill 1861**

**マハタモドキ**  
***Hyporthodus octofasciatus***  
**(Griffin 1926)**

インドー西太平洋, 日本では相模湾, 三重県熊野市, 和歌山県白浜沖, 宮崎県から琉球列島, 山口県日本海側, 伊豆諸島, 小笠原諸島に分布する. 三重県では熊野市遊木に水揚げされた写真による記録がある (日比野・長野, 2020). 尾鰭後縁に幅広い明瞭な白い縁取りをもたないことで同属のマハタ *Hyporthodus septemfasciatus* (Thunberg 1793) から区別できる. (笹木大地)



マハタモドキ *Hyporthodus octofasciatus*, 熊野市遊木町 (長野 敦氏撮影)



**マハタ**  
***Hyporthodus septemfasciatus***  
 (Thunberg 1793)

朝鮮半島，日本から南シナ海の北西太平洋，日本では北海道以南の日本海・東シナ海沿岸，仙台湾から沖縄県，伊豆・小笠原諸島に広く分布する。本種は尾鰭後縁に明瞭な白色域があることが特徴。（笹木大地）



マハタ *Hyporthodus septemfasciatus*, FRLM 45173, 145 mm SL, 英虞湾内座賀島

**スジアラ属 Genus *Plectropomus* Oken 1817**

**スジアラ**  
***Plectropomus leopardus***  
 (Lacepède 1802)

東インド洋から西太平洋，日本では山口県日本海側，長崎県，相模湾以南に分布する。本種は尾鰭後縁が湾入形であること，体の斑点は瞳孔より小さいこと，胸鰭は淡色であることから同属他種と区別できる。（笹木大地）

スジアラ *Plectropomus leopardus*  
 上 FRLM 46542, 255 mm SL  
 南伊勢町方座浦  
 下 FRLM 60898, 199 mm SL  
 南伊勢町宿浦



**ヤマブキハタ属 Genus *Saloptia* Smith 1964**

**ヤマブキハタ**  
***Saloptia powelli***  
 Smith 1964

東インド洋から西太平洋，日本では小笠原諸島，三重県，種子島，トカラ列島以南から記録されている。三重県では尾鷲市場に水揚げされた個体の写真による記録があり，これは本種の本州初記録として報告された（笹木ほか，2025）。本種は背鰭棘数が8であること，体が橙色であることが特徴。（笹木大地）

ヤマブキハタ *Saloptia powelli*, 尾鷲市  
 (岩田昭人氏撮影)





## トビハタ属 Genus *Triso* Randall, Johnson & Lowe 1989

### トビハタ

*Triso dermopterus*  
(Temminck & Schlegel 1843)

熱帯域を除く東インド洋から西太平洋, 日本では新潟県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸, 相模湾から鹿児島県, 小笠原諸島, 種子島, 屋久島, トカラ列島諏訪之瀬島に分布する。三重県では御浜町から標本が得られており, 南伊勢町から写真による記録がある。本種は体高が高いこと, 体は一様に暗色で斑紋がないことなどが特徴。(笹木大地)



トビハタ *Triso dermopterus*, 南伊勢町奈屋浦 (久保貴史氏撮影)

## バラハタ属 Genus *Variola* Swainson 1839

### バラハタ

*Variola louti*  
(Fabricius 1775)

インドー太平洋, 日本では相模湾から琉球列島, 小笠原諸島に分布する。三重県では尾鷲市九鬼町および賀田町から標本が得られている。本種は尾鰭後縁が黄色であること, 幼魚は体に黒色横帯があることで同属のオジロバラハタ *Variola albigmarginata* Baissac 1953 から区別できる。(笹木大地)

バラハタ *Variola louti*

上 FRLM 61556, 165 mm SL

尾鷲市賀田町

下 FRLM 62943, 152 mm SL

尾鷲市九鬼町



## ハナスズキ科 (新称) Family Liopropomatidae Poey 1867

## ルリハタ属 Genus *Aulacocephalus* Temminck & Schlegel 1843

### ルリハタ

*Aulacocephalus temminckii*  
Bleeker 1855

インドー西太平洋, マーシャル諸島に分布する。日本では相模湾以南の太平洋, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。体は側扁し, 体の背縁に沿って1黄色帯があることが特徴。(笹木大地)

ルリハタ *Aulacocephalus temminckii*

FRLM 56030, 193 mm SL

志摩市志摩町和具沖



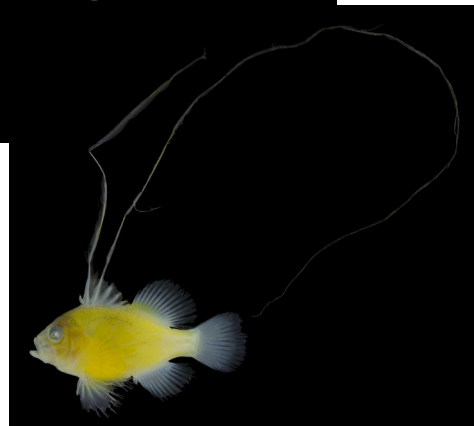
## キハツク属 Genus *Diploprion* Cuvier 1828

### キハツク *Diploprion bifasciatum* Cuvier 1828

インド以東のインド洋および西太平洋、日本では佐渡島以南の日本海沿岸、九州北岸・西岸、相模湾から九州南岸の太平洋沿岸、奄美大島、沖永良部島、琉球列島に分布する。三重県では熊野灘および伊勢湾から標本が得られている。体の地色は淡黄色で2黒色横帯があることが特徴。本種の幼魚は背鰭棘が糸状に伸長する。  
(笹木大地)



キハツク *Diploprion bifasciatum*  
上 FRLM 45683, 179 mm SL, 南伊勢町  
下 FRLM 57873, 32 mm SL  
南伊勢町宿浦



## ハナスズキ属 Genus *Liopropoma* Gill 1861

### トゲハナスズキ *Liopropoma japonicum* (Döderlein 1883)

台湾から韓国釜山、日本の東アジア、日本では相模湾から鹿児島県の太平洋沿岸、長崎県、東シナ海大陸棚縁辺から斜面域、奄美諸島、沖縄諸島、宮古島に分布する。三重県では志摩市から標本が得られている。本種は体色が赤っぽく、赤色の縦帯をもつこと、背鰭軟条数は13-14であること、臀鰭軟条数は10-11であることから同属他種と区別できる。  
(笹木大地)



トゲハナスズキ *Liopropoma japonicum*, FRLM 46470, 194 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

### ツルグエ *Liopropoma latifasciatum* (Tanaka 1922)

日本、韓国釜山から台湾南部、パラオ諸島に分布する。日本では相模湾から愛媛県西海の太平洋沿岸、日向灘、伊豆諸島、奄美大島以南、沖縄舟状海盆に分布する。三重県では志摩半島沖から標本が得られている。本種は体側縦帯が尾柄上で側線から離れること、背鰭軟条数は通常13であること、臀鰭軟条数は9であることから近縁のクロオビスズキ *Liopropoma lemniscatum* Randall & Taylor 1988 から区別できる。  
(笹木大地)



ツルグエ *Liopropoma latifasciatum*, FRLM 61674, 147 mm SL, 志摩市志摩町御座沖



## ヌノサラシ科 Family Grammistidae Bleeker 1857

ヌノサラシ属 Genus *Grammistes* Bloch & Schneider 1801ヌノサラシ  
*Grammistes sexlineatus*  
(Thunberg 1792)

インドー太平洋，日本では岩手県大船渡，相模湾から琉球列島，伊豆・小笠原諸島に分布する．三重県では尾鷲市早田の定置網で混獲された個体の写真による記録がある．本種は黒色の体に複数の白色縦帯や白色線列があることが特徴．（笹木大地）



ヌノサラシ *Grammistes sexlineatus*, 尾鷲市早田町（中井恭佑氏撮影）

## アラ科 Family Nipponidae Jordan 1923

アラ属 Genus *Nippon* Cuvier 1828アラ  
*Nippon spinosus*  
Cuvier 1828

台湾から日本，韓国の東アジア，日本では青森県から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸，北海道から九州南岸の太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海大陸棚縁辺から斜面域，薩南諸島，トカラ列島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種はハタ科魚類に似るが，背鰭棘数が13であること，前鰓蓋骨隅角部に強大な1棘があることで区別できる．（笹木大地）



アラ *Nippon spinosus*, FRLM 55682, 166 mm SL, 熊野灘

## アイトラギス科 Family Bembropidae Regan 1913

アイトラギス属 Genus *Bembrops* Steindachner 1876アイトラギス  
*Bembrops caudimacula*  
Steindachner 1876

東大西洋，インドー西太平洋，日本では山口県日本海側，長崎県，東京湾から日向灘の太平洋に分布する．三重県では熊野灘から標本が得られている．本種は側線が胸鰭基底後方から第2背鰭起部下にかけて，ゆるやかに下方に曲がること，背鰭第1棘は糸状に伸びないことで同属他種と区別できる．（笹木大地）

アイトラギス *Bembrops caudimacula*  
熊野灘

上 ♂, FRLM 61351, 173 mm SL  
下 ♀, FRLM 61352, 162 mm SL



**ナミアイトラギス**  
***Bembrops curvatura***  
**Okada & Suzuki 1952**

東インドー西太平洋，日本では島根県敦賀川沖から山口県日本海側，熊野灘，土佐湾，鹿児島県，東シナ海，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域に分布する。本種は尾鰭市場に水揚げされた個体に基づいて Okada and Suzuki (1952) によって記載された。本種は側線が胸鰭基底後



ナミアイトラギス *Bembrops curvatura*, FRLM 64643, 155 mm SL, 熊野灘

方で急に下方に曲がることで同属他種と区別できる。(笹木大地)

**イトヒキアイトラギス**  
***Bembrops filiferus***  
**Gilbert 1905**

東インドー西・中央太平洋，日本では熊野灘，土佐湾，宮崎県門川町，東シナ海，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域に分布する。本種は背鰭第1棘が糸状に長く伸びるこ



イトヒキアイトラギス *Bembrops filiferus*, FRLM 8924, 204 mm SL, 熊野灘 (固定標本)

とでソメワケアイトラギス *Bembrops* sp. 1 に似るが，尾鰭下縁は黒っぽいこと，雄の第2背鰭上半分は暗色であること，雌の腹鰭の暗色域は広いこと，側線鱗数は60-64であることで区別できる。(笹木大地)

**カサゴ亜目 Suborder Scorpaenoidei**

**コチ科 Family Platycephalidae Swainson 1839**

**イネゴチ属 Genus *Cociella* Whitley 1940**

**イネゴチ**  
***Cociella crocodila***  
**(Cuvier 1829)**

朝鮮半島南岸から南海島の大陸沿岸に広く分布する。国内では青森県以南に生息する。本種は間鰓蓋部に皮弁がないこと，鰓耙は通常7本であることで日本産同属のミナミイネ



イネゴチ *Cociella crocodila*, FRLM 37313, 243 mm SL, 志摩市志摩町御座

ゴチ *Cociella punctata* (Cuvier 1829) と区別できる。(大島夢加)

**トカゲゴチ属 Genus *Inegocia* Jordan & Thompson 1913**

**トカゲゴチ**  
***Inegocia japonica***  
**(Cuvier 1829)**

インドからオーストラリア北東岸のインドー西太平洋に広く分布する。国内では千葉県銚子から九州南岸，瀬戸内海に生息する。三重県では熊野灘沿岸で見られる。本種はすべての側線鱗に棘があること，臀鰭軟条が12本であることで日本産同属



トカゲゴチ *Inegocia japonica*, FRLM 51152, 194 mm SL, 英虞湾内座賀島

のワニゴチ *Inegocia ochiaii* Imamura 2010 と区別できる。(大島夢加)

**ワニゴチ**  
***Inegocia ochiaii***  
**Imamura 2010**

済州島から海南島にかけて分布する。国内では房総半島南岸から九州南岸，屋久島に生息する。三重県では熊野灘に分布する。本種は側線鱗の棘が前方に限られること，臀鰭軟条が11本であることで日本産同属のトカゲゴチ *Inegocia japonica* (Cuvier 1829) と区別できる。(大島夢加)



ワニゴチ *Inegocia ochiaii*, FRLM 37604, 385 mm SL, 志摩市大王町波切



## メゴチ属 Genus *Insidiator* Jordan & Snyder 1900

### メゴチ

*Insidiator meerdervoortii*  
(Bleeker 1860)

東シナ海大陸棚域に広く分布する。国内では青森県以南に生息する。本種は眼下骨系の隆起線が5棘以上、虹彩皮膜が単純であること、間鰓蓋部に皮弁があること、側線有孔鱗数が46以上、第1背鰭後半部が黒いことで日本産同科他種と区別できる。  
(大島夢加)



メゴチ *Insidiator meerdervoortii*, FRLM 35083, 152 mm SL, 尾鷲市

## クモゴチ属 Genus *Kumococius* Matsubara & Ochiai 1955

### クモゴチ

*Kumococius rodericensis*  
(Cuvier 1829)

インドー西太平洋に広く分布する。国内では土佐湾、瀬戸内海および宮崎県門川町で記録される。三重県では尾鷲市から2標本が得られている。本種は眼下骨系の隆起線が5棘以上、間鰓蓋部に皮弁があること、側線有孔鱗数は46以上であること、第1背鰭の第2、4鰭膜の上縁に黒色斑があることで同科他種と区別できる。本標本は尾鷲市の定置網で採集



クモゴチ *Kumococius rodericensis*, FRLM 35082, 158 mm SL, 尾鷲市

された。また本標本は三重県初記録本である。  
であるとともに、北限を更新する標

(大島夢加)

## アネサゴチ属 Genus *Onigocia* Jordan & Thompson 1913

### アネサゴチ

*Onigocia macrolepis*  
(Bleeker 1854)

朝鮮半島西岸、台湾、ニューカレドニアに生息する。国内では千葉県銚子以南の太平洋側、新潟県以南の日本海側に生息する。三重県では南伊勢町賛浦沖から採集された。本種は眼下骨系の隆起線が9棘以上、眼上に顕著な皮弁があること、眼下骨隆起線は小棘があり、眼の側下で分断されていることであること日本産同属他種と区別できる。(大島夢加)



アネサゴチ *Onigocia macrolepis*, FRLM 46407, 93 mm SL, 南伊勢町賛浦沖

### オニゴチ

*Onigocia spinosa*  
(Temminck & Schlegel 1843)

東シナ海からオーストラリア北西岸にかけての西太平洋に分布する。国内では茨城県以南の太平洋側、新潟県以南の日本海側に生息する。三重県では伊勢湾口から熊野灘に分布する。本種は眼下骨系の隆起線が9棘以上、眼上に顕著な皮弁があること、眼下骨隆起線は小棘があり、眼の側下で分断されないことで日本産同属他種と区別できる。(大島夢加)



オニゴチ *Onigocia spinosa*, FRLM 48314, 81 mm SL, 南伊勢町

## コチ属 Genus *Platycephalus* Bloch 1795

### ヨシノゴチ *Platycephalus* sp. 1

日本，黄海，台湾に生息．国内では神奈川間三崎から九州南部西岸，瀬戸内海に生息する．三重県では志摩市から標本が得られている．本種は体が白っぽく背面に小茶褐色斑点が密に分布すること，胸鰭は前半部



ヨシノゴチ *Platycephalus* sp. 1, FRLM 49565, 223 mm SL, ベトナム

に茶褐色小斑点があり後半部は暗色 尖ることで日本産同属他種と区別で  
であること，眼が大きく下顎先端は ける． (大島夢加)

### マゴチ *Platycephalus* sp. 2

国内では青森県から九州南岸の太平洋沿岸，若狭湾から九州南岸の日本海沿岸，瀬戸内海，種子島に生息する．三重県では伊勢湾および熊野灘に分布し，刺し網，底曳網，一本釣りなどで漁獲されている．伊勢湾の海岸では本種を狙う釣り人が多い．本種は体が黒っぽく濃茶褐色で



マゴチ *Platycephalus* sp. 2, FRLM 36822, 321 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

数本の黒褐色帯があること，胸鰭は と，眼が小さく下顎先端は丸いこと  
茶褐色小斑点がかなり密に分布し， で日本産同属他種と区別できる．  
ほとんど一様に茶褐色に見えるこ (大島夢加)

## ハナメゴチ属 Genus *Ratabulus* Jordan & Hubbs 1925

### ハナメゴチ *Ratabulus megacephalus* (Tanaka 1917)

朝鮮半島南岸から海南島まで分布する．国内では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸，山口県の日本海沿岸，東シナ海大陸棚に生息する．三重県では志摩市片田，南伊勢町賛浦，尾鷲市から標本が得られている．本種は眼下骨系の隆起線が5棘以上，虹彩皮膜が単純であること，間鰓蓋部



ハナメゴチ *Ratabulus megacephalus*, FRLM 55791, 218 mm SL, 熊野灘

に皮弁がないことで日本産同科他種 と区別できる． (大島夢加)

## マツバゴチ属 Genus *Rogadius* Jordan & Richardson 1908

### マツバゴチ *Rogadius asper* (Cuvier 1829)

朝鮮半島南岸からベトナムに分布する．国内では太平洋沿岸では相模湾以南に分布し，日本海側でも新潟県や島根県で記録される．三重県では熊野灘に分布する．本種は眼隔域や眼下骨隆起線に著しく小さな鋸歯状棘があること，前鰓蓋骨に強大な1前向棘があることで日本産同属他種と区別できる． (大島夢加)



マツバゴチ *Rogadius asper*, FRLM 42275, 113 mm SL, 南伊勢町賛浦



**ササノハゴチ**  
***Rogadius patriciae***  
**Knapp 1987**

台湾南部からオーストラリア北西岸まで分布する。国内では相模湾、土佐湾、愛媛県、鹿児島県、沖縄県で確認されている。三重県では南伊勢町賛浦および尾鷲市から標本が得られている。本種は眼隔域や眼下骨隆起線に著しく小さな鋸歯状棘があること、前鰓蓋骨に強大な前向棘がないこと、第1背鰭前半に大きな黒斑があること、腹鰭は一様に褐色であることで日本産同属他種と区別できる。三重県初記録。（大島夢加）



ササノハゴチ *Rogadius patriciae*, FRLM 45183, 160 mm SL, 尾鷲市

**ハリゴチ科 Family Hoplichthyidae Kaup 1873**

**ハリゴチ属 Genus Hoplichthys Cuvier 1829**

**シマハリゴチ**  
***Hoplichthys fasciatus***  
**Matsubara 1937**

熊野灘、土佐湾、東シナ海、台湾南部に分布する。本種は熊野灘から得られた標本に基づいて記載された(Matsubara, 1937)。本種は下顎下面に棘がないこと、両眼間隔が眼径と同じか長いこと、胸鰭中央部の軟条は糸状に延長しないこと、胸鰭下部遊離軟条は短く、それらの基部付近に鰓膜があることで同属他種と区別できる。（笹木大地）



シマハリゴチ *Hoplichthys fasciatus*, FRLM 64630, 72 mm SL, 熊野灘

**イトハリゴチ**  
***Hoplichthys filamentosus***  
**Matsubara & Ochiai 1950**

東インド洋、オーストラリア、日本では駿河湾から九州南部の太平洋沿岸、島根県、対馬、東シナ海に分布する。下顎下面に棘が無く、胸鰭中央部、下部の軟条が糸状に延長する。両眼間隔は眼径より短い。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。（榊原弘陸）



イトハリゴチ *Hoplichthys filamentosus*, FRLM 64631, 65 mm SL, 熊野灘

**ソコハリゴチ**  
***Hoplichthys gilberti***  
**Jordan & Richardson 1908**

京都府から九州北部の日本海沿岸、福島県から九州南部の太平洋沿岸、東シナ海、朝鮮半島、台湾、ニュージーランドに分布する。下顎下面に多数の棘があり、吻はやや短く胸鰭下部遊離軟条は短い。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。

(榊原弘陸)



ソコハリゴチ *Hoplichthys gilberti*, FRLM 45681, 157 mm SL, 熊野灘

**ナツハリゴチ**  
***Hoplichthys langsdorfii***  
**Cuvier 1829**

新潟県から九州南部の日本海沿岸、神奈川県から九州南部の太平洋沿岸、東シナ海、韓国から台湾に分布する。下顎下面に多数の棘があり、吻はやや長い。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。

(榊原弘陸)



ナツハリゴチ *Hoplichthys langsdorfii*, KAUM-I. 81855, 141 mm SL, 高知県

**ホウボウ科 Family Triglidae Rafinesque 1815**

**ホウボウ属 Genus *Chelidonichthys* Kaup 1873**

**ホウボウ**  
***Chelidonichthys spinosus***  
**(McClelland 1843)**

中国、台湾、韓国などの東シナ海・南シナ海沿岸に分布。日本では北海道から鹿児島県にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸から記録がある。胸鰭の内面は鶯色で青色斑が散在し、縁辺部は青色。三重県では全域でよく漁獲される。本種はホウボウ科魚類中で最も市場価値は高いとされる。

(宿女太志)



ホウボウ *Chelidonichthys spinosus*, FRLM 35967, 255 mm SL, 志摩市志摩町和具

**オニキホウボウ属 Genus *Gargariscus* Smith 1917**

**オニキホウボウ**  
***Gargariscus prionocephalus***  
**(Duméril 1869)**

インドー西太平洋、日本では静岡県から土佐湾の太平洋、東シナ海から記録されている。三重県では沖合底曳網で採集された写真による記録がある。本種は頭部縁辺の凹凸が著しいことが特徴。

(笹木大地)



オニキホウボウ  
*Gargariscus prionocephalus*  
 熊野灘 (岩田昭人氏撮影)



# カナガシラ属 Genus *Lepidotrigla* Günther 1860

## ソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis* Jordan & Starks 1904

中国, 台湾, 韓国などの東シナ海沿岸に分布. 日本では青森県, 新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸, 茨城県以南の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 大隅諸島以南から記録がある. 両眼間隔が左右の吻棘間よりも広いこと, 上顎後端は通常瞳孔前縁下に達すること, 胸鰭の内面は鰲色で, 縁辺部は赤黒色で下方3軟条が透明であることで日本産同属他種と区別できる. 三重県では熊野灘沿岸域の底曳網や巻網で漁獲されている.

(宿女太志)

## イゴダカホデリ *Lepidotrigla alata* (Houttuyn 1782)

中国, 台湾, 韓国, ベトナムなどの東シナ海・南シナ海沿岸に分布. 日本では岩手県, 福井県以南の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県以南の太平洋沿岸, 瀬戸内海から記録がある. 吻棘は通常1本で強大, 胸鰭は第2背鰭中央直下に達しないことで日本産同属他種と区別できる. 三重県では底曳網や定置網で漁獲されている.

(宿女太志)

## カナド *Lepidotrigla guentheri* Hilgendorf 1879

中国, 台湾, 韓国などの東シナ海沿岸に分布. 日本では青森県以南の日本海・東シナ海, 太平洋沿岸, 瀬戸内海から記録がある. 背鰭第2棘は第1棘より顕著に長く, 胸鰭内面下部に虫食い状の白-青色斑の大黒斑, 縁辺は薄い赤褐色で縁取られることで日本産同属他種と区別できる. 三重県では熊野灘沿岸域の底曳網や巻網で漁獲されている. (宿女太志)

## ヒメソコカナガシラ *Lepidotrigla hime* Matsubara & Hiyama 1932

中国, 台湾, 韓国などの東シナ海沿岸に分布. 日本では神奈川県以南の太平洋沿岸, 石川県, 山口県の日本海沿岸から記録がある. 同属のソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis* Jordan & Starks 1904 と似るが, 両眼間隔は左右の吻棘間より狭いこと, 上顎後端は通常瞳孔前縁下に達しないこと, および胸鰭内面は鰲色で (固定前は暗色), 縁辺は赤黒色で下方4軟条が透明であることで区別できる. 三重県では熊野灘沿岸域の底曳網や定置網で漁獲されている.

(宿女太志)



ソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis*, FRLM 61332, 135 mm SL, 熊野灘



イゴダカホデリ *Lepidotrigla alata*, FRLM 43830, 145 mm SL, 志摩市志摩町御座



カナド *Lepidotrigla guentheri*, FRLM 36969, 193 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



ヒメソコカナガシラ *Lepidotrigla hime*, FRLM 33295, 134 mm SL, 熊野灘

**トゲカナガシラ**  
*Lepidotrigla japonica*  
 (Bleeker 1854)

中国, 台湾, 韓国などの東シナ海沿岸に分布. 日本では兵庫県以南の日本海・東シナ海沿岸, 岩手県, 千葉県以南の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 奄美大島から記録がある. 胸鰭は大きく, その後端は第2背鰭中央直下をはるかに超えることで同属他種と区別できる. 胸鰭内面は青色で縁取られ, 内側半分は楕円状の大黒斑, それより上方は緑黄色の地に青色の流状斑があることで日本産同属他種と区別することができる. 三重県では熊野灘沿岸域の定置網で漁獲されている. (宿女太志)

**ヒレナガカナガシラ**  
*Lepidotrigla kanagashira*  
 Kamohara 1936

中国の東シナ海沿岸に分布. 日本では千葉県, 神奈川県, 三重県, 高知県から記録がある. 吻棘は多くの小棘からなること, 背鰭第2棘は第1棘より著しく長くないこと, 胸鰭後端は背鰭第6軟条直下に達するか越えること, 胸鰭遊離軟条先端は腹鰭の先端付近に達することで日本産同属他種と区別することができる. 三重県では熊野灘沿岸域の定置網で漁獲されている. (宿女太志)

**オニカナガシラ**  
*Lepidotrigla kishinouyei*  
 Snyder 1911

中国, 台湾, 韓国などの東シナ海沿岸に分布. 日本では新潟県以南の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県以南の太平洋沿岸, 瀬戸内海から記録がある. 吻棘は隅角部の1棘が内側の多くの棘より顕著に長く, 眼径の3分の1であること, 胸鰭内面は下方に青白色点が散在する黒斑があることで日本産同属他種と区別できる. 三重県では定置網や巻網で漁獲されている. (宿女太志)

**カナガシラ**  
*Lepidotrigla microptera*  
 Günther 1873

中国, 韓国などの東シナ海沿岸に分布. 日本では北海道以南の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海から記録がある. 吻棘は1本のやや長い棘とその内側に4, 5本の微小棘が並び, 最長棘は眼径の3分の1以下であること, 胸鰭内面は通常赤橙から赤色で黒斑等の顕著な模様はないことで日本産同属他種と区別できる. ただし胸鰭内面の模様について



トゲカナガシラ *Lepidotrigla japonica*, FRLM 35838, 148 mm SL, 志摩市志摩町御座



ヒレナガカナガシラ *Lepidotrigla kanagashira*, FRLM 35563, 70 mm SL, 南伊勢町賛浦



オニカナガシラ *Lepidotrigla kishinouyei*, FRLM 51101, 88 mm SL, 志摩市志摩町御座



カナガシラ *Lepidotrigla microptera*, FRLM 44097, 192 mm SL, 志摩市志摩町御座  
 は変異が多い. 三重県では熊野灘沿岸域の定置網や巻網で漁獲されている. (宿女太志)



## コウトウキホウボウ属 Genus *Paraheminodus* Kamohara 1958

### ハナビロキホウボウ *Paraheminodus murrayi* (Günther 1880)

インドー西太平洋, 日本では土佐湾, 日向灘, 鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域から記録されている。三重県では尾鷲市から得られた標本がある(本川ほか, 2023)。本種は前鰓蓋骨に顕著な棘があること, 上顎に歯があり, 下顎にないこと, 吻突起が細長いこと, 左右の吻突起が先端で内側に向かうこと, 下顎のひげの後端は第1背鰭起部下に達することで同科他種と区別できる。(笹木大地)



ハナビロキホウボウ *Paraheminodus murrayi*, BSKU 36435, 277 mm SL, 高知県

## キホウボウ属 Genus *Peristedion* Lacepède 1801

### モヨウキホウボウ *Peristedion liorhynchus* (Günther 1872)

オーストラリア北西岸からニューカレドニア, 日本までのインド洋東部, 西太平洋に分布する。日本では福島県以南の太平洋, 山口県日本海側, 沖縄舟状海盆, 九州ーパラオ海嶺に分布する。本種は前鰓蓋骨に顕著な棘がないこと, 吻突起は幅広い



モヨウキホウボウ *Peristedion liorhynchus*, FRLM 33590, 157 mm SL, 熊野灘

へら状であることから同属他種と区別できる。(笹木大地)

### キホウボウ *Peristedion orientale* Temminck & Schlegel 1843

台湾から朝鮮半島までの西太平洋, 日本では新潟県および青森県八戸市から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 屋久島, 東シナ海に分布する。本種は体側骨板数の上側列が33-36, 下側列が24-27であること, 左右の吻突起はわずかに外に向かって開くことから同属他種と区別できる。(笹木大地)



キホウボウ *Peristedion orientale*, FRLM 61388, 123 mm SL, 熊野灘

## ソコホウボウ属 Genus *Pterygotrigla* Waite 1899

### ソコホウボウ *Pterygotrigla hemisticta* (Temminck & Schlegel 1843)

西太平洋に分布。日本では長崎県, 茨城県以南の太平洋沿岸, 種子島から記録がある。吻棘は細く, 短く, 上膊棘をもち, 第1背鰭に暗色斑があり, 体側上部に暗色斑点が散在することで日本産同属他種と区別できる。三重県では熊野灘沿岸域の底曳網や定置網で漁獲されている。(宿女太志)

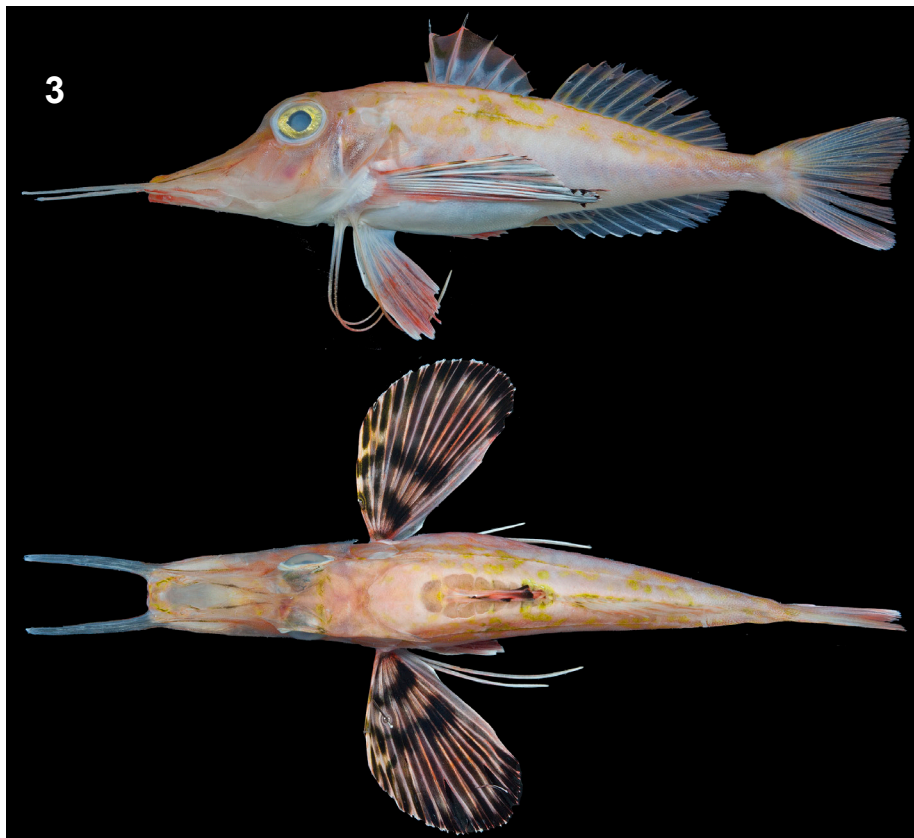
ソコホウボウ *Pterygotrigla hemisticta*  
FRLM 64646, 126 mm SL, 熊野灘



**ハナナガソコホウボウ**  
***Pterygotrigla macrorhynchus***  
**Kamohara 1936**

インドー西太平洋に分布。日本では静岡県，三重県，高知県から記録がある。吻棘は顕著に長く，上膊棘は短いことで日本産同属他種と区別できる。  
 (宿女太志)

ハナナガソコホウボウ  
*Pterygotrigla macrorhynchus*  
 FRLM 45671, 114 mm SL, 熊野灘



**オニソコホウボウ**  
***Pterygotrigla multiocellata***  
**(Matsubara 1937)**

西太平洋に分布。日本では三重県以南の太平洋沿岸，大隅諸島以南から記録がある。吻棘は顕著に長く，上膊棘は長いことで同属他種と区別できる。三重県では尾鷲市の底曳網から標本が得られている。

(宿女太志)



オニソコホウボウ *Pterygotrigla multiocellata*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

**イソキホウボウ属 Genus *Satyrichthys* Kaup 1873**

**ホンオキキホウボウ**  
***Satyrichthys welchi***  
**(Herre 1925)**

オーストラリア北西岸からニューカレドニア，日本までの東インド洋，西大西洋，日本では神奈川県小田原，日向灘，五島列島近海から記録されている。三重県では尾鷲市場で採集された。本種は下顎先端腹面に触鬚があること，背鰭棘条部に小黑点があること，後頭部背面の左右の骨の



ホンオキキホウボウ *Satyrichthys welchi*, FRLM 40497, 345 mm SL, 熊野灘

縫合線は一直線であることから同属他種と区別できる。  
 (笹木大地)



# ヒゲキホウボウ属 Genus *Scalicus* Jordan 1923

## ヒゲキホウボウ *Scalicus hians* (Gilbert & Cramer 1897)

日本から東シナ海、台湾に分布する。日本では岩手県以南の太平洋、五島列島、東シナ海、沖縄舟状海盆に分布する。本種は吻突起が正三角形であることから同属他種と区別できる。  
(笹木大地)

## ナンヨウキホウボウ *Scalicus orientalis* (Fowler 1938)

レユニオンからニューカレドニア、日本に至るインド-西太平洋に広く分布する (Kawai, 2019; 2020; Fricke, 2020)。日本では土佐湾、宮崎県、薩摩半島南西沖、東シナ海大陸棚縁辺から記録がある。本標本は沖合底曳網で漁獲され、その後尾鷲市場に水揚げされた。操業海域は遠州灘から熊野灘。本種は吻突起が長三角形であること、髭が長いこと、体後部の上側列の骨板に前向棘を欠くことから同属他種と区別できる (Kawai, 2019)。  
(笹木大地)

## ソコキホウボウ *Scalicus quadratorostratus* (Fourmanoir & Rivaton 1979)

マダガスカル、ニューカレドニア、台湾および日本に分布する。日本では駿河湾、愛知県蒲郡、高知県、宮崎県、小笠原諸島、徳之島、東シナ海から記録がある (Kawai, 2019)。三重県では尾鷲沖の底曳網で採集された。本種は吻突起が細長いこと、最外に位置する唇鬚の分枝数が通常13-21であること、唇鬚数が5、下顎鬚数が3であること、体後部の上側列の骨板に前向棘があることから同属他種と区別できる (Kawai, 2019)。  
(笹木大地)

## トゲキホウボウ *Scalicus serrulatus* (Alcock 1898)

インド-西太平洋に分布する。日本では静岡県御前崎以南、九州-パラオ海嶺に分布する。本種は吻突起が細長いこと、最外に位置する唇鬚の分枝数が7-11であること、唇鬚数が4、下顎鬚数が通常1であること、体後部の上側列の骨板に前向棘があることから同属他種と区別できる (Kawai, 2019)。  
(笹木大地)



ヒゲキホウボウ *Scalicus hians*, FRLM 55681, 150 mm SL, 熊野灘



ナンヨウキホウボウ *Scalicus orientalis*, FRLM 61390, 178 mm SL, 熊野灘



ソコキホウボウ *Scalicus quadratorostratus*, FRLM 33586, 135 mm SL, 熊野灘



トゲキホウボウ *Scalicus serrulatus*, FRLM 33886, 133 mm SL, 熊野灘 (固定標本)



# ホウボウ科 胸鰭



ホウボウ *Chelidonichthys spinosus*  
FRLM 35967, 255 mm SL  
志摩市志摩町和具（左側）



カナド *Lepidotrigla guentheri*  
FRLM 36969, 193 mm SL  
志摩市志摩町和具沖（右側）



カナガシラ *Lepidotrigla microptera*  
FRLM 37403, 187 mm SL  
志摩市志摩町和具（左側）



ソコカナガシラ *Lepidotrigla abyssalis*  
FRLM 61332, 135 mm SL, 熊野灘（左側）



トゲカナガシラ *Lepidotrigla japonica*  
FRLM 35838, 148 mm SL  
志摩市志摩町御座（左側）



ソコホウボウ *Pterygotrigla hemisticta*  
FRLM 64646, 126 mm SL, 熊野灘（左側）



イゴダカホデリ *Lepidotrigla alata*  
FRLM 43830, 145 mm SL  
志摩市志摩町御座（左側）



オニカナガシラ *Lepidotrigla kishinouyei*  
FRLM 51101, 88 mm SL  
志摩市志摩町御座（右側）



御浜町阿田和定置網漁獲物  
2025 年 3 月（笹木大地撮影）



## アカゴチ科 Family Bembridae Kaup 1873

### アカゴチ属 Genus *Bembras* Cuvier 1829

#### アカゴチ *Bembras japonica* Cuvier 1829

南シナ海から日本，韓国の西太平洋．日本では富山湾および駿河湾から九州南岸に分布する．眼下骨系の隆起線は4-5棘で鋸歯状ではないこと，第2背鰭先端に1棘があることなどが特徴．  
(笹木大地)



アカゴチ *Bembras japonica*, FRLM 33298, 194 mm SL, 熊野灘

### ウバゴチ属 Genus *Parabembras* Bleeker 1874

#### ウバゴチ *Parabembras curtus* (Temminck & Schlegel 1843)

南シナ海北部から日本，韓国の西太平洋．日本では若狭湾および熊野灘から鹿児島県の日本海・東シナ海・太平洋沿岸に分布する．本種は臀鰭棘があること，下顎は上顎よりかなり突出すること，上顎後端は皮弁上になり，めくれることが特徴．  
(笹木大地)



ウバゴチ *Parabembras curtus*, KAUM-I. 11950, 122 mm SL, 鹿児島県

## オニオコゼ科 Family Synanceiidae Swainson 1839

### ツマジロオコゼ属 Genus *Ablabys* Kaup 1873

#### ツマジロオコゼ *Ablabys taenianotus* (Cuvier 1829)

インドー西太平洋，日本では静岡県富戸，大瀬崎，和歌山県串本，高知県柏島，沖の島，屋久島以南から記録されている．三重県では尾鷲湾の定置網で採集された．本種は背鰭棘数が17であること，背鰭前端部は著しく高いことから同科他種と区別できる．  
(笹木大地)



ツマジロオコゼ *Ablabys taenianotus*, FRLM 61664, 89 mm SL, 尾鷲市

三重大学大学院生物資源学研究所  
水産実験所舟艇2代目「たんすい」  
2013年5月（日比野友亮撮影）



## ハチ属 Genus *Apistus* Cuvier 1829

### ハチ *Apistus carinatus* (Bloch & Schneider 1801)

インドー西太平洋, 日本では新潟県および茨城県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海大陸棚域, 小笠原諸島, 種子島, 屋久島に分布する。各鰭の棘には毒があり刺されると痛む。本種の特徴は胸鰭最下部に1本の長い遊離軟条をもつこと, 下顎の側面に1対, 縫合部に1本のひげがあることである。  
(笹木大地)



ハチ *Apistus carinatus*, FRLM 25978, 89 mm SL, 志摩市志摩町御座

## イボオコゼ属 Genus *Aploactis* Temminck & Schlegel 1843

### イボオコゼ *Aploactis aspera* (Richardson 1845)

台湾, 広東省東部, 南岸を除くオーストラリア沿岸, ニューカレドニア, 日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 山口県日本海側, 長崎県, 八丈島に分布する。三重県では志摩市英虞湾および五ヶ所湾で採集された。本種はアブオコゼ *Erisphex pottii* (Steindachner 1896) に似るが, 前鰓蓋骨に5棘あること, 体は細長いことで区別できる。  
(笹木大地)

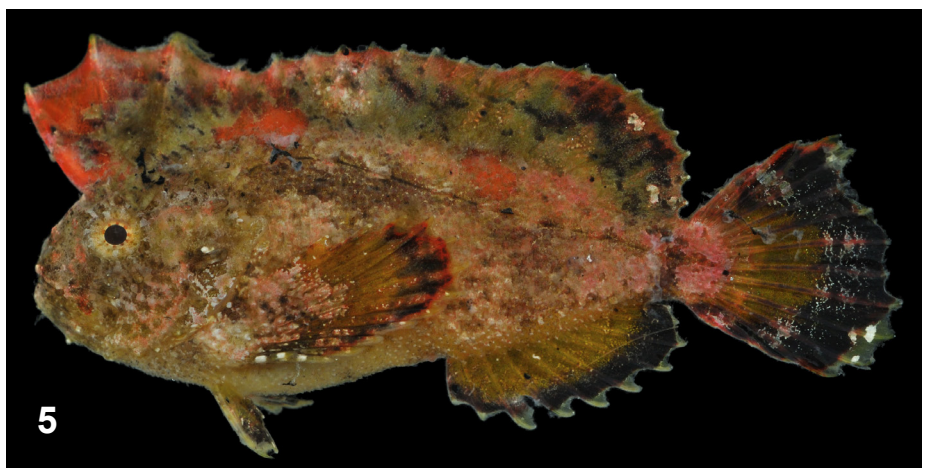
イボオコゼ *Aploactis aspera*  
上 FRLM 60813, 82 mm SL  
南伊勢町宿浦  
下 FRLM 46199, 50 mm SL  
志摩市志摩町御座



## マスダオコゼ属 Genus *Cocotropus* Kaup 1858

### イズオコゼ *Cocotropus izuensis* Imamura, Aizawa & Shinohara 2010

山口県日本海側, 房総半島から和歌山県に分布する。三重県では志摩市御座の定置網で1標本が得られている。本種は下顎先端の感覚孔が癒合すること, 上顎に皮弁がないこと, 下顎の縁辺に皮弁がないこと, 前鰓蓋には5棘あることで同属他種と区別できる。  
(笹木大地)



イズオコゼ *Cocotropus izuensis*, FRLM 41759, 27 mm SL, 志摩市志摩町御座



## アブオコゼ属 Genus *Erisphex* Jordan & Starks 1904

### アブオコゼ *Erisphex pottii* (Steindachner 1896)

朝鮮半島から海南島，ニューカレドニアに分布する．日本では青森県から九州南岸に分布する．本種はイボオコゼ *Aploactis aspera* (Richardson 1845) に似るが，前鰓蓋骨に4棘あること，体高がやや高いことで区別できる．  
(笹木大地)



アブオコゼ *Erisphex pottii*, FRLM 36396, 50 mm SL, 志摩市志摩町御座

## ダルマオコゼ属 Genus *Erosa* Swainson 1839

### ダルマオコゼ *Erosa erosa* (Cuvier 1829)

西太平洋，インド洋南東海域，日本では千葉県から鹿児島県の太平洋，山口県日本海側，長崎県，鹿児島県馬毛島，沖縄島，東シナ海に分布する (Matsunuma and Motomura, 2021)．三重県では熊野灘に分布する．本種は胸鰭に遊離軟条がないこと，腹鰭基底は短いこと，後頭部のくぼみは四角形であることから同科他種と区別できる．  
(笹木大地)



ダルマオコゼ *Erosa erosa*, FRLM 26586, 121 mm SL, 志摩市志摩町和具

## オニオコゼ属 Genus *Inimicus* Jordan & Starks 1904

### オニオコゼ *Inimicus japonicus* (Cuvier 1829)

台湾，中国，日本，韓国の東アジア，日本では青森県から九州南岸，小笠原諸島に分布する．三重県では熊野灘に分布し，伊勢湾でもみられる．本種は背鰭第4棘より後ろの鰭膜は棘の半分かそれより上までであること，吻は短く吻長は眼後長とほぼ等しいかそれより短いことで，同属のヒメオニオコゼ *Inimicus didactylus* (Pallas 1769) から区別できる．  
(笹木大地)



オニオコゼ *Inimicus japonicus*, FRLM 55527, 171 mm SL, 英虞湾内座賀島

## ヒメオコゼ属 Genus *Minous* Cuvier 1829

### ヒメオコゼ

*Minous monodactylus*  
(Bloch & Schneider 1801)

インドー西太平洋，紅海，日本では青森県牛滝，新潟県および茨城県から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海大陸棚域，馬毛島に分布する．三重県では伊勢湾や熊野灘沿岸でみられる．本種は涙骨の2番目の棘は長く後方を向くこと，尾鰭に2本の暗色横帯があることから同属他種と区別できる．  
(笹木大地)

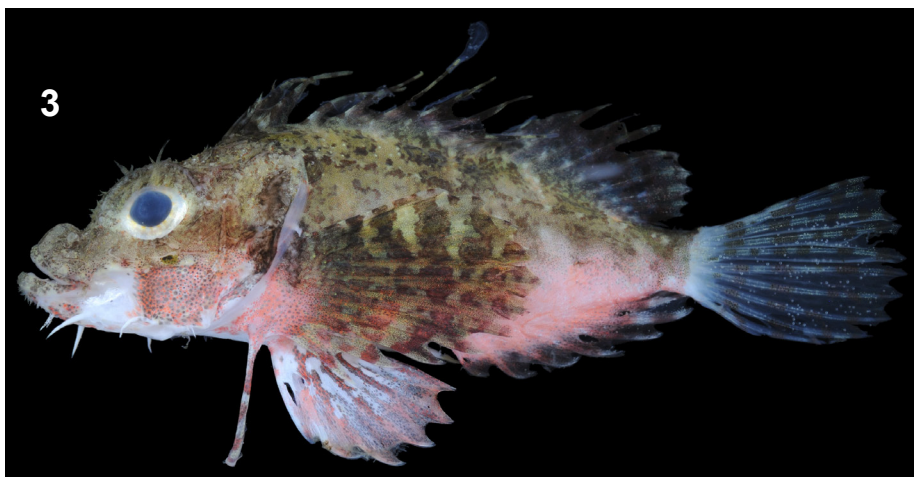


ヒメオコゼ *Minous monodactylus*, FRLM 54661, 48 mm SL, 英虞湾内座賀島

### ヤセオコゼ

*Minous pusillus*  
Temminck & Schlegel 1843

朝鮮半島南岸，台湾西岸・南西岸，浙江省，福建省，広東省，フィリピン諸島，ニューカレドニアの西太平洋，日本では新潟県およびから九州北西岸の日本海・東シナ海沿岸，相模湾から九州南部の太平洋沿岸，瀬戸内海西部，東シナ海大陸棚域に分布する．三重県では熊野灘沿岸でみられる．本種は涙骨の2番目の棘は短く下を向くこと，前鰓蓋骨最上棘は長いこと，尾鰭に小黒色点が散在すること，背鰭軟条数は9-11であることから同属他種と区別できる．  
(笹木大地)



ヤセオコゼ *Minous pusillus*, FRLM 63088, 32 mm SL, 尾鷲市

## ハチオコゼ属 Genus *Ocosia* Jordan & Starks 1904

### シマハチオコゼ

*Ocosia fasciata*  
Matsubara 1943

中国から日本の北西太平洋，日本では京都府丹後半島沖，山口県日本海側，熊野灘，土佐湾，五島列島，東シナ海北東部に分布する．本種は熊野灘で採集された標本に基づいて Matsubara (1943) によって記載された．本種はアカハチオコゼ *Ocosia spinosa* Chen 1981 に似るが，背鰭第2棘と第3棘はほぼ同長であること（アカハチオコゼでは第2棘がやや長い），背鰭第2棘と第3棘の鰭膜の切れ込みは約1/2であること（1/4-1/3），吻の背面は直線状であること（凹む）で区別できる（Poss and Eschmeyer, 1975; Fricke, 2017; Mochizuki et al., 2021）．  
(笹木大地)



シマハチオコゼ *Ocosia fasciata*, KAUM-I. 58071, 39 mm SL, 東シナ海



**アカハチオコゼ**  
***Ocosia spinosa* Chen 1981**

台湾および南日本に分布する。本種は Mochizuki et al. (2021) によって愛知県、三重県、高知県から得られた標本に基づいて日本から初めて記録された。本種と近縁のシマハチオコゼ *Ocosia fasciata* Matsubara 1943 との比較についてはシマハチオコゼの項を参照。(笹木大地)

アカハチオコゼ *Ocosia spinosa*  
BSKU 51541, 38 mm SL, 高知県



**ハオコゼ属 Genus *Paracentropogon* Bleeker 1876**

**ハオコゼ**  
***Paracentropogon rubripinnis***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

台湾から日本および朝鮮半島南岸・東岸の東アジア、日本では北海道函館市から鹿児島県南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海、奄美大島に分布する。浅海のアマモ場や岩礁域に生息し、三重県では伊勢湾や熊野灘沿岸でみられる。各鰭の棘には毒があり刺されると痛む。本種は腹鰭が1棘4軟条であることから同科他種と区別できる。(笹木大地)

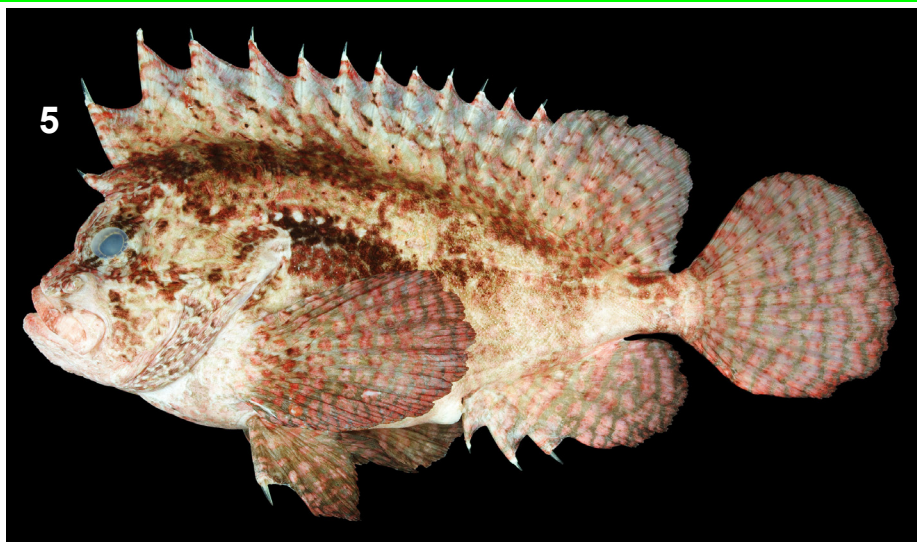


ハオコゼ *Paracentropogon rubripinnis*, FRLM 32881, 72 mm SL, 志摩市志摩町御座

**ヤマヒメ属 Genus *Snyderina* Jordan & Starks 1901**

**ヤマヒメ**  
***Snyderina yamanokami***  
**Jordan & Starks 1901**

台湾および日本、国内では千葉県館山から鹿児島県本土、奄美大島に分布する。三重県では志摩市和具の刺網で混獲された記録がある (Suzuki et al., 1994)。本種は体高が高いこと、口蓋骨に絨毛状歯がないこと、胸鰭後端が臀鰭起部に達するか、越えることが特徴。(笹木大地)



ヤマヒメ *Snyderina yamanokami*, KAUM-I. 144419, 178 mm SL, 鹿児島県



**オニダルマオコゼ属****Genus *Synanceia* Bloch & Schneider 1801****オニダルマオコゼ  
*Synanceia verrucosa*  
Bloch & Schneider 1801**

インドー太平洋，日本では熊野灘，日向灘，伊豆・小笠原諸島，大隅諸島以南に分布する．三重県では熊野市遊木に水揚げされた個体の写真による記録がある（日比野・長野，2020）．本種は後頭部のくぼみが四角形ではないこと，眼上に角状の骨質突起がないこと，第2と第3背鰭棘の間に鰭膜があることが特徴．  
（笹木大地）

オニダルマオコゼ *Synanceia verrucosa*  
FRLM 48955, 178 mm SL, 西表島

**ヒレナガカサゴ科****Family Neosebastidae Matsubara 1943****ヒレナガカサゴ属****Genus *Neosebastes* Guichenot 1867****ヒレナガカサゴ  
*Neosebastes entaxis*  
Jordan & Starks 1904**

日本からインドネシアスラウェシ島の西太平洋，日本では千葉県から種子島の太平洋沿岸，沖縄県に分布する．三重県では南伊勢町，七里御浜沖から標本が得られている．本種は眼下骨と涙骨の間に棘はないことから同属のオガサワラカサゴ *Neosebastes multisquamus* Motomura 2004 から区別できる．  
（笹木大地）

ヒレナガカサゴ *Neosebastes entaxis*  
FRLM 45667, 107 mm SL, 南伊勢町

**ヒメキチジ科****Family Plectrogeniidae Fowler 1938****ヒメキチジ属****Genus *Plectrogenium* Gilbert 1905****ヨロイヒメキチジ  
*Plectrogenium kamoharai*  
Uesaka, Yamakawa,  
Matsunuma & Endo 2021**

三重県を含む静岡県から高知県および東シナ海，台湾に分布する（Matsunuma et al., 2021）．本種は尾鰭の赤色の横帯が後縁よりやや内側に位置し，後縁は白色であること，頭頂棘が長く体長の7.4–11.1%であること，胸鰭軟条数は21–24（最頻値22）であることで同属他種と区別できる（Matsunuma et al., 2021; 松沼ほか，2021）．  
（笹木大地）



ヨロイヒメキチジ *Plectrogenium kamoharai*, KAUM-I. 150018, 50 mm SL, 高知県



**ヒメキチジ**  
***Plectrogenium rubricauda***  
 Uesaka, Yamakawa,  
 Matsunuma & Endo 2021

三重県を含む静岡県から宮崎県の太平洋に分布し、台湾にも分布するとされている (Matsunuma et al., 2021). 本種は尾鰭の後半は広く赤色であること、頭頂棘が短く体長の4.6–6.4%であること、胸鰭軟条数は19–21 (最頻値20) であること、眼窩前縁側面の窪みに小棘がないこと、両眼間隔域の隆起線上の棘数が少なく0–6本であること、第2臀鰭棘が短くその長さは体長の15.9–21.0%であることで同属他種と



ヒメキチジ *Neosebastes rubricauda*, BSKU 123395, 56 mm SL, ホロタイプ, 高知県

区別できる (Matsunuma et al., 2021;  
 松沼ほか, 2021). (笹木大地)

**フサカサゴ科 Family Scorpaenidae Risso 1827**

**ヒメヤマノカミ属 Genus *Dendrochirus* Swainson 1839**

**キリンミノ**  
***Dendrochirus zebra***  
 (Cuvier 1829)

紅海を除くインド–西太平洋に分布。国内では千葉県館山湾以南、八丈島、小笠原諸島に分布。吻端に3本の皮弁があること、眼上皮弁が長くて顕著であること、尾柄部に横T字状の暗色模様があることによって日本産同属他種と区別可能。ミノカサゴ属の魚に似るが、本種は胸鰭の上部軟条が分枝する。属の和名は松沼・本村 (2025) に従ったが、*Dendrochiurus* のタイプ種は本種であり、またヒメヤマノカミ *Neochirus bellus* (Jordan & Hubbs 1925) はヒメヤマノカミ属には含まれないことから、本属は改称するべきと考えている。(阿部公哉・木村清志)



キリンミノ *Dendrochirus zebra*, FRLM 63564, 113 mm SL, 尾鷲市九鬼町

**エボシカサゴ属 Genus *Ebosia* Jordan & Starks 1904**

**エボシカサゴ**  
***Ebosia bleekeri***  
 (Döderlein 1884)

日本、濟州島、台湾北部に分布。国内では千葉県から九州、東シナ海大陸棚縁辺域に分布。頭頂骨の隆起は著しく大きく、烏帽子状になるか小さくても薄板状であること、胸鰭上部の軟条は分枝すること、下顎腹面は円滑であること、眼下骨域や前鰓蓋域に小棘が密に分布しないことによって日本産同属他種と区別可能。本種を含めたエボシカサゴ属魚類は、頭頂骨の形状に雌雄差があり、雄の方が大きく隆起することが知られている (Matsunuma and Motomura, 2014). 水深100–235 mの砂底に生息する。(阿部公哉)



エボシカサゴ *Ebosia bleekeri*, FRLM 35876, 61 mm SL, 尾鷲市



## ユメカサゴ属 Genus *Helicolenus* Jordan & Starks 1904

### ユメカサゴ *Helicolenus hilgendorffii* (Döderlein 1884)

北西太平洋に分布。国内では青森県から九州にかけての水深 130–980 m の海底に生息する。胸鰭腋部に皮弁があること、尾鰭後縁が浅く湾入すること、側線の上に暗色線がないことによって日本産同属他種と区別可能。口腔および腹腔膜が黒く、県内では「のどぐろ」あるいは「のどぐろかさご」の名で流通することもある。  
(阿部公哉)



ユメカサゴ *Helicolenus hilgendorffii*, FRLM 51891, 244 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

## ホウズキ属 Genus *Hozukius* Matsubara 1934

### ホウズキ *Hozukius emblemarius* (Jordan & Starks 1904)

北西太平洋に分布。国内では青森県から九州－パラオ海嶺にかけて分布する。背鰭棘数が通常 12 であること、尾鰭後縁が截形であること、吻・主上顎骨・下顎が小鱗を被ること、眼窩下縁に棘があることにより日本産同属他種と区別可能。アコウダイ *Sebastes matsubarae* Hilgendorf 1880 とよく似るが、アコウダイの背鰭棘数は通常 13 である。  
(阿部公哉)



ホウズキ *Hozukius emblemarius*, FRLM 28298, 442 mm SL, 熊野灘

## アカカサゴ属 Genus *Lythrichthys* Jordan & Starks 1904

### アズキカサゴ *Lythrichthys cypho* (Fowler 1938)

東インドー西太平洋に分布。国内では福島県から沖縄県にかけて分布が確認されている。前鰓蓋骨第 2 棘が短い、あるいは痕跡的であること、背鰭第 6 棘直下の側線上方横列鱗数が 6–8 であること、背鰭最終棘条直下の側線上方横列鱗数が 11 以下（通常 9 以下）であること、主鰓蓋骨第 2 棘長が頭長の 25.0–28.9% であり、その先端が鰓蓋後縁と接しないこと、前上顎骨に 3–5 列の不規則に密集した顎歯があることによって、同科および同属他種と区別可能 (Wada et al., 2021)。  
(阿部公哉)



アズキカサゴ *Lythrichthys cypho*, FRLM 64620, 52 mm SL, 熊野灘





**アカカサゴ**  
*Lythrichthys eulabes*  
 Jordan & Starks 1904

東インド洋および西太平洋に分布。国内では静岡県から沖縄県で確認されている。両眼間隔および主上顎骨の高さがそれぞれ頭長の 23.3–31.2% (通常 25.6%), 16.0–18.9% (通常 16.9%) であること、尾鰭は一樣に淡色であり、後縁は黒くならないこと、背鰭第 6 棘直下の側線上方横列鱗数が 8–11 であること、背鰭最終棘条直下の側線上方横列鱗数が 10 以上 (通常 11 以上) であること、主鰓蓋骨第 2 棘長が頭長の 25.6–36.2%



アカカサゴ *Lythrichthys eulabes*, FRLM 63006, 134 mm SL, 熊野灘

であり、その後端が鰓蓋後端に達する、もしくは超えることなどによって同属他種と区別可能 (Wada et al., 2021). (阿部公哉)

**スミクイアカカサゴ**  
*Lythrichthys longimanus*  
 (Alcock 1894)

アンダマン海からフィジー、北は日本まで分布する。国内では三重県を含む茨城県から琉球列島に分布する (Wada et al., 2021)。本種は背鰭第 6 棘直下の側線上方横列鱗数が 8–10 (通常 9) であること、背鰭最終棘条直下の側線上方横列鱗数が 10–13 (通常 11) であること、尾柄高が体長の 8.2–9.6% であること、主鰓蓋骨第 2 棘長が頭長の 28.0–33.6% であり、その先端が鰓蓋後縁にわずかに達しないまたは達することによって、同属他種と区別可能 (Wada et al., 2021). (笹木大地)



スミクイアカカサゴ *Lythrichthys longimanus*, FAKU 140758, 178 mm SL  
 志摩市大王町大王崎沖

**シマヒメヤマノカミ属 Genus Neochirus Chu, Liu & Liao 2023**

**ヒメヤマノカミ**  
*Neochirus bellus*  
 (Jordan & Hubbs 1925)

西太平洋に分布。国内では千葉県から九州にかけて分布。吻端に皮弁がないか、短い 1 対があるのみであること、生時胸鰭および腹鰭に黒点列を伴わない赤色横帯があること、頭部の棘と骨質隆起の縁はなめらかであること (但し成長に伴って鋸歯状になる個体がいる) などによって日本産同属他種と区別可能。属の和名は松沼・本村 (2025) に従った。 (阿部公哉)



ヒメヤマノカミ *Neochirus bellus*, FRLM 43652, 36 mm SL, 志摩市志摩町御座

**シマヒメヤマノカミ**  
***Neochirus brachypterus***  
**(Cuvier 1829)**

インドー西太平洋に分布。国内では千葉県以南の太平洋沿岸、瀬戸内海西部、山口県日本海沿岸、大隅諸島以南に分布。吻端に皮弁がないか、短い1対があるのみであること、生時胸鰭および腹鰭に黒点列を伴う褐色横帯があること、頭部の棘と骨質隆起の縁は鋸歯状であることによって日本産同属他種と区別可能。

(阿部公哉)



シマヒメヤマノカミ *Neochirus brachypterus*, FRLM 51085, 41 mm SL, 志摩市志摩町御座

**セトミノカサゴ属 Genus *Parapterois* Bleeker 1876**

**セトミノカサゴ**  
***Parapterois heterura***  
**(Bleeker 1856)**

インドー西太平洋に分布。国内では千葉県から鹿児島県、東シナ海大陸棚域 (30°N 以南)、沖縄島に分布。胸鰭上部の軟条は分枝すること、下顎腹面は円滑であること、眼下骨域や前鰓蓋域に小棘が密に分布することによって日本産同属他種と区別可能。水深 20–300 m の砂泥底に生息する (小枝ほか, 2018a)。(阿部公哉)



セトミノカサゴ *Parapterois heterura*, FRLM 61663, 80 mm SL, 尾鷲市

**ネッタIFサカサゴ属 Genus *Parascorpaena* Bleeker 1876**

**ネッタIFサカサゴ**  
***Parascorpaena mossambica***  
**(Peters 1855)**

インド洋東部から中央・西太平洋、日本では相模湾、徳島県牟岐、高知県柏島、日向灘、鹿児島県本土、大隅諸島以南から記録されている。三重県では志摩市片田から1標本が得られている。本種は眼の直下の眼下骨系に棘があること、体側鱗が櫛鱗であること、眼状皮弁が太く長いことで同属他種と区別できる。

(笹木大地)



ネッタIFサカサゴ *Parascorpaena mossambica*, FRLM 64575, 24 mm SL, 志摩市志摩町片田



## ヒオドシ属 Genus *Pontinus* Poey 1860

### ヒオドシ

*Pontinus macrocephalus*  
(Sauvage 1882)

北西太平洋から中央太平洋にかけて分布。国内では茨城県から宮崎県の太平洋沿岸、若狭湾、小笠原諸島、東シナ海大陸棚縁辺域、九州－パラオ海嶺に分布。胸鰭軟条がすべて不分枝であること、頭部が大きく吻が長いこと、両眼間隔に棘がないこと、口蓋骨に歯があることによって日本産同属他種と区別可能。長い眼上皮弁が特徴的だが、その長さには個体差がある。（阿部公哉）



ヒオドシ *Pontinus macrocephalus*, FRLM 52302, 198 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

## ミノカサゴ属 Genus *Pterois* Oken 1817

### ミノカサゴ

*Pterois lunulata*  
Temminck & Schlegel 1843

西太平洋に分布。国内では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海沿岸、青森県から屋久島にかけての太平洋沿岸、八丈島に分布。頭部腹面および胸部に斑紋がないこと、背鰭と臀鰭の軟条部および尾鰭は全くの無斑紋か、わずかに薄い小黑点があるのみであること、胸鰭軟条はすべて分枝せず、上部軟条の鰭膜は鰭条の先端に達することによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）

ミノカサゴ *Pterois lunulata*  
FRLM 46541, 82 mm SL  
志摩市志摩町御座



ハナミノカサゴ  
*Pterois volitans*  
(Linnaeus 1758)

東インド洋および太平洋（キリーング諸島からマルケサス諸島；ハワイ諸島を除く）に分布。人為的移入により西大西洋の一部（フロリダ半島からニューヨーク、バミューダ諸島）でも分布が確認されている。国内では千葉県および富山県以南に分布。頭部腹面および胸部には茶褐色の縞模様があること、背鰭と臀鰭の軟条部および尾鰭には多くの黒褐色斑点があること、胸鰭軟条はすべて分枝せず、上部軟条の鰭膜は鰭条の先端に達することによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）

ハナミノカサゴ *Pterois volitans*  
FRLM 61409, 236 mm SL, 御浜町阿田和



## ボロカサゴ属 Genus *Rhinopias* Gill 1905

### ボロカサゴ *Rhinopias frondosa* (Günther 1892)

インドー西太平洋に分布。国内では伊豆半島東岸から高知県柏島にかけての太平洋沿岸、八丈島から確認されている。頭部と体が強く側扁すること、背鰭棘間の鰭膜は切れ込むこと、下顎に多数の皮弁(9-24枚)があること、背鰭軟条部後方に明瞭な1黒色斑があること、眼上皮弁は背鰭最長棘より短いこと、胸鰭が15-16軟条であることなどによって日本産同属他種と区別可能。

(阿部公哉)



ボロカサゴ *Rhinopias frondosa*, FRLM 26527, 132 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

## フサカサゴ属 Genus *Scorpaena* Linnaeus 1758

### コクチフサカサゴ *Scorpaena miostoma* Günther 1877

日本、朝鮮半島南岸、済州島、台湾に分布。国内では千葉県から宮崎県にかけての太平洋沿岸、富山県から山口県の日本海沿岸に分布。体高が低く、背鰭棘条部前方で盛り上がらないこと、背鰭棘部の鰭膜に縁取られた白斑があること、額棘がないこと、胸部基底付近は皮膚にも鱗にも覆われないこと、胸鰭腋部に皮弁がないことなどによって日本産同属他種と区別可能。最大でも体長13 cm 程の小型種。

(阿部公哉)

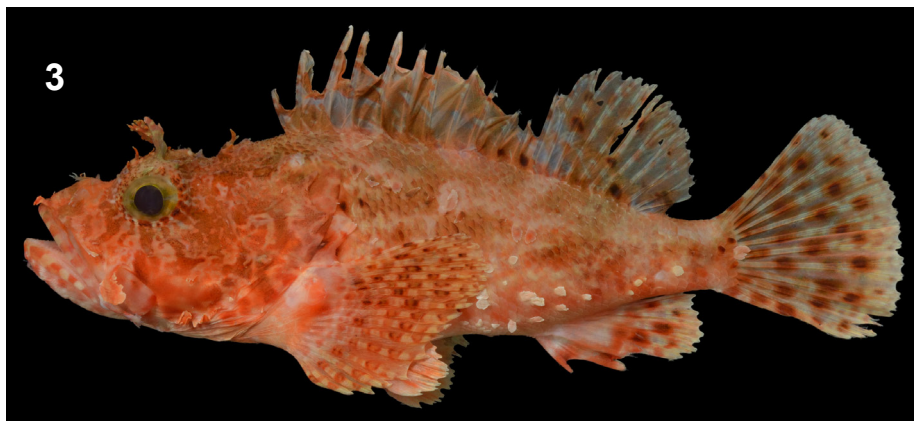


コクチフサカサゴ *Scorpaena miostoma*, FRLM 51045, 89 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

### イズカサゴ *Scorpaena neglecta* Temminck & Schlegel 1843

北西太平洋に分布。国内では青森県から九州南岸にかけての太平洋沿岸、山形県から九州南岸にかけての日本海・東シナ海沿岸、東シナ海大陸棚縁辺域に分布。胸鰭基底付近は皮膚にも鱗にも覆われないこと、胸鰭腋部に1皮弁があること、腹鰭前区域は無鱗であることなどによって日本産同属他種と区別可能。本種はしばしば釣り人などによりオニカサゴ *Scorpaenopsis cirrose* (Thunberg 1793) と混同して呼称され、専門に狙う釣り船も多い。

(阿部公哉)



イズカサゴ *Scorpaena neglecta*, FRLM 55910, 117 mm SL, 志摩市志摩町御座沖



**フサカサゴ**  
***Scorpaena onaria***  
**Jordan & Snyder 1900**

東インド洋および西太平洋に分布。国内では福島県から九州南岸にかけての太平洋沿岸、北海道から九州北西岸にかけての日本海沿岸、大隅諸島以南に分布。体高が高く、背鰭棘条部前方で盛り上がることで、胸鰭は短く背鰭第12棘直下に達しないこと、胸鰭は通常17軟条であること、頭部に小黑点はほとんどないことによって日本産同属他種と区別可能。  
 (阿部公哉)



フサカサゴ *Scorpaena onaria*, FRLM 41566, 161 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**カボチャフサカサゴ**  
***Scorpaena pepo***  
**Motomura, Poss & Shao 2007**

日本、台湾北東部・南西部に分布。国内では相模湾以南に分布。体高が高く、背鰭棘条部前方で盛り上がることで、胸鰭は短く背鰭第12棘直下に達しないこと、胸鰭は通常16軟条であること、頭部に小黑点が散在することによって日本産同属他種と区別可能。  
 (阿部公哉)



カボチャフサカサゴ *Scorpaena pepo*, FRLM 42110, 169 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**イソカサゴ属 Genus *Scorpaenodes* Bleeker 1857**

**イソカサゴ**  
***Scorpaenodes evides***  
**(Jordan & Thompson 1914)**

日本を含むインドー西太平洋に広く分布。国内では青森県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸、秋田県から九州北西部にかけての日本海沿岸、八丈島、小笠原諸島に分布。背鰭棘数が13、背鰭軟条数が通常9であること、下鰓蓋骨上に1暗色斑があること、頬部は2棘のみであることによって日本産同属他種と区別可能。  
 (阿部公哉)



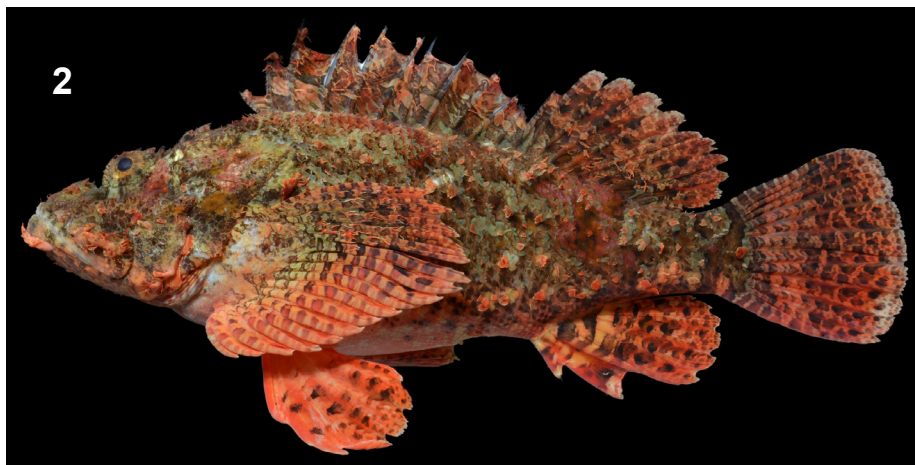
イソカサゴ *Scorpaenodes evides*, FRLM 62986, 45 mm SL, 熊野市二木島町



# オニカサゴ属 Genus *Scorpaenopsis* Heckel 1837

## オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa* (Thunberg 1793)

日本、済州島、台湾北東部・南部、香港に分布。国内では千葉県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸、秋田県から九州北岸にかけての日本海沿岸、大隅諸島以南に分布。体側および各鰭に小黑点が散在すること、胸鰭は通常 18-19 軟条であること、涙骨隆起の先端が皮膚に埋没すること、吻長が頭長の 28.9-32.8% であることなどから日本産同属他種と区別可能。(阿部公哉)



オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa*, FRLM 57383, 224 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

## サツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta* Heckel 1837

東インドおよび西太平洋に分布。国内では千葉県から九州南岸にかけての太平洋沿岸、山口県から九州北西岸の日本海沿岸、大隅諸島以南に分布。背鰭基部が著しく盛り上がることで、胸鰭内側は黄色く、基部に複数の黒色斑と外縁に黒色帯があること、頭部の各棘は普通鋸歯状であること、吻長が頭長の 29-34% であることなどによって日本産同属他種と区別可能。(阿部公哉)



サツマカサゴ *Scorpaenopsis neglecta*, FRLM 28176, 104 mm SL, 英虞湾内座賀島

## イヌカサゴ *Scorpaenopsis ramaraoi* Randall & Eschmeyer 2002

日本を含むインドー西太平洋（アラビア海からニューカレドニア；オーストラリア沿岸を除く）に分布。国内では伊豆半島以南に分布。体長 90 mm 以上の個体では、涙骨隆起の先端が尖り皮膚に埋没しないことから日本産同属他種と容易に区別可能。オニカサゴ *Scorpaenopsis cirrosa* (Thunberg 1793) に酷似するが、上述の涙骨隆起の有無、本種の体側および各鰭には小黑点がないことによって区別可能。尖った涙骨隆起の先端がイヌの犬歯を思わせることが和名の由来である（本村ほか，2004）。(阿部公哉)



イヌカサゴ *Scorpaenopsis ramaraoi*, FRLM 61561, 107 mm SL, 尾鷲市九鬼町

英虞湾内座賀島，セイン採集  
2016 年 5 月（木村清志撮影）

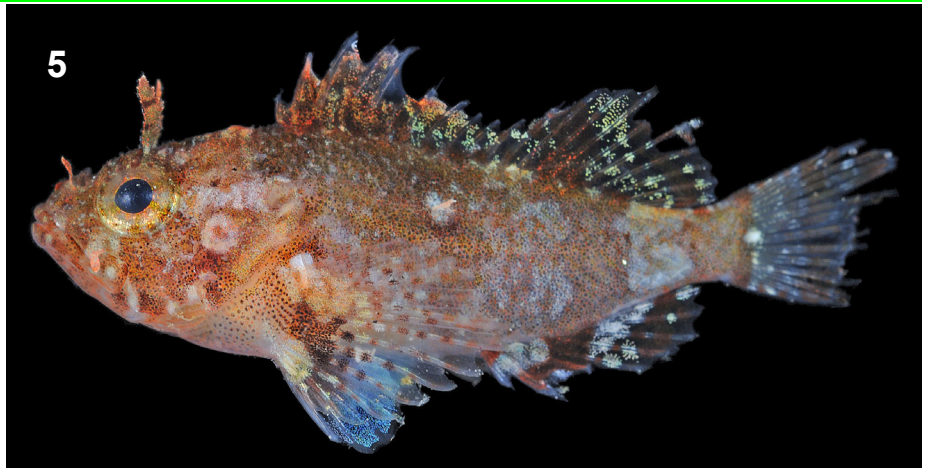




## マダラフサカサゴ属 Genus *Sebastapistes* Gill 1877

### アカマダラフサカサゴ *Sebastapistes perplexa* Motomura, Aizawa & Endo 2014

日本固有種でこれまで房総半島、伊豆半島、高知県、伊豆諸島から標本が得られている。三重県では熊野市二木島から採集され、これは三重県から標本に基づく初記録である。本種は同所的に出現するマダラフサカサゴ *Sebastapistes strongia* (Cuvier 1829) とよく似るが、眼下骨棘が1本であること、胸鰭が12-15軟条（最頻値14）であることで区別できる（Motomura et al, 2014）。（笹木大地）



アカマダラフサカサゴ *Sebastapistes perplexa*, FRLM 63034, 16 mm SL, 熊野市二木島町

## メバル属 Genus *Sebastes* Cuvier 1829

### シロメバル *Sebastes cheni* Barsukov 1988

日本および朝鮮半島南部に分布。国内では岩手県および秋田県から九州にかけて分布する。生時、体の背側面および胸鰭は褐色。胸鰭軟条数が17であること、臀鰭軟条数が8であること、密着させた胸鰭先端が肛門を越えることなどによって日本産同属他種と区別可能（Kai and Nakabo, 2008）。メバル種群3種の中で、国内において最も一般的な種である。内湾の堤防や岩礁域などに多く、県内では伊勢湾内の沿岸域で特に多くみられる。（阿部公哉）



シロメバル *Sebastes cheni*, FRLM 40528, 163 mm SL, 英虞湾内座賀島

### ヨロイメバル *Sebastes hubbsi* (Matsubara 1937)

日本、中国、朝鮮半島南岸および東岸に分布。国内では青森県から九州北西岸の日本海・東シナ海沿岸、青森県から三重県にかけての太平洋沿岸、大阪湾、瀬戸内海に分布。涙骨の棘は不明瞭であること、背鰭棘数が通常14であること（稀に13）、腹鰭に褐色小斑点が存在すること、側線有孔鱗数が25-30であることによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）



ヨロイメバル *Sebastes hubbsi*, FRLM 56619, 85 mm SL, 英虞湾内座賀島



**アカメバル**  
***Sebastes inermis***  
**Cuvier 1829**

日本および朝鮮半島南部に分布。国内では北海道南部から九州南部にかけて分布。生時、体の背側面および胸鰭は赤みがかった褐色。胸鰭軟条数が15であること、臀鰭軟条数が7であること、密着させた胸鰭先端が肛門を越えることなどによって日本産同属他種と区別可能 (Kai and Nakabo, 2008)。沿岸のアマモ場やガラモ場に多くみられる。(阿部公哉)



アカメバル *Sebastes inermis*, FRLM 40526, 111 mm SL, 英虞湾内座賀島

**トゴットメバル**  
***Sebastes joyneri***  
**Günther 1878**

日本、韓国、中国、台湾に分布。国内では函館、青森県から九州北西岸の日本海側、青森県から高知県柏島までの太平洋岸に分布。体側上半分の黒色帯の輪郭は丸みを帯びること、涙骨に顕著な2棘があること、側線有孔鱗数が47-53であることなどによって日本産同属他種と区別される。本種は水深15 m以深のやや深い岩礁域に生息する。(阿部公哉)



トゴットメバル *Sebastes joyneri*, FRLM 33364, 112 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

**カタボシアカメバル**  
***Sebastes kiyomatsui***  
**Kai & Nakabo 2004**

相模湾から和歌山県にかけての太平洋岸に分布する。鰓蓋に1黒色斑があること、胸鰭下半分の不分枝軟条数が通常7であること、下顎先端の突起が顕著ではないこと、涙骨に顕著な2棘があること、頭頂棘は強く小鱗に覆われないことによって日本産同属他種と区別可能。本種はかつてウケグチメバル *Sebastes scythropus* (Jordan & Snyder 1900) の種内変異とされていたが、Kai and Nakabo (2004) によって新種として記載された。(阿部公哉)



カタボシアカメバル *Sebastes kiyomatsui*, FRLM 55908, 224 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

**アコウダイ**  
***Sebastes matsubarae***  
**Hilgendorf 1880**

間宮海峡、北海道から高知県にかけて分布する。頭部背面に暗色横帯がないこと、背鰭・腹鰭・臀鰭・尾鰭の縁辺は暗色ではないこと、背鰭棘数は13であること、尾鰭は浅く切れ込むことなどによって日本産同属他種と区別可能。水深200 m以深に生息する。釣り上げた際に水圧の変化で目が飛び出る姿から「めぬけ」とも呼ばれ、非常に美味な高級魚である。(阿部公哉)



アコウダイ *Sebastes matsubarae*  
 志摩市志摩町和具 (木村清志撮影)



**タケノコメバル**  
***Sebastes oblongus***  
**Günther 1877**

日本，朝鮮半島南岸および東岸に分布。国内では北海道から長崎県にかけての日本海・東シナ海，青森県から高知県にかけて分布。体は黄褐色で，不規則な黒色斑が多数みられ，頭部には吻から眼を通り鰓蓋に至る1暗色線がある。眼隔域はくぼまないこと，涙骨に顕著な棘がないこと，側線有孔鱗数が39-49であることなどによって日本産同属他種と区別可能。県内では伊勢湾内で多くみられる。（阿部公哉）



タケノコメバル *Sebastes oblongus*, FRLM 40670, 192 mm SL, 英虞湾内座賀島

**ムラソイ**  
***Sebastes pachycephalus***  
**Temminck & Schlegel 1843**

日本，黄海および渤海沿岸，朝鮮半島南部に分布。国内では青森県から鹿児島県にかけて分布する。背鰭棘条部の基底は微小鱗で密に覆われること，生時体側に3本の暗褐色横帯があり，体背面に黄色あるいは赤褐色の模様をもたないこと，涙骨の棘は不明瞭であること，眼隔域がくぼむことによって日本産同属他種と区別可能である（Kai and Nakabo, 2013）。（阿部公哉）



ムラソイ *Sebastes pachycephalus*, FRLM 27885, 153 mm SL, 英虞湾内座賀島

**クロソイ**  
***Sebastes schlegelii***  
**Hilgendorf 1880**

日本，中国河北省から浙江省の沿岸，朝鮮半島からサハリン東南岸・西岸，千島列島南部に分布。国内では北海道全域，青森県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸，瀬戸内海，青森県から高知県土佐湾にかけて分布。涙骨に顕著な3棘があること，頭頂棘があることなどによって日本産同属他種と区別可能。県内では伊勢湾内沿岸域で比較的多くみられる。（阿部公哉）



クロソイ *Sebastes schlegelii*, FRLM 35026, 212 mm SL, 志摩市志摩町和具

**ウケグチメバル**  
***Sebastes scythropus***  
**(Jordan & Snyder 1900)**

青森県から土佐湾にかけての太平洋沿岸に分布。鰓蓋に1黒色帯があること，胸鰭下半分の不分枝軟条数が通常8であること，下顎先端の突起が顕著であること，涙骨に顕著な2棘があること，頭頂棘は強く小鱗に覆われないことによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）



ウケグチメバル *Sebastes scythropus*, FRLM 34762, 193 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



**ウスメバル**  
***Sebastes thompsoni***  
**(Jordan & Hubbs 1925)**

日本、朝鮮半島東岸および南岸に分布。国内では北海道から高知県にかけての太平洋沿岸、北海道から対馬の日本海沿岸に分布。屋久島からも偶発的な記録がある。体側上半分の黒色帯の輪郭は不定形であること、涙骨に顕著な2棘があること、側線有孔鱗数が52-56であることによって日本産同属他種と区別される。  
 (阿部公哉)



ウスメバル *Sebastes thompsoni*, FRLM 37637, 243 mm SL, 志摩市大王町波切

**クロメバル**  
***Sebastes ventricosus***  
**Temminck & Schlegel 1843**

日本および朝鮮半島南部に分布。国内では岩手県および石川県から九州にかけて分布する。生時、体の背側面は黒褐色、胸鰭は黒色。密着させた胸鰭先端が肛門を越えないこと、胸鰭軟条数が16であること、臀鰭軟条数が7-8であることなどによって日本産同属他種と区別可能 (Kai and Nakabo, 2008)。外海に面した岩礁域などに多く、県内では熊野灘に面した沿岸域で多くみられる。  
 (阿部公哉)



クロメバル *Sebastes ventricosus*, FRLM 41135, 209 mm SL, 志摩市志摩町片田

**カサゴ属 Genus Sebastiscus Jordan & Starks 1904**

**アヤメカサゴ**  
***Sebastiscus albofasciatus***  
**(Lacepède 1802)**

日本、濟州島、台湾北部、澎湖諸島、香港に分布。国内では岩手県から九州南岸の太平洋沿岸、新潟県から山口県の日本海沿岸、屋久島沖、東シナ海大陸棚縁辺域に分布。生時、体は赤色の地色に黄色の虫食い状斑紋があること、胸鰭は16-18 (通常17) 軟条であること、頬部に棘があることによって日本産同属他種と区別可能。  
 (阿部公哉)



アヤメカサゴ *Sebastiscus albofasciatus*, FRLM 50691, 133 mm SL, 志摩市志摩町和具沖



志摩市大王町船越、英虞湾の夕日  
 2023年11月 (木村清志撮影)



**カサゴ**  
***Sebastes marmoratus***  
**(Cuvier 1829)**

北西太平洋およびシドニー湾（移入）に分布。国内では北海道から九州南岸にかけての日本海・東シナ海・太平洋沿岸、八丈島に分布。側線上方の白点は不明瞭か、あっても不定形であること、体側の小白点には暗色のふちどりがなく、形は崩れた円形であること、胸鰭は17-19（通常18）軟条であることなどによって日本産同属他種と区別可能。

（阿部公哉）



カサゴ *Sebastes marmoratus*, FRLM 39897, 144 mm SL, 英虞湾内座賀島

**ウツカリカサゴ**  
***Sebastes tertius***  
**(Barsukov & Chen 1978)**

日本、朝鮮半島沿岸、香港、ジャワ島東方に分布。国内では青森県から宮崎県、五島列島南西沖から東シナ海中部の大陸棚縁辺域に分布。側線上方にも明瞭なふちどりのある円形小白点があること、体側の小白点に暗色もしくは赤褐色のふちどりがあること、胸鰭は18-20（通常19）軟条であることなどによって日本産同属他種と区別可能。通常は水深60-150 mの海底に生息し、体長50 cm 程度まで成長する。（阿部公哉）



ウツカリカサゴ *Sebastes tertius*, FRLM 40878, 190 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

**キチジ属 Genus Sebastolobus Gill 1881**

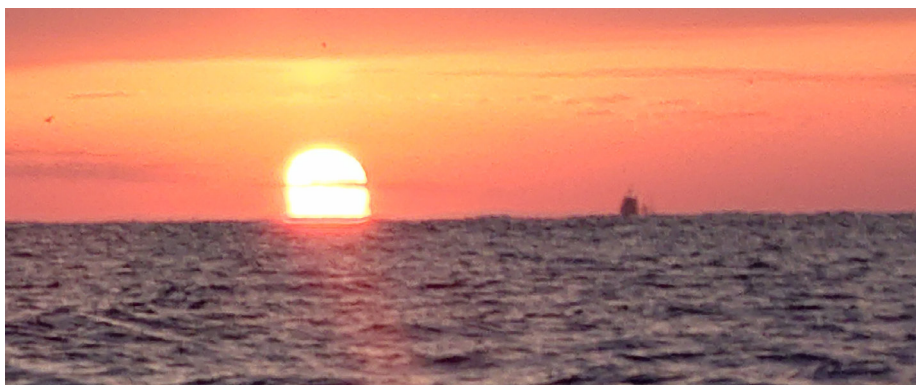
**キチジ**  
***Sebastolobus macrochir***  
**(Günther 1877)**

北西太平洋から北太平洋かけて分布。国内では北海道オホーツク海、北海道から三重県大王崎の太平洋沿岸、新潟県・島根県隠岐（日本海では稀）に分布。上顎前縁がほとんどまっすぐか、わずかにくぼむこと、頭部断面がやや側扁すること、背鰭棘条部の黒斑がやや不明瞭であることによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）



キチジ *Sebastolobus macrochir*, FRLM 45040, 247 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

志摩市沖熊野灘の朝日，2024年2月  
 （木村清志撮影）





## シロカサゴ属 Genus *Setarches* Johnson 1862

### シロカサゴ *Setarches guentheri* Johnson 1862

全世界の熱帯から温帯域に広く分布する。水深 150–1000 m の幅広い水深帯で確認されているが、通常は水深 400 m 程度で漁獲される。前鰓蓋骨第 2 棘がよく発達すること、胸部および喉部の鱗が露出すること、臀鰭が 3 棘であることなどによって日本産同属他種と区別可能 (Wada et al., 2020b)。(阿部公哉)



シロカサゴ *Setarches guentheri*, FRLM 60895, 143 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

## カジカ亜目 Suborder Cottoidei

## ギンダラ科 Family Anoplopomatidae Jordan & Gilbert 1883

## アブラボウス属 Genus *Erilepis* Gill 1894

### アブラボウス *Erilepis zonifer* (Lockington 1880)

日本からアリューシャン列島、アラスカ湾、カリフォルニアに至る北太平洋。日本では三重県から北海道、兵庫県から青森に分布する。三重県では熊野灘の深海カゴ (800–1200 m 深) や深海延縄 (500–600 m 深) で採集された。背鰭 XII–XIX + I–II, 15–17。(木村清志)



アブラボウス *Erilepis zonifer*, FRLM 1778, ca. 1000 mm SL, 熊野灘

## アイナメ科 Family Hexagrammidae Jordan 1888

## アイナメ属 Genus *Hexagrammos* Tilesius 1810

### クジメ *Hexagrammos agrammus* (Temminck & Schlegel 1843)

中国黄海、渤海湾、韓国、日本、ピョートル大帝湾。日本では鹿児島県から北海道に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘沿岸で採集された。尾鰭後縁は丸い、体の側線は 1 本。(木村清志)



クジメ *Hexagrammos agrammus*, FRLM 36960, 142 mm SL, 英虞湾内座賀島



**アイナメ**  
***Hexagrammos otakii***  
**Jordan & Starks 1895**

中国東シナ海からオホーツク海南部に至る北西太平洋。日本では以前は九州から北海道まで見られたが、最近では分布が北に片寄る傾向にある。三重県では主に伊勢湾内で漁獲される。英虞湾でも以前は見られたが、近年、ほとんど出現しなくなった。尾鰭は截形、頬部と鰓蓋部の大部分は被鱗する。体の側線は5本。  
(木村清志)



アイナメ *Hexagrammos otakii*, FRLM 57305, 115 mm SL, 伊勢市村松沖

**ホッケ属 Genus *Pleurogrammus* Gill 1861**

**ホッケ**  
***Pleurogrammus azonus***  
**Jordan & Metz 1913**

中国東シナ海から千島列島に至る北西太平洋。日本では三重県・山口県から北海道に分布する。三重県ではごく希に熊野灘の定置網で漁獲される。尾鰭は二分する、体に明瞭な横帯はない。  
(木村清志)



ホッケ *Pleurogrammus azonus*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)

**クチバシカジカ科 Family Rhamphocottidae Jordan & Gilbert 1883**

**トリカジカ属 Genus *Ereunias* Jordan & Snyder 1901**

**トリカジカ**  
***Ereunias grillator***  
**Jordan & Snyder 1901**

中国東シナ海, 台湾, 日本。日本では高知県から青森県。三重県では熊野灘の底曳網で採集された。腹鰭はないか外部から見えない。  
(木村清志)



トリカジカ *Ereunias grillator*, FRLM 42074, 265 mm SL, 熊野灘

**カジカ科 Family Cottidae Bonaparte 1831**

**カジカ属 Genus *Cottus* Linnaeus 1758**

**カジカ**  
***Cottus pollux* Günther 1873**

日本と中国。日本では九州北西部, 四国, 本州に分布する。河川上流域。陸封性。伊勢湾流入河川で見られる。背鰭 VIII-X + 15-18, 胸鰭 12-14。頭部や第1背鰭下に顕著な暗色帯がない。環境省準絶滅危惧。(木村清志)



カジカ *Cottus pollux*, FRLM 65129, 84 mm SL, 三重県

**ウツセミカジカ****Cottus reinii Hilgendorf 1879**

日本と中国。日本では九州北西部、四国、本州、北海道に分布する。河川中下流域。両側回遊性。三重県では伊勢湾流入河川に生息する。背鰭 VIII-IX + 16-18, 胸鰭 13-17, 眼から鰓蓋に向かう暗色斜走帯, および第1背鰭下に顕著な暗色帯がある。環境省絶滅危惧 IB 類。 (木村清志)

ウツセミカジカ *Cottus reinii*, FRLM 53214, 123 mm SL, 三重県**カマキリ属 Genus Rheopresbe Jordan & Starks 1904**

**カマキリ (アユカケ)**  
***Rheopresbe kazika***  
**(Jordan & Starks 1904)**

現在のところ日本のみ。国内では宮崎県・佐賀県から青森県に分布する。河川中下流域。降下回遊性。三重県では伊勢湾流入河川に生息する。鰓膜は峡部と癒合する。頭部に隆起線がない。口蓋骨歯がある。 (木村清志)

カマキリ (アユカケ) *Rheopresbe kazika*, FRLM 36406, 124 mm SL, 紀北町銚子川**ウラナイカジカ科 Family Psychrolutidae Günther 1861****ホホウロコカジカ属 Genus Astrocottus Bolin 1936**

**セトカジカ**  
***Astrocottus matsubarae***  
**Katayama 1942**

現在のところ日本のみに分布する。国内では三重県から岩手県、九州西岸から石川県、瀬戸内海から知られている。三重県では伊勢湾および英虞湾から採集されている。背鰭 VII-X + 11-14, 臀鰭 11-13, 下顎腹面は被鱗する。 (木村清志)

セトカジカ *Astrocottus matsubarae*, FRLM 37075, 41 mm SL, 伊勢湾**アカドンコ属 Genus Ebinania Sakamoto 1932**

**ボウズカジカ**  
***Ebinania brephocephala***  
**(Jordan & Starks 1903)**

現在のところ日本のみ。国内では鹿児島県から茨城県に分布する。三重県では熊野灘の底曳網で採集される。左右の鰓膜は峡部と癒合し峡部を横切る皮褶を形成しない。鋤骨歯がある。頭部に皮弁がない。背鰭は1基。 (木村清志)

ボウズカジカ *Ebinania brephocephala*,  
熊野灘  
上 FRLM 32924, 82 mm SL  
下 FRLM 33818, 134 mm SL

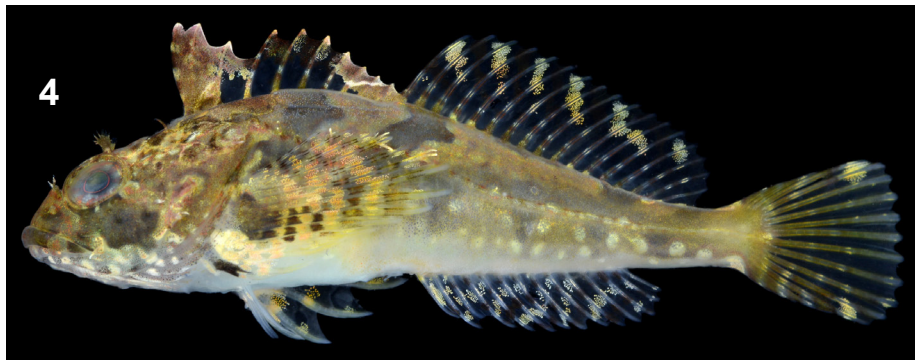




## サラサカジカ属 Genus *Furcina* Jordan & Starks 1904

### キヌカジカ *Furcina osimae* Jordan & Starks 1904

中国北部，韓国，日本，日本では宮崎県・長崎県から北海道に分布する．三重県では志摩市や南伊勢町の沿岸で採集された．眼後部と後頭部に皮弁がある，前鰓蓋骨に2棘，最上棘は広く二分する，背鰭は2基．  
(木村清志)



キヌカジカ *Furcina osimae*, FRLM 55988, 37 mm SL, 英虞湾内座賀島

## イダテンカジカ属 Genus *Ocynectes* Jordan & Starks 1904

### イダテンカジカ *Ocynectes maschalis* Jordan & Starks 1904

韓国，日本，日本では宮崎県から宮城県，九州北西岸から北海道に分布する．三重県では熊野灘で採集された．側線前部に皮弁がある，頭頂部から後頭部にかけて3対の総状皮弁がある．  
(木村清志)



イダテンカジカ *Ocynectes maschalis*, FRLM 44321, 69 mm SL, 熊野市甫母町

## アナハゼ属 Genus *Pseudoblennius* Temminck & Schlegel 1850

### ヤナギアナハゼ *Pseudoblennius argenteus* (Döderlein 1887)

現在のところ日本のみ，国内では三重県から千葉県，京都府に分布する．三重県では熊野灘の定置網で採集された．第1背鰭前部鰭膜の上部に半長円形の暗色斑がある．  
(木村清志)



ヤナギアナハゼ *Pseudoblennius argenteus*, FRLM 37616, 55 mm SL, 志摩市志摩町御座

### アサヒアナハゼ *Pseudoblennius cottoides* (Richardson 1848)

中国渤海湾，韓国，日本，日本では宮崎県・長崎県から北海道に分布する．三重県では伊勢湾，熊野灘ともに沿岸域で見られる．第1背鰭第1, 2棘はそれより後方の棘よりわずかに高いかほぼ同長，下顎腹面に明瞭な暗色斑がある．  
(木村清志)



アサヒアナハゼ *Pseudoblennius cottoides*, FRLM 52932, 57 mm SL, 英虞湾内座賀島

## アヤアナハゼ

***Pseudoblennius marmoratus*  
(Döderlein 1884)**

韓国, 日本. 日本では三重県から宮城県, 長崎県から青森県に分布する. 三重県では熊野灘沿岸で採集された. 第1背鰭第2, 3棘はそれより後方の棘より明瞭に長い. 臀鰭に明瞭な暗色斑がある. (木村清志)



アヤアナハゼ *Pseudoblennius marmoratus*, FRLM 41709, 103 mm SL  
志摩市志摩町片田

## アナハゼ

***Pseudoblennius percoides*  
Günther 1861**

韓国, 日本. 日本では宮城県・長崎県から北海道に分布する. 三重県では伊勢湾, 熊野灘の沿岸域で見られる. 吻端は尖る, 尾鰭後縁は丸い, 胸鰭腋部は無鱗. (木村清志)



アナハゼ *Pseudoblennius percoides*, FRLM 56074, 113 mm SL, 英虞湾内座賀島

## オビアナハゼ

***Pseudoblennius zonostigma*  
Jordan & Starks 1904**

韓国, 日本. 日本では高知県から福島県, 長崎県から青森県に分布. 三重県では熊野灘沿岸で採集された. 体側面に背鰭基底から臀鰭基底に達する明瞭な暗色横帯がある. 第1背鰭前部は特に高くない. (木村清志)



オビアナハゼ *Pseudoblennius zonostigma*, FRLM 54648, 70 mm SL, 志摩市志摩町御座

ウラナイカジカ属 Genus *Psychrolutes* Günther 1861

## クマノカジカ

***Psychrolutes macrocephalus*  
(Gilchrist 1904)**

中国東シナ海, 台湾, 日本, 南アフリカ. 日本では高知県から神奈川県. 九州西方に分布する. 三重県では熊野灘の深海カゴ (700-770 m 深) や底曳網で採集された. 左右の鰓膜は峽部と癒合し峽部を横切る皮褶を形成しない, 鋤骨歯がない, 頭部に皮弁や肉質突起がない, 背鰭は1基. (木村清志)



クマノカジカ *Psychrolutes macrocephalus*, FRLM 52212, 235 mm SL, 熊野灘



## クシカジカ属 Genus *Stlengis* Jordan & Starks 1904

### クシカジカモドキ *Stlengis distoechus* Bolin 1936

現在のところ日本のみ。国内では高知県から宮城県に分布する。三重県では熊野灘の底曳網で採集された。頭部背面に骨質隆起がない、前鰓蓋骨は著しく長く、上面に鋸歯がある、体側の鱗は2列。(木村清志)



クシカジカモドキ *Stlengis distoechus*, FRLM 34100, 76 mm SL, 熊野灘

### ウロコカジカ *Stlengis misakia* (Jordan & Starks 1904)

台湾東部, 日本。日本では鹿児島県から福島県, 九州西方。三重県では熊野灘の底曳網で採集された。頭部背面に骨質隆起がない、前鰓蓋骨は著しく長く、上面に鋸歯がある、体側の鱗は1列。(木村清志)



ウロコカジカ *Stlengis misakia*, FRLM 40499, 76 mm SL, 熊野灘

### クシカジカ *Stlengis osensis* Jordan & Starks 1904

現在のところ日本のみ。国内では鹿児島県から福島県に分布する。三重県では熊野灘の底曳網で採集された。頭部背面に骨質隆起がない、前鰓蓋骨は著しく長く、上面に鋸歯がある、体側の鱗は3列。(木村清志)



クシカジカ *Stlengis osensis*, FRLM 54688, 46 mm SL, 熊野灘

## スイ属 Genus *Vellitor* Jordan & Starks 1904

### スイ *Vellitor centropomus* (Richardson 1848)

中国東シナ海沿岸, 韓国, 日本。日本では和歌山県・長崎県から青森県, 三重県では英虞湾内のアマモ場やガラ藻場で多く採集された。胸鰭は13-16軟条で、後縁は臀鰭始部をとる垂線を越える。(木村清志)



スイ *Vellitor centropomus*, FRLM 55307, 57 mm SL, 英虞湾内座賀島

### ヒメスイ *Vellitor minutus* Iwata 1983

現在のところ日本のみ。国内では三重県から千葉県, 山口県に分布する。三重県では英虞湾内のアマモ場やガラ藻場で多く採集された。胸鰭は18-20軟条で、後縁は臀鰭始部をとる垂線に達しない。(木村清志)



ヒメスイ *Vellitor minutus*, FRLM 54873, 52 mm SL, 志摩市志摩町御座

## トクビレ科 Family Agonidae Swainson 1839

### イヌゴチ属 Genus *Percis* Scopoli 1777

#### トンボイヌゴチ *Percis matsuii* Matsubara 1936

中国黄海, 日本. 鹿児島県から静岡県に分布する. 口は端位, 第1背鰭始部付近の体背面は隆起しない, 背鰭IV-V+5, 臀鰭5-6. 本種は三重県尾鷲産の標本に基づいて記載されたが, ホロタイプは行方不明であるため, Kanayama (1991) によって



トンボイヌゴチ *Percis matsuii*, KAUM-I, 138256, 141 mm SL, 鹿児島県

尾鷲魚市場で得られた標本 (FRSKU 4632) がネオタイプに指定された. したがってタイプ産地は三重県尾鷲市である. (木村清志)

## ダンゴウオ科 Family Cyclopteridae Bonaparte 1831

### ホテイウオ属 Genus *Aptocyclus* De la Pylaie 1835

#### ホテイウオ *Aptocyclus ventricosus* (Pallas 1769)

韓国, 日本からベーリング海, アラスカ, カナダに至る北太平洋. 日本では三重県・島根県から北海道に分布. 三重県では鳥羽市の的矢湾で採集された標本に基づく塚田・鈴木 (1998) の報告があるのみ.

(木村清志)



ホテイウオ *Aptocyclus ventricosus*, KAUM-I. 185822, 266 mm SL, 北海道

### イボダンゴ属 Genus *Eumicrotremus* Gill 1862

#### ダンゴウオ *Eumicrotremus awae* (Jordan & Snyder 1902)

現在のところ, 三重県から千葉県 of 日本のみ (Lee et al., 2017). 三重県では志摩市の海岸や定置網で採集された. 体表に骨質瘤状突起や小皮弁がない, 下顎の前方3感覚孔は管状. 西日本にはサクラダンゴウオ *Eumicrotremus uenoi* Kai, Ikeguchi & Nakabo 2017 が分布する.

(木村清志)



ダンゴウオ *Eumicrotremus awae*, FRLM 54647, 16 mm SL, 志摩市志摩町御座

英虞湾内座賀島北岸, 2016年8月  
(日比野友亮撮影)





## クサウオ科 Family Liparidae Gill 1861

クサウオ属 Genus *Liparis* Scopoli 1777カンテンビクニン  
*Liparis frenatus*  
(Gilbert & Burke 1912)

日本, オホーツク海, サハリン.  
日本では三重県から北海道, 新潟県  
から青森県に分布する. 三重県では  
伊勢湾口の砂底域で採集された. 鰓  
孔は胸鰭始部より腹側に達する. 背  
鰭 34-37, 臀鰭 28-31. (木村清志)



カンテンビクニン *Liparis frenatus*, FRLM 39050, 40 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

スナビクニン  
*Liparis punctulatus*  
(Tanaka 1916)

韓国, 日本, ロシア. 日本では和  
歌山県から福島県, 長崎県から青森  
県, 瀬戸内海に分布する. 三重県で  
は伊勢湾の底曳網や熊野灘の定置網  
などで採集された. 鰓孔は胸鰭始部  
に達しないか, 達しても第1, 2軟



スナビクニン *Liparis punctulatus*, FRLM 55995, 19 mm SL, 南伊勢町宿浦

条まで. 背鰭 31-33, 臀鰭 25-28.

(木村清志)

## トゲウオ亜目 Suborder Gasterosteidae

## シワイカナゴ科 Family Hypoptychidae Steindachner 1880

クダヤガラ属 Genus *Aulichthys* Brevoort 1862クダヤガラ  
*Aulichthys japonicus*  
Brevoort 1862

北西太平洋の中国東部から韓国,  
日本. 日本では瀬戸内海, 三重県か  
ら北海道の太平洋岸, 長崎県から北  
海道の東シナ海・日本海沿岸. 三重



クダヤガラ *Aulichthys japonicus*, FRLM 6658, 75 mm SL, 三重県 (固定標本)

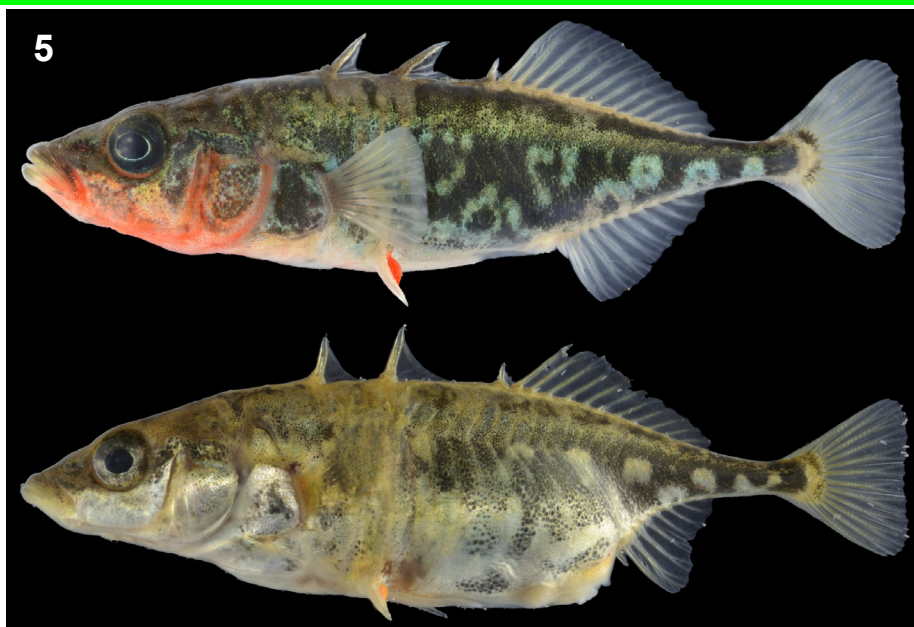
県では湾口近く沿岸で採集された.  
吻は管状, 背鰭棘は鰭膜で連続しな

い, 背鰭と臀鰭は対在する. 環境省  
準絶滅危惧. (木村清志)

## トゲウオ科 Family Gasterosteidae Bonaparte 1831

イトヨ属 Genus *Gasterosteus* Linnaeus 1758ハリヨ  
*Gasterosteus aculeatus*  
subsp.

日本固有種. 自然分布は岐阜県,  
三重県, 滋賀県だが, 三重県の個体  
群は1960年前後に絶滅. ただしそ  
の後他産地から移植された個体が国  
内外来種として定着している. 一年  
を通して水温 20℃以下の湧水起源の  
池や水路に生息し, 通し回遊は行わ  
ない. 背鰭棘が3本で, 体側の鱗板  
が体前半部に限られることで他のト  
ゲウオ科から区別可能. 環境省絶滅  
危惧 IA 類. (淀 太我)



ハリヨ *Gasterosteus aculeatus* subsp.

三重県

上 ♂, FRLM 52768, 54 mm SL

下 ♀, FRLM 52767, 47 mm SL

## ゲンゲ亜目 Suborder Zoarcoidei

### ゲンゲ科 Family Zoarcidae Swainson 1839

#### アベゲンゲ属 Genus *Japonolycodes* Shinohara, Sakurai & Machida 2002

##### アベゲンゲ *Japonolycodes abei* (Matsubara 1936)

相模湾，熊野灘，土佐湾から記録されている。本種は尾鷲沖で得られた標本に基づいて Matsubara (1936a) によって記載された。本種は腹鰭が鰓孔の後方にあること，眼を囲むよ

5



アベゲンゲ *Japonolycodes abei*, NSMT-P 75368, 188 mm SL, 相模湾

うに眼下孔，両眼間隔孔があることが特徴。  
(笹木大地)

#### マユガジ属 Genus *Lycodes* Reinhardt 1831

##### イレズミガジ *Lycodes caudimaculatus* Matsubara 1936

宮城県から千葉県銚子の太平洋沖，駿河湾，遠州灘，熊野灘，土佐湾に分布する。本種は尾鷲沖で得られた標本に基づいて Matsubara (1936b) によって記載された。本種は口蓋骨に歯があること，胸鰭後縁輪郭に凹みがないこと，体に斑紋がな

5



イレズミガジ *Lycodes caudimaculatus*, NSMT-P 77893, 234 mm SL, 福島県

く，尾端部の斑紋が斑点上であること，背鰭は黒く縁取られること，側線は尾部後方まで達することで同属他種と区別できる。  
(笹木大地)

## カズナギ科 Family Neozoarcidae Jordan & Snyder 1902

### カズナギ属 Genus *Zoarchias* Jordan & Snyder 1902

##### トビイトギンボ *Zoarchias glaber* Tanaka 1908

日本固有種であり，宮城県から三重県の太平洋沿岸，和歌山市大川，大阪府岬，淡路島由良・阿万に分布する。三重県では鳥羽市，志摩市から標本が得られている。本種はシンジュカズナギ *Zoarchias macrocephalus* Kimura & Sato 2007 に似るが頭長は短く全長の 12.1–15.2% であること，尾鰭付近に通常無鱗域があることで区別できる。  
(笹木大地)

3



トビイトギンボ *Zoarchias glaber*  
上 FRLM 56600, 87 mm SL, 鳥羽市浦村町  
下 FRLM 40856, 88 mm SL, 英虞湾内座賀島

3



シンジュカズナギ *Zoarchias macrocephalus*, 三重県  
上 ♂, NSMT-P 72588, 123 mm TL, ホロタイプ  
下 ♀, FRLM 3932, 122 mm TL, パラタイプ

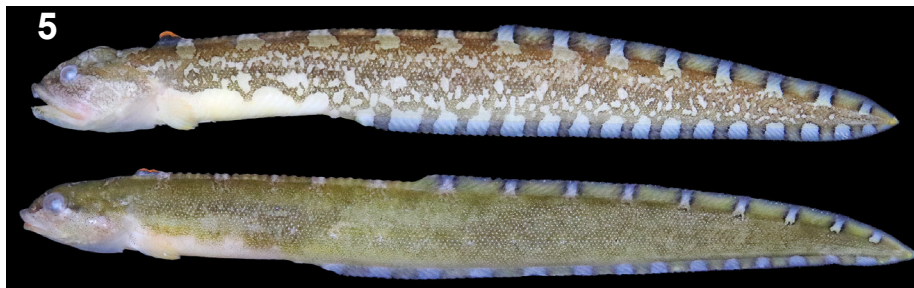
##### シンジュカズナギ *Zoarchias macrocephalus* Kimura & Sato 2007

日本固有種であり，これまでに三重県からしか標本は得られていない。岩場やガラモ場，カキ殻やアコヤガイの空殻等に生息している。本種はトビイトギンボ *Zoarchias glaber* Tanaka 1908 に似るが頭長は長く全長の 13.9–18.1% であること，尾鰭付近に無鱗域がないことで区別できる。環境省準絶滅危惧種。  
(笹木大地)



**オオカズナギ**  
***Zoarchias major***  
**Tomiyama 1972**

日本および韓国の東アジア，国内では兵庫県，京都府，山口県，長崎県，熊本県の日本海・東シナ海，神奈川県三浦半島，愛知県，三重県の太平洋，瀬戸内海に分布する．三重県では鳥羽市浦村から標本が得られている．本種は背鰭・臀鰭に2本が1組の暗色線があること，背鰭前部の棘数が26-36であることで同属他種と



オオカズナギ *Zoarchias major*, 大分県 (星野和夫氏撮影)  
上 FRLM 65880, 95 mm SL  
下 FRLM 65882, 72 mm SL

区別できる. (笹木大地)

**コモナイトギンポ**  
***Zoarchias neglectus***  
**Tanaka 1908**

日本固有種であり，茨城県平磯海岸から東京湾，三浦半島に分布する．三重県では津市白塚の伊勢湾および志摩市の太平洋岸から標本が得られている．本種は背鰭・臀鰭に白色線があること，背鰭前部の棘数は



コモナイトギンポ *Zoarchias neglectus*, FRLM 43782, 92 mm SL, 津市白塚町

22-25 であること，吻背面に隆起はないこと，体側中央に並ぶ斑紋の中央に白点はないことで同属他種と区別できる. (笹木大地)

**イトギンポ科 Family Eulophiidae Smith 1902**

**イトギンポ属 Genus Eulophias Smith 1902**

**トゲイトギンポ**  
***Eulophias spinosior***  
**Nakayama, Yamakawa,**  
**Takami & Endo 2023**

駿河湾，熊野灘，土佐湾から記録されている (Nakayama et al., 2023). 本種は背鰭棘数が133-143であること，臀鰭軟条数が109-116で



トゲイトギンポ *Eulophias spinosior*, BSKU 118798, 155 mm SL, 高知県，バラタイプ

あること，胸鰭条数が5-6であること，脊椎骨数が146-156であること，眼の後方に暗色帯がないこと，体側および尾部中央に暗色斑がないことで同属他種と区別できる (Nakayama et al., 2023). (笹木大地)

**イトギンポ**  
***Eulophias tanneri***  
**Smith 1902**

日本からピョートル大帝湾，日本では鹿島灘，相模湾，駿河湾，熊野灘に分布する．三重県では志摩市和具沖，南伊勢町沖，尾鷲沖から標本が得られている．本種は背鰭棘数が116-125であること，臀鰭軟条数が



イトギンポ *Eulophias tanneri*, FRLM 56666, 109 mm SL, 南伊勢町沖

90-100 であること，胸鰭条数が7であること，脊椎骨数が132-143であること，眼の後方に暗色帯があること，体側および尾部中央に暗色斑があることが特徴 (Nakayama et al., 2023). (笹木大地)

**ニシキギンポ科 Family Pholidae Gill 1893**

**ニシキギンポ属 Genus Pholis Smith Scopoli 1777**

**タケギンポ**  
***Pholis crassispina***  
**(Temminck & Schlegel 1845)**

日本，韓国，中国の東アジア，日本ではオホーツク海を除く北海道沿岸，青森県から九州北岸の日本海，青森県から三重県の太平洋沿岸，瀬戸内海・紀伊水道北部に分布する．三重県では鳥羽市，志摩市から標本が得られている．本種はギンポ *Pholis nebulosa* (Temminck & Schlegel



タケギンポ *Pholis crassispina*, FRLM 37201, 92 mm SL, 英虞湾内座賀島

1845) に似るが，眼の下方に輪郭の明瞭な横帯があること，尾鰭は全体が一様な褐色であること，胸鰭長は頭長の30-46%であることで区別できる. (笹木大地)

## ギンポ

*Pholis nebulosa*  
(Temminck & Schlegel 1845)

日本および韓国に分布する。日本ではオホーツク海を除く北海道沿岸、青森県から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、青森県から宮崎県の太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾、熊野灘に分布する。



ギンポ *Pholis nebulosa*, FRLM 50811, 98 mm SL, 英虞湾内座賀島

本種は眼の下方に輪郭の不明瞭な横帯があるかまたはないこと、尾鰭の周囲は白色か透明であること、胸鰭

長は頭長の40–54%であること、胸鰭は13–15軟条であることが特徴。(笹木大地)

## ダイナンギンポ科 (新称) Family Cebidichthyidae Gill 1862

### ダイナンギンポ属 Genus *Dictyosoma* Temminck & Schlegel 1845

## ベニツケギンポ

*Dictyosoma rubrimaculatum*  
Yatsu, Yasuda & Taki 1978

日本から朝鮮半島西岸・南岸の東アジア、日本では青森県津軽半島から長崎県の日本海・東シナ海沿岸、岩手県、千葉県館山から紀伊水道、日向灘の太平洋沿岸に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種はダイナンギンポ *Dictyosoma*



ベニツケギンポ *Dictyosoma rubrimaculatum*, FRLM 35108, 96 mm SL  
志摩市志摩町和具和具大島

*temminckii* Bleeker 1853 に似るが軀幹部腹側に側線があることで区別で

きる。また、鰓蓋上端部に朱斑が常にあることも特徴。(笹木大地)

## ダイナンギンポ

*Dictyosoma temminckii*  
Bleeker 1853

日本、朝鮮半島全沿岸、済州島、渤海、中国山東半島の東アジア、日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、大阪湾、瀬戸内海に分布する。三重県では熊野灘から標本が得られている。本種



ダイナンギンポ *Dictyosoma temminckii*, FRLM 37551, 193 mm SL, 英虞湾内座賀島

は軀幹部腹側の側線はないか、あっても中断することが特徴。また、体

長15 cmを超える個体の鰓蓋上端部に朱斑はない。(笹木大地)

## サンフィッシュ目 (新称) Order Centrarchiformes

### シマイサキ亜目 (新称) Suborder Terapontoidei

### メジナ科 Family Girellidae Gill 1862

### メジナ属 Genus *Girella* Gray 1835

## クロメジナ

*Girella leonina*  
(Richardson 1846)

南シナ海から韓国、日本に分布し、日本では太平洋側は東北地方以南、日本海側は北海道以南に分布する。三重県では熊野灘沿岸でみられる。他のメジナ科の種とは上唇が薄いこと、生時体側に淡色横帯がないこと、鰓蓋の後縁が黒いこと、背鰭棘部中央下横列鱗数が8–13であること、成魚の尾柄部は低いことで区別できる。(武内 俊)



クロメジナ *Girella leonina*, FRLM 41595, 359 mm SL, 志摩市志摩町和具



**オキナメジナ**  
*Girella mezinga*  
 Jordan & Starks 1907

西太平洋に分布し、日本では太平洋側は千葉県外房以南、日本海側は山口県以南に分布する。三重県では南伊勢町方座浦から標本が得られている。他のメジナ科の種とは上唇が厚いこと、生時体側に淡色横帯があることで区別できる。（武内 俊）



オキナメジナ *Girella mezinga*, FRLM 58281, 70 mm SL, 和歌山県

**メジナ**  
*Girella punctata*  
 Gray 1835

西太平洋の南シナ海から東はフィリピンまでと北は韓国、日本まで分布し、日本では北海道以南に分布するが琉球列島や小笠原諸島では少ない。三重県では伊勢湾と熊野灘沿岸で普通にみられる。他のメジナ科の種とは上唇が薄いこと、生時体側に淡色横帯がないこと、鰓蓋の後縁は黒くないかわずかに黒いこと、背鰭棘部中央下横列鱗数が6-9であること、成魚の尾柄部は高いことで区別できる。（武内 俊）

メジナ *Girella punctata*  
 上 FRLM 41017, 223 mm SL  
 志摩市志摩町越賀沖  
 下 FRLM 57109, 31 mm SL  
 英虞湾内座賀島



**タカベ科 Family Scorpididae Günther 1860**

**タカベ属 Genus Labracoglossa Peters 1866**

**タカベ**  
*Labracoglossa argentiventris*  
 Peters 1866

温帯種で、朝鮮半島、茨城県から九州南岸の太平洋沿岸、若狭湾以南の日本海沿岸および小笠原諸島に分布する。本科魚類は日本では本種のみが知られる。三重県では熊野灘で普通にみられる。本種はフエダイ科のウメイロ *Paracaesio xanthura* (Bleeker 1869) やタカサゴ科のウメイロモドキ *Caesio teres* Seale 1906 に体型や体色がやや類似するが、体側に細長い縦線が複数あること、背鰭軟条数、臀鰭軟条数がそれぞれ26-29、



タカベ *Labracoglossa argentiventris*, FRLM 37114, 132 mm SL, 志摩市志摩町御座

22-23 と多いこと、背鰭棘条部と軟条部の間に欠刻があることで区別できる。（鈴木 啓）



# イスズミ科 Family Kyphosidae Jordan 1887

## イスズミ属 Genus *Kyphosus* Lacepède 1801

### ノトイスズミ *Kyphosus bigibbus* Lacepède 1801

赤道付近の熱帯域を除くインドー西太平洋に分布する。国内では能登半島から九州南岸にかけての日本海・東シナ海沿岸，青森県から九州南岸にかけての太平洋沿岸，大隅諸島以南に分布。背鰭および臀鰭がそれぞれ通常 12, 11 軟条であること，背鰭軟条部が棘条部の最長棘より低いこと，吻が短く口が少し丸いこと，第 1 鰓弓の総鰓耙数が 21-24 であることによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）



ノトイスズミ *Kyphosus bigibbus*, FRLM 41593, 383 mm SL, 志摩市志摩町御座

### テンジクイサキ *Kyphosus cinerascens* (Forsskal 1775)

インドー太平洋に広く分布する。国内では北海道から九州西岸にかけての日本海・東シナ海沿岸，北海道から九州南岸にかけての太平洋沿岸，琉球諸島，小笠原諸島，大東諸島に分布。背鰭軟条部が棘条部の最長棘より高いこと，背鰭および臀鰭がそれぞれ通常 12, 11 軟条であることによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）



テンジクイサキ *Kyphosus cinerascens*, FRLM 37041, 166 mm SL, 志摩市志摩町御座

### ミナミイスズミ *Kyphosus pacificus* Sakai & Nakabo 2004

西ー中部太平洋に分布する。国内では伊豆諸島から琉球諸島の黒潮流域，小笠原諸島，大東諸島に分布。三重県では南伊勢町で採集された。背鰭および臀鰭がそれぞれ通常 12, 11 軟条であること，背鰭軟条部が棘条部の最長棘より低いこと，吻が長く口が少し尖ること，第 1 鰓弓の総鰓耙数が 26-29 であることによって日本産同属他種と区別可能。（阿部公哉）



ミナミイスズミ *Kyphosus pacificus*, FRLM 60951, 188 mm SL, 南大東島





**イスズミ**  
***Kyphosus vaigiensis***  
**(Quoy & Gaimard 1825)**

インドー太平洋に広く分布する。国内では津軽海峡から九州西岸にかけての日本海・東シナ海沿岸、北海道から九州南岸にかけての太平洋沿岸、琉球諸島、小笠原諸島、大東諸島に分布。背鰭が通常14軟条であること、臀鰭が通常13軟条であることによって日本産同属他種と区別可能。(阿部公哉)



イスズミ *Kyphosus vaigiensis*, FRLM 37314, 227 mm SL, 志摩市志摩町御座

**ユゴイ科 Family Kuhliidae Jordan & Evermann 1896**

**ユゴイ属 Genus Kuhlia Gill 1861**

**ユゴイ**  
***Kuhlia marginata***  
**(Cuvier 1829)**

スリランカからニューカレドニアにかけてのインドー西太平洋。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、福岡県、長崎県の九州北・西岸および南西諸島に分布する(吉郷, 2019)。写真個体は幼魚である。本種は成魚、幼魚共に尾鰭後縁が暗色で基部に黒色斑が散在することで、日本産同属他種と区別できる。(鈴木 啓)



ユゴイ *Kuhlia marginata*, FRLM 54891, 31 mm SL, 志摩市志摩町越賀あづり浜

**ギンユゴイ**  
***Kuhlia mugil* (Forster 1801)**

アフリカ東岸からアメリカ大陸西岸にかけてのインドー太平洋。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、長崎県、南西諸島および小笠原諸島に分布する(吉郷, 2019)。写真個体は幼魚である。本種は尾鰭の上下葉に黒色斜体があることで、日本産同属他種と区別できる。(鈴木 啓)



ギンユゴイ *Kuhlia mugil*, FRLM 41707, 22 mm SL, 志摩市志摩町片田麦崎

**オオクチユゴイ**  
***Kuhlia rupestris***  
**(Lacepède 1802)**

アフリカ東岸からサモアにかけてのインドー西太平洋。国内では福島県以南の太平洋沿岸、島根県、瀬戸内海、南西諸島および小笠原諸島に分布する(吉郷, 2019)。本種は成魚では尾鰭が一様に黒く両葉の先端が橙色であることにより日本産同科他種と区別できる。写真個体は幼魚で、幼魚では尾鰭両葉中央に黒色斑があることで日本産同属他種と区別できる。(鈴木 啓)



オオクチユゴイ *Kuhlia rupestris*, FRLM 42576, 21 mm SL, 紀北町長島

## シマイサキ科 Family Terapontidae Richardson 1842

シマイサキ属 Genus *Rhynchopelates* Fowler 1931

## シマイサキ

***Rhynchopelates oxyrhynchus***  
(Temminck & Schlegel 1843)

ベトナム北部から朝鮮半島、国内では津軽海峡から九州南岸にかけての太平洋・日本海・東シナ海沿岸および瀬戸内海に分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘に分布し、幼魚は汽水域によく出現する。沖縄県久米島からも記録がある。シマイサキ属には本種のみが属し、本種は下枝鰓耙数が15-17であること、背鰭棘部中央下の横列鱗数が10-11であること、尾鰭に多数の暗色線があることで日本産同科他種と区別できる。

(鈴木 啓)

シマイサキ *Rhynchopelates oxyrhynchus*, FRLM 53537, 152 mm SL, 英虞湾内座賀島コトヒキ属 Genus *Terapon* Cuvier 1816

## コトヒキ

***Terapon jarbua***  
(Fabricius 1775)

アフリカ東岸からサモアにかけての紅海を含むインド-西太平洋。国内では北海道以南の太平洋沿岸、青森県から長崎県までの日本海・東シナ海沿岸、瀬戸内海、南西諸島にかけて広く分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘に分布し、幼魚は汽水域によく出現する。本属は尾鰭に3-5本の幅広い黒色帯があることで特徴付けられ、本種は唯一の日本産同属他種であるヒメコトヒキ *Terapon theraps* Cuvier 1829と比較して、体の黒色縦帯が弧状であること、側線有孔鱗数が75-100であることで区別できる。

(鈴木 啓)

コトヒキ *Terapon jarbua*

上 FRLM 61721, 277 mm SL, 尾鷲市

下 FRLM 54385, 36 mm SL

英虞湾内座賀島



**ヒメコトヒキ**  
***Terapon theraps***  
**Cuvier 1829**

アフリカ東岸からフィジーにかけての紅海を含むインド-西太平洋。国内では茨城県以南の太平洋沿岸、秋田県以南の日本海・東シナ海沿岸、南西諸島に分布する。三重県では伊勢湾および熊野灘に分布する。本種は体の黒色縦帯が直線状であること、側線有孔鱗数が46-56であることによりコトヒキ *Terapon jarbua* (Fabricius 1775) と区別できる。

(鈴木 啓)



ヒメコトヒキ *Terapon theraps*, FRLM 39146, 87 mm SL, 志摩市志摩町御座

**イシダイ科 Family Oplegnathidae Bleeker 1853**

**イシダイ属 Genus Oplegnathus Richardson 1840**

**イシダイ**  
***Oplegnathus fasciatus***  
**(Temminck & Schlegel 1844)**

朝鮮半島, 台湾, 日本には北海道から沖縄まで分布する。琉球列島には少ない。体に暗色横帯があるが, 老成した雄では次第に不明瞭になり銀色となる。沿岸部各種漁業で漁獲される。

(榎原弘陸)

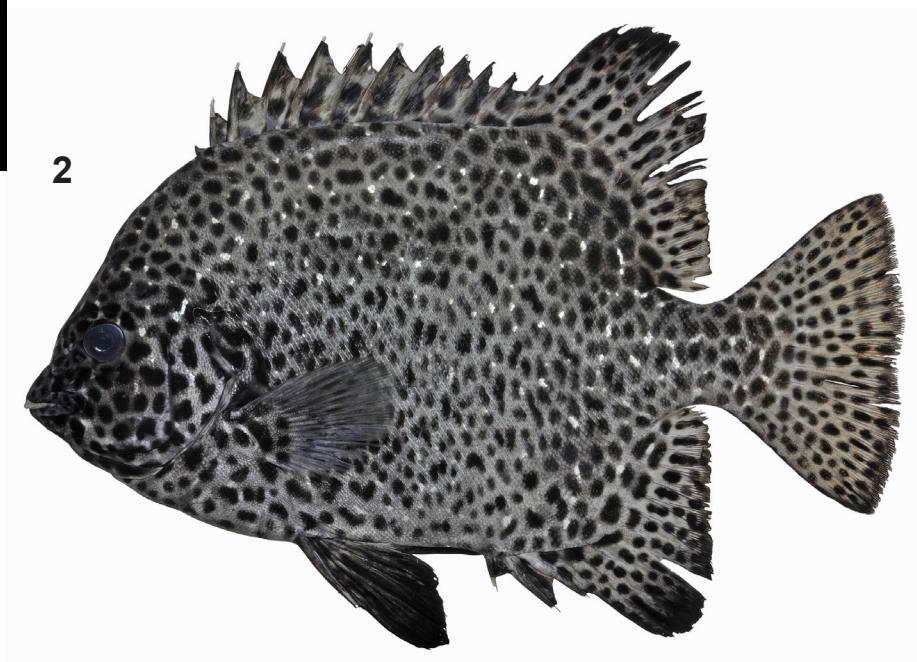
イシダイ *Oplegnathus fasciatus*  
 右 FRLM 46872, 181 mm SL  
 志摩市大王町波切  
 下 FRLM 55311, 59 mm SL  
 津市白塚町



**イシガキダイ**  
***Oplegnathus punctatus***  
**(Temminck & Schlegel 1844)**

朝鮮半島から台湾, 香港, 日本には北海道から沖縄まで分布する。体に黒褐色斑点が密に分布するが, 老成すると次第に消失し, 口の周辺が白くなる。三重県では近年, 大型個体の採集, 視認例が増加傾向にある。

(榎原弘陸)



イシガキダイ *Oplegnathus punctatus*, FRLM 46873, 203 mm SL, 志摩市大王町波切



**イシダイ×イシガキダイ**  
***Oplegnathus fasciatus* ×**  
***Oplegnathus punctatus***

イシダイ *Oplegnathus fasciatus* (Temminck & Schlegel 1844) と イシガキダイ *Oplegnathus punctatus* (Temminck & Schlegel 1844) の自然交雑個体。2種の中間的な外見的特徴をもつ。2種と同所でまれに採集される。  
 (榎原弘陸)

イシダイ×イシガキダイ  
*Oplegnathus fasciatus* X *Oplegnathus punctatus*  
 FRLM 46874, 168 mm SL  
 志摩市大王町波切



**カゴカキダイ科 Family Microcanthidae Bleeker 1876**

**カゴカキダイ属 Genus *Microcanthus* Swainson 1839**

**カゴカキダイ**  
***Microcanthus strigatus***  
**(Cuvier 1831)**

茨城県以南の太平洋沿岸，津軽海峡以南の日本海，瀬戸内海および南西諸島。国外では台湾，ハワイ諸島およびオーストラリアに分布。体高は高く，体側には黄色と黒色の斜走帯が交互に並ぶ。浅海域の岩礁帯に生息し，未成魚はタイドプールにもしばしば出現する。体長 20 cm 程度の小型種であり，まとまって漁獲されることは少ないが非常に美味。  
 (松尾 怜)



カゴカキダイ *Microcanthus strigatus*, FRLM 62989, 100 mm SL, 熊野市二木島町

**サンフィッシュ亜目 (新称) Suborder Centrachoidei**

**サンフィッシュ科 Family Centrarchidae Bleeker 1859**

**ブルーギル属 Genus *Lepomis* Rafinesque 1819**

**ブルーギル**  
***Lepomis macrochirus***  
***macrochirus* Rafinesque 1819**

国外外来種。原産地は北アメリカ大陸。日本には1960年に導入され，1980年代に拡散した。現在では全都道府県に侵入している。湖沼や流れの緩やかな河川に多く生息する。三重県には1970年代から侵入している。体高は高く側扁し，鰓蓋後縁に黒色の皮弁を有する。オスにはなわばりを作り卵を保護するなわばりオスと，スニーキングあるいはメス擬態により繁殖する寝取りオスの2型が存在する。特定外来生物。  
 (淀 太我)



ブルーギル *Lepomis macrochirus macrochirus*, FRLM 46610, 52 mm SL, 津市安濃町



## オオクチバス属 Genus *Micropterus* Lacepède 1802

### コクチバス *Micropterus dolomieu* Lacepède 1802

国外外来種。原産地は北アメリカ大陸。日本には1925年に導入されたが、おそらく定着せず、1990年前後に再導入され、急速に生息域を拡大。現在は東北から近畿地方までの本州に侵入している。流水環境に適応的なため、河川生物群集への影響が強く懸念される。オオクチバス *Micropterus nigricans* (Cuvier 1828) / *Micropterus salmoides* (Lacepède 1802) とは、背鰭欠刻が浅く欠刻部の棘の



コクチバス *Micropterus dolomieu*, FRLM 65878, 133 mm SL, 津市中村町

長さが最長棘の1/2以上であること、もつことなどで区別できる。特定外来生物。茶褐色の体色、鰓蓋後縁に白色斑を来生物。(淀 太我)

### オオクチバス *Micropterus nigricans* (Cuvier 1828) / *Micropterus salmoides* (Lacepède 1802)

国外外来種。原産地は北アメリカ大陸。現在国内では北海道を除く全都府県に生息している。湖沼や河川中下流域を中心に生息。従来オオクチバスは *Micropterus salmoides* (Lacepède 1802) とされ、その中に2亜種が認められてきた。しかし、Kim et al. (2022) は両者を種とし、Florida bass の学名を *M. salmoides*, Largemouth bass に *Micropterus nigricans* (Cuvier 1828) を充てた。日本では各地で Largemouth bass と Florida bass が自由交配による交雑個体群を形成している。両者には側



オオクチバス *Micropterus nigricans* / *Micropterus salmoides*, FRLM 65879, 192 mm SL 津市中村町

線鱗数や体斑紋、幽門垂数に差があるが重複範囲も大きく、交雑も進んでいることから同所的生息地では形態的に識別不可能である。そのため、本書では両者を併せてオオクチ

バスと表記し、学名については *M. nigricans* と *M. salmoides* を連記することとする。特定外来生物。(淀 太我)

## ケツギョ科 Family Siniperacidae Jordan & Richardson 1910

## オヤニラミ属 Genus *Coreoperca* Herzenstein 1896

### オヤニラミ *Coreoperca kawamebari* (Temminck & Schlegel 1843)

朝鮮半島南部と日本。日本では京都府桂川・由良川以西の本州、四国北東部、九州北部に自然分布。中部地方や東京都などに移植されている。三重県では北部の河川に流入する水路で採集された(太下・伊藤, 2023)。本種は背鰭 XI-XIII, 11-13, 臀鰭 III, 8-10, 側線有孔鱗数 33-38, 総鰓耙数 12-16 であることによって、日本に生息する同属他種と区別できる(日比野ほか, 2019, 2024)。環境省絶滅危惧 IB 類。(木村清志)



オヤニラミ *Coreoperca kawamebari*, FRLM 36806, 61 mm SL, 愛知県

# ゴンベ亜目（新称） Suborder Cirrhitioidei

## ゴンベ科 Family Cirrhitidae Macleay 1841

### オキゴンベ属 Genus *Cirrhitichthys* Bleeker 1857

#### ミナミゴンベ *Cirrhitichthys aprinus* (Cuvier 1829)

アフリカ東岸からモーリシャスに西インド洋、インドネシアからパプアニューギニア、日本、オーストラリアに至る西太平洋。日本では琉球列島から千葉県に分布する。三重県では志摩市や南伊勢町の定置網で採集された。背鰭X, 12, 眼隔域は無鱗, 背鰭に斑紋がある, 尾鰭に斑紋がない。  
(木村清志)



ミナミゴンベ *Cirrhitichthys aprinus*, FRLM 55529, 24 mm SL, 志摩市志摩町御座

#### オキゴンベ *Cirrhitichthys aureus* (Temminck & Schlegel 1843)

バリ島、フィリピン、中国南シナ海・東シナ海沿岸、台湾、韓国、日本。日本では鹿児島県から、神奈川県・新潟県に分布する。三重県では熊野灘の定置網や釣り、カゴ網などで採集された。背鰭X, 12, 眼隔域は無鱗, 生鮮時体は橙黄色で明瞭な斑点などはない。  
(木村清志)



オキゴンベ *Cirrhitichthys aureus*  
上 FRLM 41138, 92 mm SL, 尾鷲市  
下 FRLM 28249, 57 mm SL, 志摩市志摩町越賀



#### ヒメゴンベ *Cirrhitichthys oxycephalus* (Bleeker 1855)

紅海、アフリカ東岸からハワイ諸島、日本、トンガに至るインド太平洋、バハカルフォルニアからエクアドル、ガラパゴス諸島を含む東太平洋。日本では琉球列島から神奈川県に分布する。三重県では熊野市や尾鷲市で採集された。背鰭X, 11-12, 眼隔域は無鱗, 体側面, 背鰭, 尾鰭に斑紋がある。  
(木村清志)

ヒメゴンベ *Cirrhitichthys oxycephalus*  
FRLM 61682, 60 mm SL, 熊野市二木島町



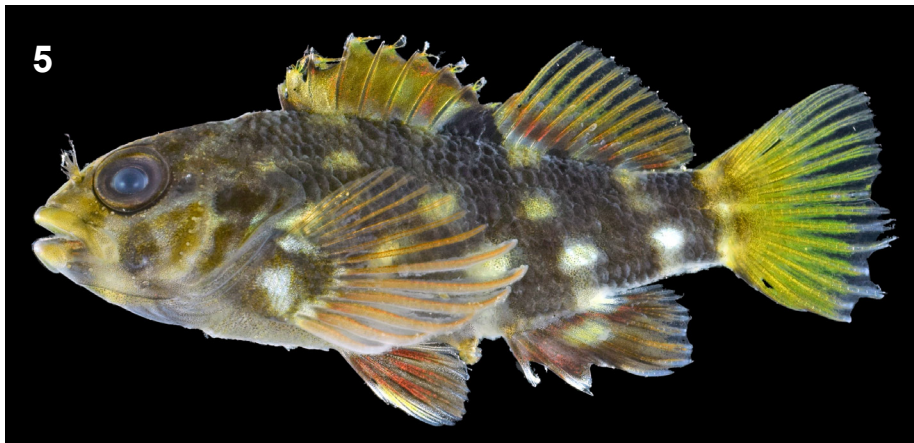


## イソゴンベ属 Genus *Cirrhitus* Lacepède 1803

### イソゴンベ

*Cirrhitus pinnulatus pinnulatus*  
(Forster 1801)

インドー太平洋, 日本では伊豆半島, 和歌山県串本, 日向灘, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する. 三重県では志摩市片田から採集された. 本種は眼隔域に鱗があること, 側線鱗数が 39-44 であること, 吻が円いことで同科他種と区別できる. (笹木大地)



イソゴンベ *Cirrhitus pinnulatus pinnulatus*, FRLM 64550, 26 mm SL, 志摩市志摩町片田

## ウイゴンベ属 Genus *Cyprinocirrhites* Tanaka 1917

### ウイゴンベ

*Cyprinocirrhites polyactis*  
(Bleeker 1874)

アフリカ南岸・東岸から仏領ポリネシア, 日本, ニュージーランド, トンガに至るインドー太平洋. 日本では沖縄県から千葉県に分布する. 三重県では熊野灘の定置網や釣りで採集された. 背鰭 X, 16-17, 尾鰭は深く二叉する. (木村清志)

ウイゴンベ *Cyprinocirrhites polyactis*

上 FRLM 63335, 65 mm SL

尾鷲市九鬼町

下 FRLM 63048, 35 mm SL, 尾鷲市



## タカノハダイ科 Family Latridae Gill 1862

## タカノハダイ属 Genus *Goniistius* Gill 1862

### ユウダチタカノハ

*Goniistius quadricornis*  
(Günther 1860)

韓国, 台湾, 中国, 日本に分布し, 日本では青森県以南に分布する. 三重県では熊野灘沿岸から記録がある. 他のタカノハダイ科の種とは尾鰭の上葉が白く下葉が黒いこと, 生時口唇が赤くないこと, 眼を通る黒褐色斜帯が胸鰭基部に達しないことで区別できる. (武内 俊)

ユウダチタカノハ *Goniistius quadricornis*

FRLM 37552, 215 mm SL

志摩市大王町波切



**ミギマキ**  
***Goniistius zebra***  
**(Döderlein 1883)**

北西太平洋に分布し、日本では太平洋側は千葉県外房および三浦半島から九州南岸、日本海側は新潟県から山口県、種子島から奄美大島、伊豆諸島、小笠原諸島、豆南諸島に分布する。三重県では熊野灘沿岸から記録がある。他のタカノハダイ科の種とは尾鰭の上葉が白く下葉が黒いこと、生時口唇が赤いこと、眼を通る黒色斜帯が胸鰭基部に達することで区別できる。(武内 俊)

**タカノハダイ**  
***Goniistius zonatus***  
**(Cuvier 1830)**

ベトナム北部から中国南部と台湾、北は韓国と日本まで分布し、日本では津軽海峡から沖縄島まで分布するが、伊豆諸島、小笠原諸島、南西諸島では稀。三重県では熊野灘沿岸で普通にみられる。他のタカノハダイ科の種とは尾鰭に白色の小斑点が散在することで区別できる。(武内 俊)



ミギマキ *Goniistius zebra*, FRLM 56678, 239 mm SL, 志摩市志摩町御座沖



タカノハダイ *Goniistius zonatus*, FRLM 51935, 164 mm SL, 英虞湾内座賀島

**ベラ目 Order Labriformes**

**ベラ亜目 Suborder Labroidei**

**ベラ科 Family Labridae Cuvier 1816**

**タキベラ属 Genus *Bodianus* Bloch 1790**

**アカボウ**  
***Bodianus cylindriatus***  
**(Tanaka 1930)**

西・中央太平洋、日本では長崎県野母崎南西沖、東シナ海、神奈川県城ヶ島西方沖、和歌山県周参見沖、土佐湾から記録されている。三重県では尾鷲市から標本が得られている。本種は尾鰭基部に赤色斑があること、背鰭棘数は通常12であること、臀鰭軟条数は11-12であることが特徴。(笹木大地)



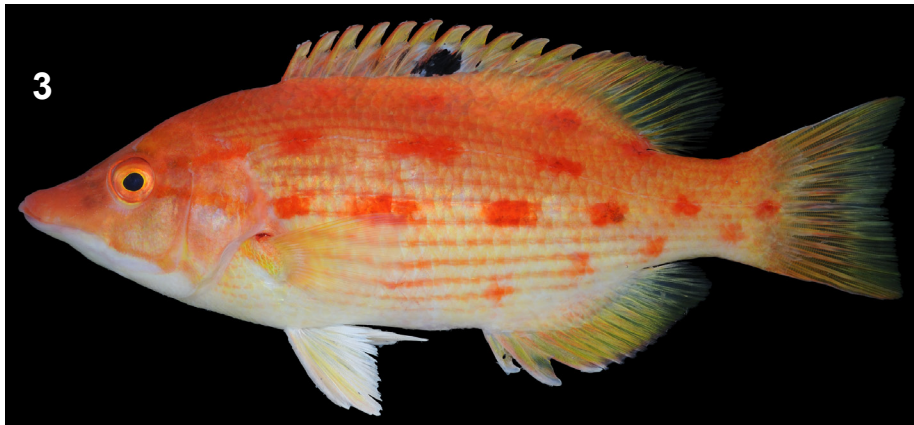
アカボウ *Bodianus cylindriatus*, 尾鷲市 (岩田昭人氏撮影)



## キツネダイ

***Bodianus oxycephalus***  
(Bleeker 1862)

台湾から韓国, 日本の東アジア, 日本では富山湾から長崎県の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島から沖縄島に分布する。本種はアカホシキツネベラ *Bodianus rubrisos* Gomon 2006 に似るが, 体側の赤色斑はつながらないこと, 背鰭基部に3列以上の鱗列があることで区別できる。(笹木大地)



キツネダイ *Bodianus oxycephalus*, FRLM 63623, 263 mm SL, 志摩市志摩町和具沖

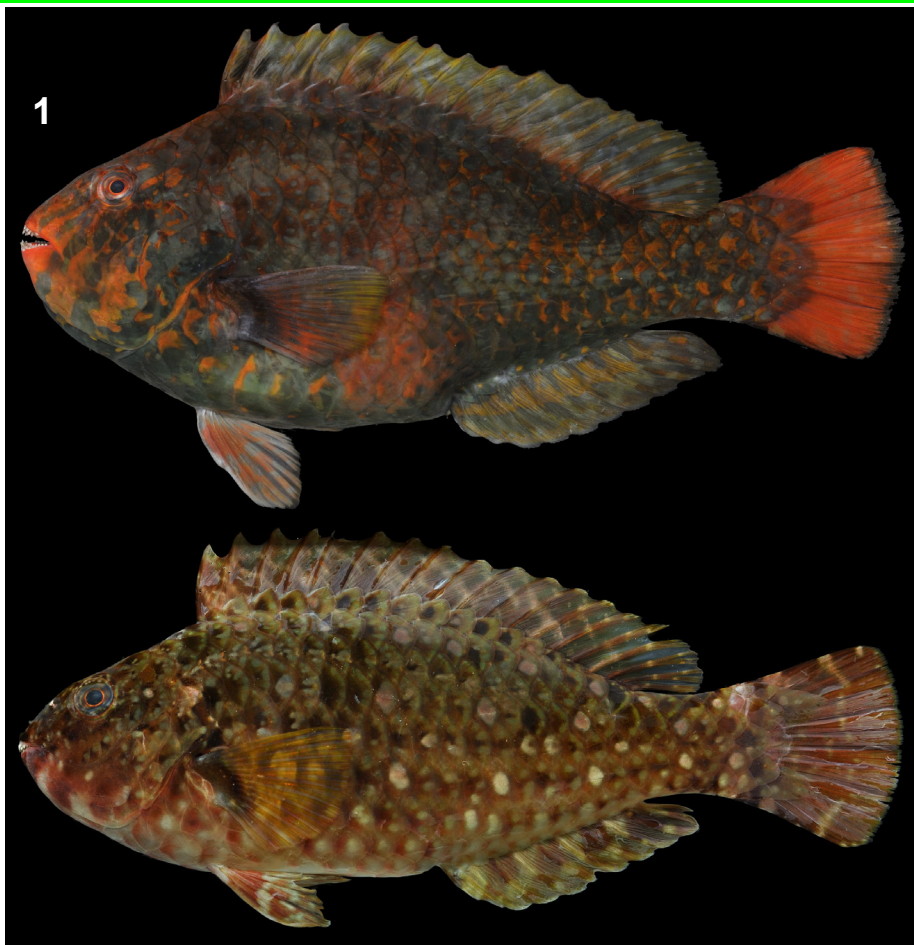
ブダイ属 Genus *Calotomus* Gilbert 1890

## ブダイ

***Calotomus japonicus***  
(Valenciennes 1840)

温帯種で, 台湾, 朝鮮半島, 国内では千葉県および兵庫県から沖縄島にかけての太平洋・日本海・東シナ海沿岸, 瀬戸内海および小笠原諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布し, 刺し網などで漁獲される。本属は頬部の鱗列が1列であること, 両顎歯の癒合が不完全で歯が覆瓦状に並ぶことで特徴付けられる。また本科魚類の多くの種では性的二型が知られるが, 本種はオス, メスともに尾鰭が円形かほぼ截形であること, 尾鰭の地色が赤色であることで日本産同属のタイワンブダイ *Calotomus carolinus* (Valenciennes 1840) やチビブダイ *Calotomus spinidens* (Quoy & Gaimard 1824) と区別できる。(鈴木 啓)

ブダイ *Calotomus japonicus*  
上 ♂, FRLM 45694, 242 mm SL  
志摩市大王町波切  
下 ♀, FRLM 43630, 164 mm SL  
志摩市志摩町御座

モチノウオ属 Genus *Cheilinus* Lacepède 1801メガネモチノウオ  
***Cheilinus undulatus***  
Rüppell 1835

インドー太平洋, 日本では三重県(幼魚のみ), 和歌山県および大隅諸島以南に分布する。本種の成魚は眼上部が膨出することで同属他種と区別できる。また, 幼魚は体の地色は淡色で3本の不明瞭な白色横帯があること, 吻から眼をとおり鰓蓋まで達する暗色帯があることなどが特徴。環境省準絶滅危惧種。(笹木大地)



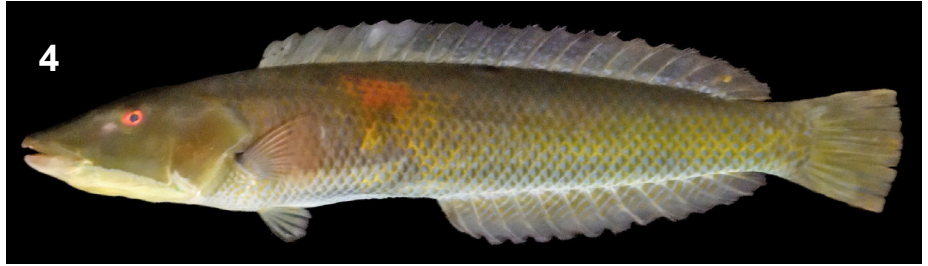
メガネモチノウオ *Cheilinus undulatus*, FRLM 62988, 31 mm SL, 三重県



## カマスベラ属 Genus *Cheilio* Lacepède 1802

### カマスベラ *Cheilio inermis* (Forsskål 1775)

インドー太平洋, 日本では富山湾, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する. 本種は体型が細長いこと, 側線は体側前部から後部へなだらかに下降することが特徴.  
(笹木大地)



カマスベラ *Cheilio inermis*, FRLM 60778, 372 mm SL, 志摩市志摩町越賀沖

## イラ属 Genus *Choerodon* Bleeker 1847

### イラ *Choerodon azurio* (Jordan & Snyder 1901)

ベトナム, フィリピンから韓国, 日本までの西太平洋, 日本では新潟県および千葉県館山湾から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 大隅諸島, 奄美大島に分布する. 三重県では熊野灘で普通にみられる. 本種は体側前半部に1黒色斜帯があることで同属他種と区別できる.  
(笹木大地)



イラ *Choerodon azurio*, FRLM 39976, 168 mm SL, 志摩市志摩町御座

## イトヒキベラ属 Genus *Cirrhilabrus* Temminck & Schlegel 1845

### イトヒキベラ *Cirrhilabrus temminckii* Bleeker 1853

東インドー西太平洋, 山口県日本海側, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 大隅諸島, 沖縄諸島以南に分布する. 三重県では熊野灘に分布する. 本種は腹鰭が著しく伸長すること, 背鰭前方鱗数が5であること, 胸鰭基部に顕著な黒色斑がないことが特徴.  
(笹木大地)

イトヒキベラ *Cirrhilabrus temminckii*  
FRLM 35049, 87 mm SL, 尾鷲市



## カンムリベラ属 Genus *Coris* Lacepède 1801

### ムスメベラ *Coris musume* (Jordan & Snyder 1904)

台湾から日本の西太平洋, 日本では相模湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 男女群島, 大隅諸島以南に分布する. 三重県では志摩市越賀沖および御座沖から標本が得られている. 本種は体の上半分が黒いか, 幅広い黒色縦帯があることが特徴.  
(笹木大地)



ムスメベラ *Coris musume*, FRLM 65309, 172 mm SL, 志摩市志摩町御座沖



## カザリアカボウ属 Genus *Decodon* Günther 1861

### カザリアカボウ *Decodon pacificus* (Kamohara 1952)

北オーストラリア, ミャンマー, 台湾, 日本の東インド洋から西太平洋に分布する。日本では和歌山県宇久井, 土佐湾から記録されている。三重県では志摩市御座沖から採集された。本種は尾鰭基底に赤色斑がないこと, 背鰭棘数は11であること, 臀鰭軟条数は10であることが特徴。  
(笹木大地)

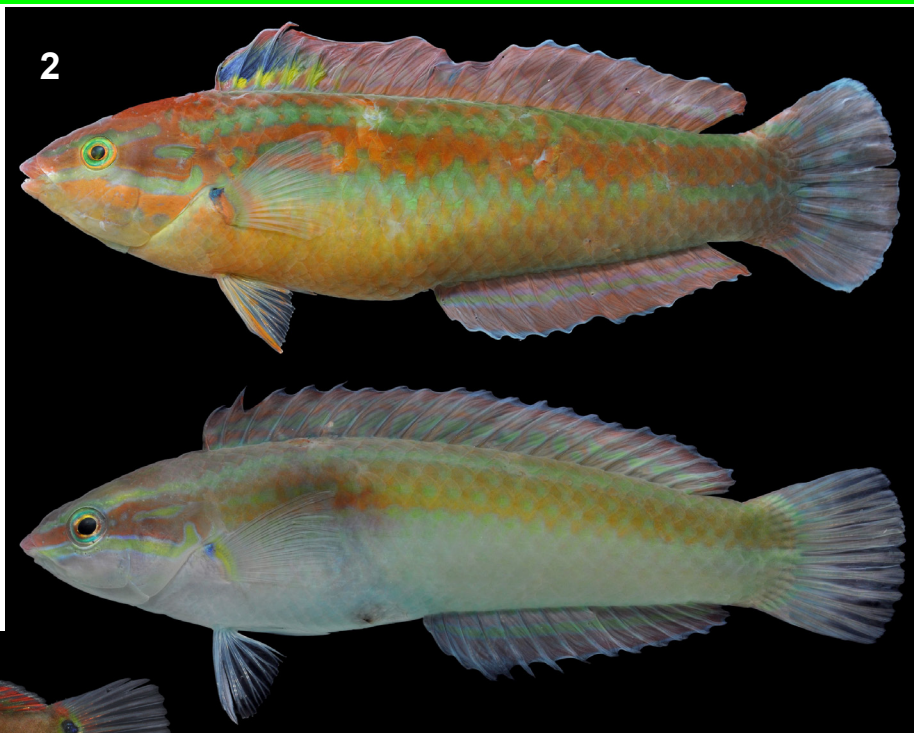


カザリアカボウ *Decodon pacificus*, FRLM 23915, 217 mm SL, 志摩市志摩町御座沖

## ホンベラ属 Genus *Halichoeres* Rüppell 1835

### ホンベラ *Halichoeres tenuispinis* (Günther 1862)

海南島, フィリピンから日本, 韓国までの西太平洋, 日本では函館市白尻, 青森県陸奥西湾から九州北西岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆諸島, 種子島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は雌雄で体色が異なり, 雄の地色は赤っぽく, 雌は緑色である。また, 雄では背鰭前部の暗色斑が第5-6棘まで広がること, 頭部は薄赤色で2本の薄緑色縦線があることが特徴であり, 雌では頭部に赤色縦線がある。  
(笹木大地)



ホンベラ *Halichoeres tenuispinis*

上 成魚, ♂, FRLM 40908, 116 mm SL, 英虞湾内座賀島

下 成魚, ♀, FRLM 45891, 69 mm SL, 英虞湾内座賀島

左 幼魚, FRLM 45993, 33 mm SL, 熊野市二木島町

## テンス属 Genus *Iniistius* Gill 1862

### テンス *Iniistius dea* (Temminck & Schlegel 1845)

オーストラリアクイーンズランド州から日本, 韓国までの西太平洋, 日本では新潟県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 大阪湾, 伊豆・小笠原諸島, 口永良部島, 奄美大島, 沖縄島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体色がピンク色であること, 口角から前鰓蓋後部に至る1本の溝があることで同属他種と区別できる。  
(笹木大地)



テンス *Iniistius dea*, FRLM 36550, 239 mm SL, 志摩市志摩町和具



**ホシテンス**  
*Iniistius pavo*  
 (Valenciennes 1840)

インドー太平洋, 日本では山口県日本海側, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では大紀町錦から標本が得られている。本種は背鰭第2棘と第3棘は鰭膜でつながらないこと, 成魚で体側に3-4本の暗色横帯があること, 背鰭棘条中央部下方に1黒色小斑があることで同属他種と区別できる。  
 (笹木大地)

ホシテンス *Iniistius pavo*  
 FRLM 60764, 165 mm SL, 大紀町錦



**バラヒラベラ**  
*Iniistius verrens*  
 (Jordan & Evermann 1902)

日本, 韓国, 台湾, 中国の東アジア, 日本では相模湾西部, 伊豆半島大瀬崎, 土佐湾から記録されている。三重県では志摩市で釣獲された個体の写真記録がある。本種は腹鰭が著しく長く, 倒したときに肛門をはるかに超えることで同属他種と区別できる。写真の個体は鰓蓋上部後方に赤色斑があることから雄であると考えられる。雌では胸鰭基底付近の青い斑紋が良く目立つ。  
 (笹木大地)



バラヒラベラ *Iniistius verrens*, 志摩市志摩町御座沖 (津本欣吾氏撮影)

**ソメワケベラ属 Genus Labroides Bleeker 1851**

**ホンソメワケベラ**  
*Labroides dimidiatus*  
 (Valenciennes 1839)

インドー太平洋, 日本では新潟県佐渡から九州北岸・西岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 沖ノ島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は尾柄部の黒色縦帯の幅は尾柄高の約2/3であること, 側線有孔鱗数は52-53であること



ホンソメワケベラ *Labroides dimidiatus*, FRLM 45997, 47 mm SL, 尾鷲市古江町

とから同属他種と区別できる。

(笹木大地)

**ミゾレブダイ属 Genus Leptoscarus Swainson 1839**

**ミゾレブダイ**  
*Leptoscarus vaigiensis*  
 (Quoy & Gaimard 1824)

アフリカ東岸からピトケアン諸島にかけてのインドー西太平洋。国内では千葉県以南の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 南西諸島および小笠原諸島に分布する。三重県では御浜町から1標本が得られている。ミゾレブダイ属は本種のみで構成される。本種は頬部の鱗列が1列であること, 上顎歯が癒合し歯板を形成することで, 同科他種と区別できる。(鈴木 啓)



ミゾレブダイ *Leptoscarus vaigiensis*, FRLM 63054, 172 mm SL, 御浜町阿田和



## テンスモドキ属 Genus *Novaculops* Schultz 1960

### テンスモドキ *Novaculops sciistius* (Jordan & Thompson 1914)

日本および台湾に分布する。国内では相模湾から九州南岸、瀬戸内海、伊豆・小笠原諸島、大隅諸島以南に分布する。三重県では志摩市御座沖から2標本が得られている。本種はホカゲテンスモドキ *Novaculops compressus* Fukui 2020 に似るが、側線上方横列鱗数が通常3 (2.5-4) (ホカゲテンスモドキは4) であること、側線下方横列鱗数が9.5-10 (9) であること、鰓耙数が18-19 (16) であること、眼が小さく体長の6.1-8.2% (10.0-10.1%) であること、体高が体



テンスモドキ *Novaculops sciistius*, FRLM 65319, 147 mm SL, 志摩市志摩町御座沖  
長の31.9-38.4% (30.9%), 臀鰭基底 であることなどから区別できる  
長が体長の38.9-44.0% (36.2-37.6%) (Fukui, 2020). (笹木大地)

## ホホスジモチノウオ属 Genus *Oxycheilinus* Gill 1862

### タコベラ *Oxycheilinus bimaculatus* (Valenciennes 1840)

インド-西太平洋, 日本では山口県日本海側, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南に分布する。三重県では志摩市浜島および熊野市二木島湾から標本が得られている。本種は尾鰭中央部鰭条が伸長すること、胸鰭先端付近の体側に1黒色小斑があることが特徴。(笹木大地)



タコベラ *Oxycheilinus bimaculatus*, FRLM 45826, 82 mm SL, 熊野市二木島町

## キュウセン属 Genus *Parajulis* Bleeker 1879

### キュウセン *Parajulis poecileptera* (Temminck & Schlegel 1845)

中国, 台湾, 日本, 韓国の東アジア, 日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆諸島, 口永良部島, 南大東島に分布する。雄の体色は緑色で胸鰭先端付近に大きな黒色斑があること、背鰭および尾鰭は淡赤色で小斑が多数あることが特徴。雌の体色は淡黄色で体側中央および背縁に黒色縦帯があることが特徴。(笹木大地)

キュウセン *Parajulis poecileptera*  
英虞湾内座賀島  
上 ♂, FRLM 40907, 186 mm SL  
下 ♀, FRLM 41013, 152 mm SL





# ササノハベラ属 Genus *Pseudolabrus* Bleeker 1862

## アカササノハベラ *Pseudolabrus eoethinus* (Richardson 1846)

中国, 台湾, 日本, 韓国の東アジア, 国内では福井県から熊本県天草の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島, 沖縄島に分布する。本種は頭部最下部の暗色縦線は胸鰭基部にほぼ達すること, 成魚の体側に明瞭な白色斑がないことで, 近縁のホシササノハベラ *Pseudolabrus sieboldi* Mabuchi & Nakabo 1997 と区別できる。

(笹木大地)

アカササノハベラ

*Pseudolabrus eoethinus*

上 ♂, FRLM 54654, 199 mm SL

志摩市志摩町和具沖

下 ♀, FRLM 41434, 74 mm SL

英虞湾内座賀島



## ホシササノハベラ *Pseudolabrus sieboldi* Mabuchi & Nakabo 1997

台湾, 日本, 韓国の東アジア, 日本では津軽海峡から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 八丈島, 種子島, 屋久島に分布する。本種は頭部最下部の暗色縦線は胸鰭基部に達しないこと, 成魚の体側背部に白色斑があることでアカササノハベラ *Pseudolabrus eoethinus* (Richardson 1846) と区別できる。

(笹木大地)

ホシササノハベラ *Pseudolabrus sieboldi*

上 ♂, FRLM 51925, 155 mm SL

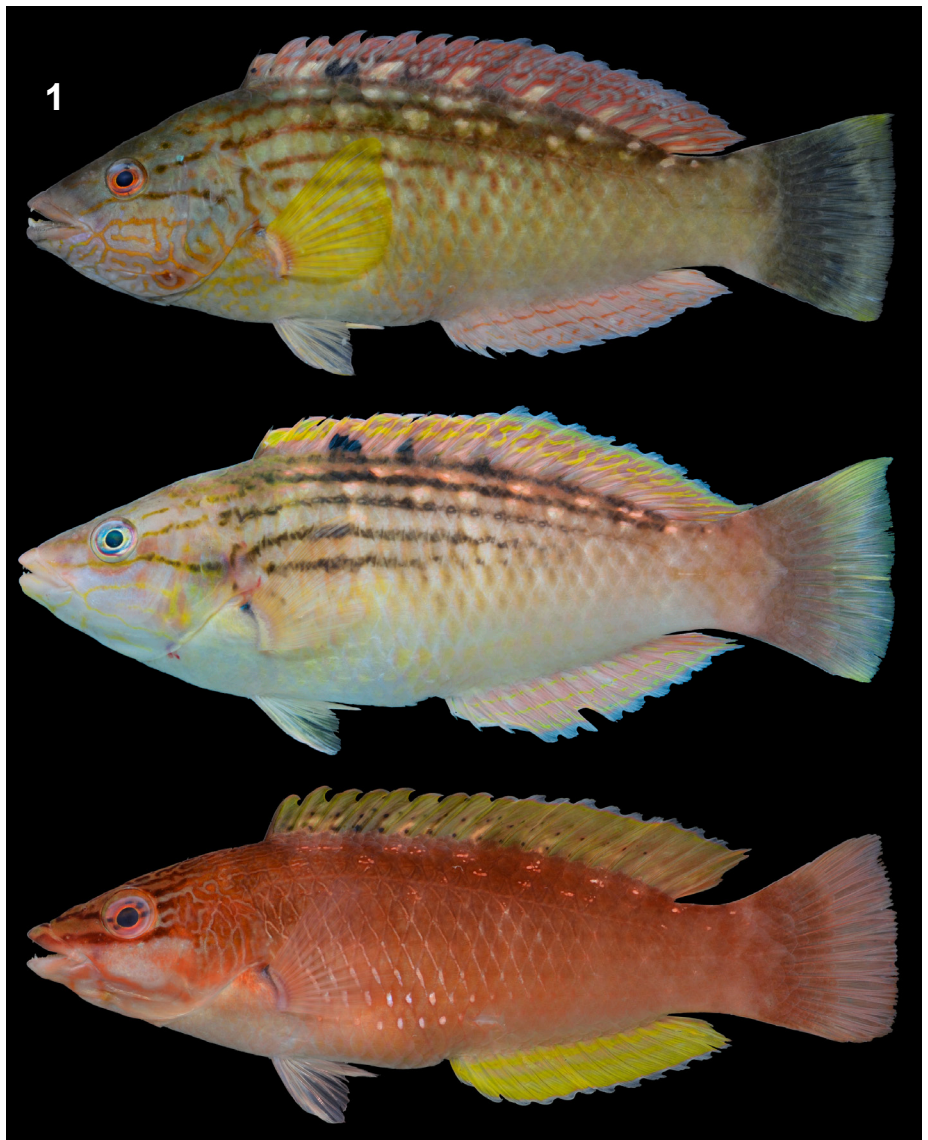
英虞湾内座賀島

中 ♂, FRLM 40882, 135 mm SL

志摩市志摩町越賀沖

下 ♀, FRLM 51924, 94 mm SL

英虞湾内座賀島





## オハグロベラ属 Genus *Pteragogus* Peters 1855

### オハグロベラ *Pteragogus aurigarius* (Richardson 1845)

中国，台湾，日本，韓国の東アジア，日本では青森県から鹿児島県本土の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，伊豆・小笠原諸島，屋久島に分布する．本種は腹部に黒色斑をもつことで日本産同属3種と区別できる（飯野・本村，2021；2022；Iino and Motomura, 2022）．

（笹木大地）

オハグロベラ *Pteragogus aurigarius*  
上 ♂，FRLM 45216, 114 mm SL  
志摩市志摩町御座  
下 ♀，FRLM 41712, 89 mm SL  
志摩市志摩町片田



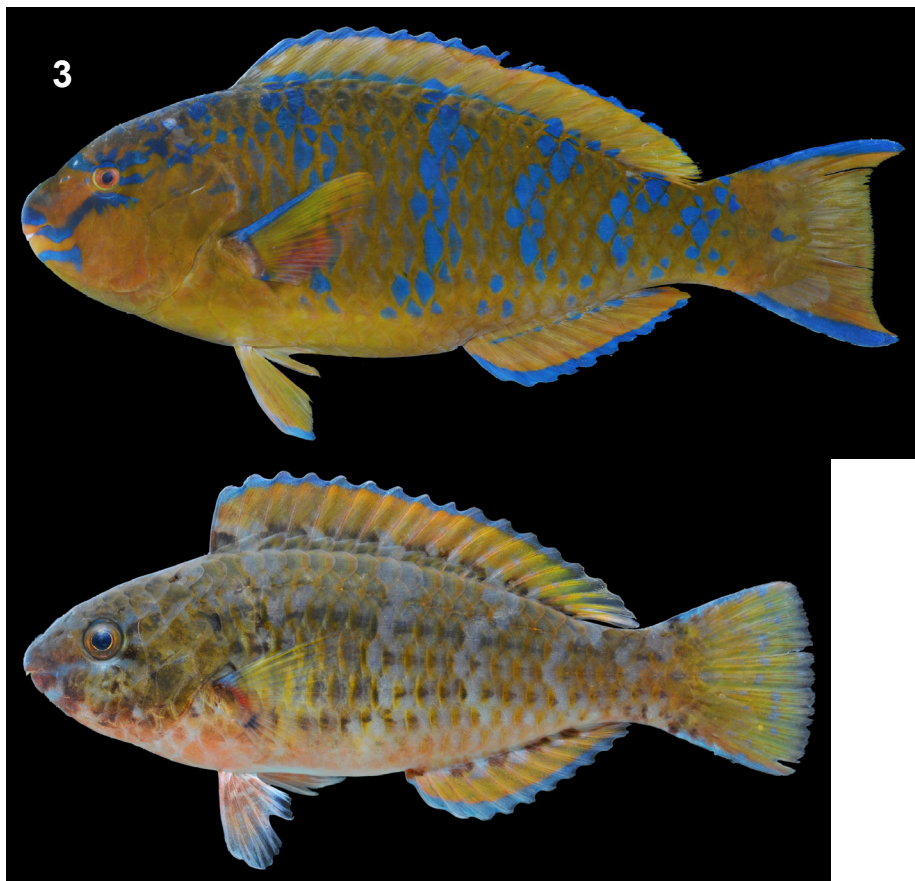
## アオブダイ属 Genus *Scarus* Forsskal 1775

### ヒブダイ *Scarus ghobban* Fabricius 1775

アフリカ東岸からアメリカ大陸西岸にかけてのインドー太平洋に広く分布．国内では神奈川県以南の太平洋沿岸，瀬戸内海および南西諸島に分布する．三重県では熊野灘に分布する．本種のオスは尾柄部の各鱗に大きな青色斑があること，メスは尾鰭両葉の外縁部に青色縦帯があることでそれぞれ特徴付けられる．

（鈴木 啓）

ヒブダイ *Scarus ghobban*  
上 成魚，♀，FRLM 44083, 362 mm SL  
志摩市志摩町和具沖  
下 幼魚，FRLM 37244, 85 mm SL  
英虞湾内座賀島





**アオブダイ**  
**Scarus ovifrons**  
**Temminck & Schlegel 1846**

温帯種で、台湾および日本に分布。国内では東京湾以南の太平洋沿岸、京都府以南（奥ほか、2023）の日本海・東シナ海沿岸、トカラ列島および奄美大島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。大型個体のオスは頭部が著しく突出することで、ナンヨウブダイ *Chlorurus microrhinos* (Bleeker 1854) や オビシメ *Scarus obishime* Randall & Earle 1993 と類似する。しかし本種は背鰭前方鱗数が6であり、オスの体側には白色か黄色の横帯がない。メスは体色が黒緑色で、各鰭の外縁が鮮やかな青色であることで特徴付けられる。

(鈴木 啓)

アオブダイ *Scarus ovifrons*  
 上 ♂, FRLM 15058, 430 mm SL  
 志摩市志摩町和具沖  
 下 ♀, FRLM 57254, 321 mm SL  
 御浜町阿田和



**コブダイ属 Genus Semicossyphus Günther 1861**

**コブダイ**  
**Semicossyphus reticulatus**  
**(Valenciennes 1839)**

香港、日本、韓国の東アジア、日本では北海道から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸、瀬戸内海に分布する。本種の雄は前頭部が膨出することが特徴。雌は雄に比べ前頭部の膨出は弱く、タキベラ属のような見た目である。幼魚は背鰭軟条部、臀鰭軟条部、尾鰭に大きな黒斑をもち、体側中央に1白色縦帯をもつことが特徴。

(笹木大地)

コブダイ *Semicossyphus reticulatus*  
 上 ♂, FRLM 50643, 425 mm SL  
 志摩市志摩町和具  
 中 ♀, FRLM 50642, 274 mm SL  
 志摩市志摩町和具  
 下 幼魚, FRLM 51076, 40 mm SL  
 英虞湾内座賀島





## カミナリベラ属 Genus *Stethojulis* Günther 1861

### カミナリベラ

*Stethojulis interrupta terina*  
Jordan & Snyder 1902

中国, 台湾, 日本, 韓国の東アジア,  
日本では新潟県および宮城県から九  
州南岸の日本海・東シナ海・太平洋  
沿岸, 瀬戸内海, 伊豆・小笠原諸島,  
大隅諸島以南に分布する. 本種の雄  
は頬に1本の紫色の縦線があること,  
体側後半に1本の縦線があることが  
特徴. 雌は眼の後方から体側前半に  
1本の黒色縦線があること, 体側下  
半分に斑点列があることが特徴.  
(笹木大地)

カミナリベラ *Stethojulis interrupta terina*  
上 成魚, ♂, FRLM 6774, 90 mm SL  
志摩市志摩町御座  
中 成魚 ♀, FRLM 56642, 74 mm SL  
英虞湾内座賀島  
下 幼魚, FRLM 55362, 26 mm SL  
英虞湾内座賀島



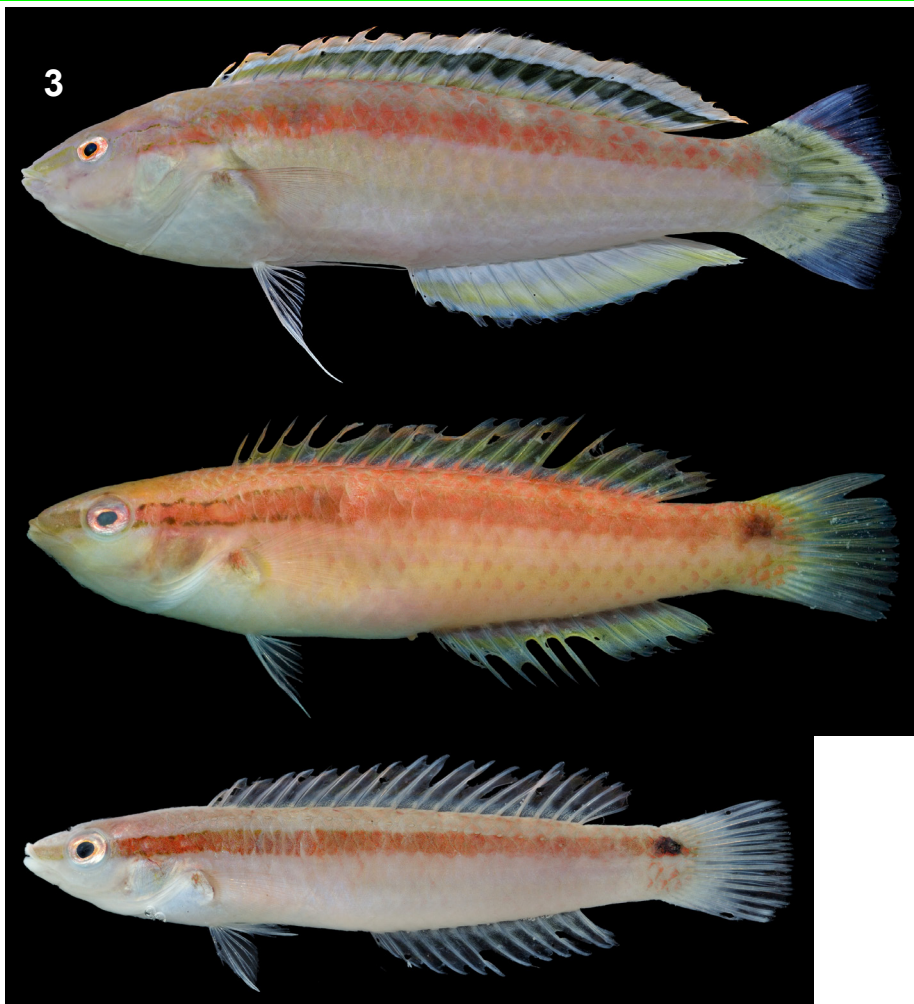
## イトベラ属 Genus *Suezichthys* Smith 1958

### イトベラ

*Suezichthys gracilis*  
(Steindachner & Döderlein 1887)

インドー西太平洋, 日本では青森  
県蓬田, 富山湾から九州北西岸の日  
本海・東シナ海沿岸, 千葉県館山湾  
から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内  
海, 伊豆・小笠原諸島, 屋久島, 奄  
美大島, 沖縄島に分布する. 本種は  
背鰭・臀鰭基底に鱗列がないこと,  
尾鰭基底部にのみ1暗色斑があるこ  
とから同属他種と区別できる.  
(笹木大地)

イトベラ *Suezichthys gracilis*  
上 成魚, ♂, FRLM 40903, 132 mm SL  
志摩市志摩町御座沖  
中 成魚 ♀, FRLM 34522, 66 mm SL  
志摩市阿児町安乗沖  
下 幼魚, FRLM 41763, 53 mm SL  
志摩市志摩町御座

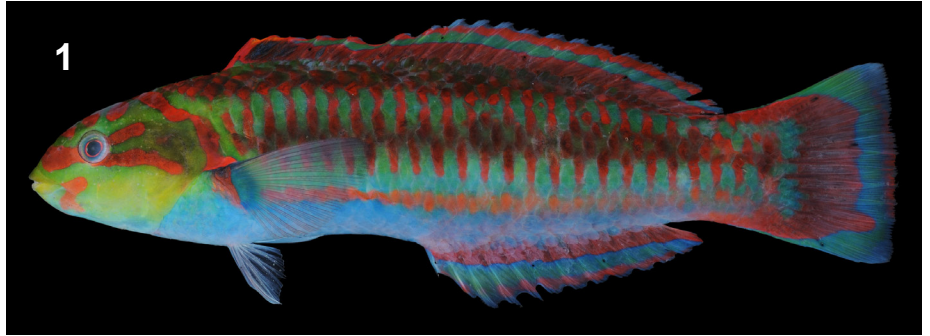


## ニシキベラ属 Genus *Thalassoma* Swainson 1839

### ニシキベラ

*Thalassoma cupido*  
(Temminck & Schlegel 1845)

台湾, 日本, 韓国の東アジア, 日本では青森県今別, 新潟県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸, 茨城県鹿島灘から九州南岸の太平洋沿岸, 瀬戸内海, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する。体色は緑色で体側に赤い横帯が並び, 腹部は青色であることが特徴。  
(笹木大地)

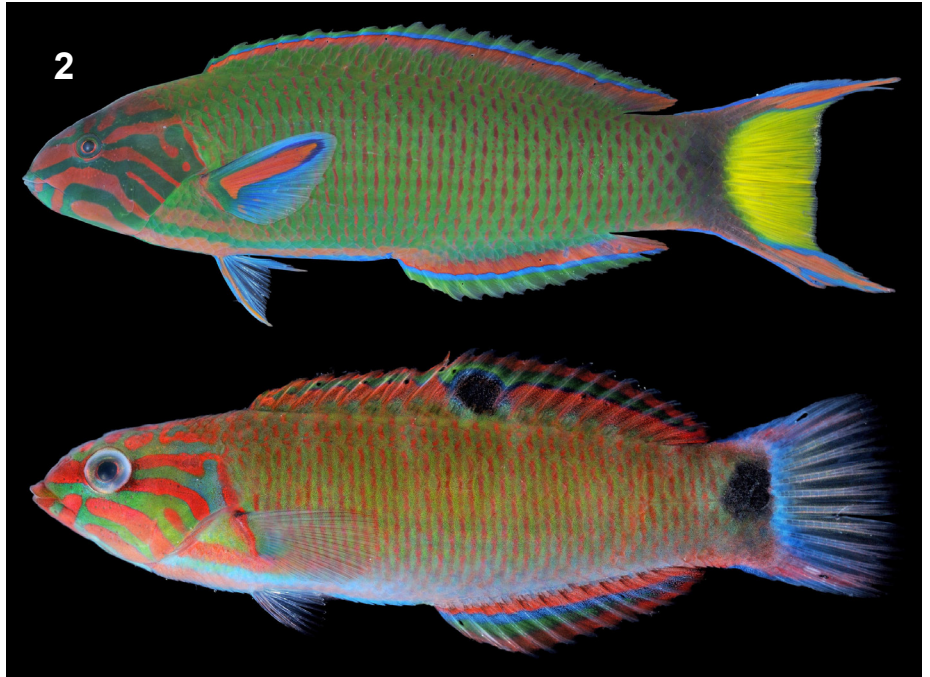


ニシキベラ *Thalassoma cupido*, FRLM 63052, 92 mm SL, 熊野市二木島町

### オトメベラ

*Thalassoma lunare*  
(Linnaeus 1758)

インドー太平洋, 日本では山口県日本海側, 千葉県館山湾から鹿児島県本土の太平洋沿岸, 伊豆・小笠原諸島, 大隅諸島以南, 南大東島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種はヤマブキベラ *Thalassoma lutescens* (Lay & Bennett 1839) に似るが, 体の地色が暗緑色であることから容易に区別できる。  
(笹木大地)



オトメベラ *Thalassoma lunare*  
上 成魚, FRLM 61733, 134 mm SL  
尾鷲市九鬼町  
下 幼魚, FRLM 62955, 41 mm SL  
熊野市二木島町

## ミシマオコゼ亜目 Suborder Uranoscopidae

## イカナゴ科 Family Ammodytidae Bonaparte 1835

## イカナゴ属 Genus *Ammodytes* Linnaeus 1758

### イカナゴ

*Ammodytes japonicus*  
Duncker & Mohr 1939

日本, 朝鮮半島全沿岸, 渤海・黄海, 東シナ海に分布する。日本では北海道オホーツク海, 北海道から九州北岸の日本海, 陸奥湾, 宮城県から鹿島灘の太平洋沿岸, 東京湾, 伊勢湾周辺, 瀬戸内海, 日向灘, 薩摩半島に分布する。三重県では伊勢湾から伊勢湾口周辺に分布し, 稀に熊野灘でもみられる。しかし近年は資源量が著しく減少しており, 2016年以降本種を対象とした漁業は行われていない (山本ほか, 2023)。本種はオオイカナゴ *Ammodytes heian* Orr, Wildes & Kai 2015 およびキタイ



イカナゴ *Ammodytes japonicus*  
上 FRLM 38861, 116 mm SL, 志摩市志摩町御座  
下 FRLM 41149, 78 mm SL, 志摩市志摩町越賀

カナゴ *Ammodytes hexapterus* Pallas 1814 によく似ており, 脊椎骨数, 側線有孔鱗数, 体側の皮褶の数等によ

りある程度区別できるが, 3種を形態的に明確に区別するのは困難である (Orr et al., 2015)。 (笹木大地)



## タイワンイカナゴ属 Genus *Bleekeria* Günther 1862

### タイワンイカナゴ *Bleekeria mitsukurii* Jordan & Evermann 1902

インドー西太平洋, 日本では兵庫県浜坂（日本海）, 相模湾から三重県, 徳島県阿南沿岸, 土佐湾, 日向灘の太平洋沿岸に分布する。三重県では伊勢湾口から熊野灘に分布する。本種は体側腹縁に皮褶がないこと, 腹鰭があることで同科他種と区別できる。（笹木大地）



タイワンイカナゴ *Bleekeria mitsukurii*

上 FRLM 33291, 133 mm SL, 尾鷲市

下 FRLM 36257, 125 mm SL, 志摩市阿児町安乗沖

## ミシマオコゼ科 Family *Uranoscopidae* Bonaparte 1831

## ミシマオコゼ属 Genus *Uranoscopus* Linnaeus 1758

### メガネウオ *Uranoscopus bicinctus* Temminck & Schlegel 1843

東インドから西太平洋, 日本では富山湾, 山口県, 長崎県の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県外房から九州南岸の太平洋沿岸, 大隅諸島以南に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体側に小淡色点や淡色虫くい状斑が散在しないこと, 体に鞍状斑があることで同属他種と区別できる。（笹木大地）



メガネウオ *Uranoscopus bicinctus*, FRLM 35887, 170 mm SL, 尾鷲市

### ミシマオコゼ *Uranoscopus japonicus* Houttuyn 1782

東インドから西太平洋, 日本では北海道から九州北岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸, 瀬戸内海, 東シナ海, 小笠原諸島に分布する。三重県では熊野灘に分布する。本種は体に淡色斑が多数みられること, 前鰓蓋骨下縁の棘は3本であることで同属他種と区別できる。（笹木大地）



ミシマオコゼ *Uranoscopus japonicus*

上 FRLM 34146, 178 mm SL, 尾鷲市

下 FRLM 37519, 137 mm SL, 熊野灘

### キビレミシマ *Uranoscopus oligolepis* Bleeker 1879

中国, 台湾, 日本, 韓国の東アジア, 日本では青森県から九州西岸の日本海・東シナ海沿岸, 千葉県銚子から九州南岸の太平洋沿岸, 東シナ海に分布する。三重県では伊勢湾口から熊野灘に分布する。本種は胸鰭および尾鰭が黄色いこと, 両眼間隔のくぼみは眼の後縁に達することで同属他種と区別できる。（笹木大地）



キビレミシマ *Uranoscopus oligolepis*, FRLM 37811, 214 mm SL, 志摩市志摩町御座



## アオミシマ属 Genus *Xenocephalus* Kaup 1858

### アオミシマ *Xenocephalus elongatus* (Temminck & Schlegel 1843)

西太平洋，日本では北海道渡島半島から九州南岸の日本海・東シナ海・太平洋沿岸，瀬戸内海，東シナ海大陸棚域，鹿児島県枕崎市と大隅諸島黒島の間海域に分布する．三重県では熊野灘に分布し，津市白塚の伊勢湾からも稚魚が得られている．本種は背鰭が1基であること，胸鰭基底上方に皮弁がないことから同科他種と区別できる．（笹木大地）

アオミシマ *Xenocephalus elongatus*  
上 FRLM 27205, 131 mm SL, 熊野灘  
下 FRLM 52203, 32 mm SL  
英虞湾内座賀島



## トラギス科 Family Pinguipedidae Günther 1860

### キスジトラギス属 Genus *Kochichthys* Kamohara 1961

#### キスジトラギス *Kochichthys flavofasciatus* (Kamohara 1936)

相模湾から高知県までの太平洋沿岸および沖縄島から記録がある．国外では台湾から知られる．背鰭棘数が2本であること，上顎が下顎より突出することでトラギス科の他種から区別され，本種のみでキスジトラギス属を構成する．体側上半部の地色は青色で眼の後縁から尾鰭基底にかけて明るい黄色の縦帯がある．水深 90 m 以深の深場に生息する稀種．



キスジトラギス *Kochichthys flavofasciatus*, KPM-NI 79621, 128 mm SL, 神奈川県（前田達郎氏撮影）

三重県からは熊野灘で刺網によって（木・高村 1993）．（松尾 怜）  
混獲された標本が得られている（鈴

## トラギス属 Genus *Parapercis* Bleeker 1863

#### アカトラギス *Parapercis aurantiaca* Döderlein 1884

千葉県から高知県にかけての太平洋沿岸，国外では済州島，台湾および南シナ海に分布．背鰭棘数が5本であること，体側に橙色に縁どられた黄色横帯が7本並ぶことにより日本産トラギス属の他種から区別される．三重県では熊野灘の水深 100 m 前後の砂泥底に生息し，底曳網漁で漁獲される．（松尾 怜）

アカトラギス *Parapercis aurantiaca*  
上 FRLM 52305, 145 mm SL  
志摩市志摩町和具沖  
下 FRLM 64606, 124 mm SL  
御浜町沖





**ユウダチトラギス**  
***Parapercis decemfasciata***  
**(Franz 1910)**

神奈川県三浦半島以南の本州沿岸，日向灘。国外では台湾に分布。背鰭棘数が4本であること，体側に10本の褐色横帯が並ぶこと，尾鰭基底に顕著な斑紋をもたないことにより日本産同属他種から区別される。三重県では熊野灘の水深200 m前後の砂泥底に生息し，底曳網漁で漁獲される。（松尾 怜）



ユウダチトラギス *Parapercis decemfasciata*, FRLM 64637, 129 mm SL, 熊野灘

**オキトラギス**  
***Parapercis multifasciata***  
**Döderlein 1884**

茨城県から鹿児島県にかけての太平洋沿岸，新潟県以南の日本海に分布，国外では朝鮮半島南岸から台湾までの東シナ海に分布。体側に上半部が褐色，下半部が黄色の横帯が8本並ぶこと，尾鰭基底に暗色斑をもつこと，尾鰭に水色と黄色の横帯が交互に並ぶことにより日本産同属他種から区別される。三重県では熊野灘の水深100 m前後の砂泥底に生息し，底曳網漁で漁獲される。（松尾 怜）



オキトラギス *Parapercis multifasciata*  
 上 FRLM 41024, 109 mm SL  
 志摩市志摩町越賀沖  
 下 FRLM 44344, 102 mm SL  
 志摩市大王町船越沖

**マトウトラギス**  
***Parapercis ommatura***  
**Jordan & Snyder 1902**

東京湾から鹿児島県までの太平洋沿岸，島根県以南の日本海および瀬戸内海に分布，国外では台湾および南シナ海に分布。尾鰭基部の上方に眼状斑をもつこと，頬部に数本の暗色縦帯をもつこと，側線有孔鱗数が56-60であることから日本産同属他種から区別される。水深10 m前後の浅場の砂泥底に生息する。体長10 cm程度の小型種。（松尾 怜）



マトウトラギス *Parapercis ommatura*  
 上 FRLM 52949, 74 mm SL  
 英虞湾内座賀島  
 下 FRLM 53954, 80 mm SL, ベトナム

**トラギス**  
***Parapercis pulchella***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

千葉県から鹿児島県までの太平洋沿岸，新潟県以南の日本海および瀬戸内海に分布。国外では朝鮮半島南岸，台湾，香港，海南島およびスリランカに分布。体の地色は褐色で，体側に6本の赤褐色横帯をもつ。頭部に青色横帯が不規則に並ぶ。沿岸浅所の砂礫底や岩礁域で普通。（松尾 怜）



トラギス *Parapercis pulchella*, FRLM 49184, 102 mm SL, 熊野市二木島町



**クラカケトラギス**  
***Parapercis sexfasciata***  
**(Temminck & Schlegel 1843)**

茨城県から鹿児島県までの太平洋沿岸、青森県以南の日本海および瀬戸内海に分布。国外では朝鮮半島南岸、台湾およびジャワ島南部に分布。体側にV字型の黒色斑が5つ並ぶ。アマノガワクラカケトラギス *Parapercis lutevittata* Liao, Cheng & Shao 2011 と類似するが、胸鰭基底に沿って黒色点が生ずること（クラカケトラギスでは胸鰭基底付近に大きな黒色斑をもつ）、体側のV字型斑との間に黒色点が生ずること（vs. 黒色点はない）などにより区別され



クラカケトラギス *Parapercis sexfasciata*, FRLM 39938, 85 mm SL, 志摩市志摩町御座  
 な黒色斑をもつ）、体側のV字型斑との間に黒色点が生ずること（vs. 黒色点はない）などにより区別され  
 る（荻原, 2011）。沿岸浅所の砂泥底で普通。（松尾 怜）

**コウライトラギス**  
***Parapercis snyderi***  
**Jordan & Starks 1905**

千葉県から鹿児島県までの太平洋沿岸、島根県以西の日本海および瀬戸内海に分布。国外では朝鮮半島南岸、香港、台湾、インドネシアおよびオーストラリア北岸・西岸。体背側に5つの鞍状斑が、体側の下半部に9本の暗色横帯が並ぶ。側線有孔鱗数は38-44で日本産トラギス属魚類の中でもっとも少ない。沿岸浅所の砂礫底や岩礁域で普通に見られる。（松尾 怜）



コウライトラギス *Parapercis snyderi*, FRLM 11052, 91 mm SL, 志摩市志摩町御座

**スジトラギス**  
***Parapercis striolata***  
**(Weber 1913)**

駿河湾、高知県、三重県熊野灘および沖縄諸島東方沖に分布。国外ではオーストラリア北西岸、インドネシア、フィリピン、台湾および南シナ海沿岸。体の地色は淡い褐色で、体側上方の鱗は濃褐色に縁どられ、これが連続することにより全体に縦線様を呈する。背鰭の棘条部と軟条部の間に欠刻をもたない。大陸棚砂



スジトラギス *Parapercis striolata*, FRLM 33771, 151 mm SL, 熊野灘  
 泥底の深場に生息する稀種。  
 （松尾 怜）

**ホタルジャコ目（新称） Order Acropomatiformes**

**ムツ科 Family Scombropidae Gill 1862**

**ムツ属 Genus Scombrops Temminck & Schlegel 1845**

**ムツ**  
***Scombrops boops***  
**(Houttuyn 1782)**

南アフリカからモザンビーク、中国南シナ海・東シナ海沿岸、台湾、韓国、日本。日本では沖縄県から北海道に分布する。三重県では熊野灘の釣りや定置網で漁獲される。側線有効鱗数50-57、側線下方横列鱗列数10-15。（木村清志）



ムツ *Scombrops boops*, FRLM 29136, 242 mm SL, 志摩市志摩町和具沖